

ソフトウェア バージョン CE8.0
2016 年 2 月



Application Programmer Interface (API) リファレンス ガイド

Cisco TelePresence SX20 Codec

このガイドの内容

トップ メニュー バーと目次のエントリはすべてハイパーリンクになっており、クリックするとそれぞれのトピックに移動できます。

定期的にシスコの Web サイトにアクセスして、ユーザ マニュアルの最新版をチェックすることをお勧めします。

参照先: <http://www.cisco.com/go/sx-docs>

目次

| | | | |
|--------------------------------------|----|-----------------------------------|-----|
| はじめに | 3 | フィードバック メカニズム | 26 |
| このガイドについて | 4 | フィードバック式 | 26 |
| ユーザ ドキュメンテーションのダウンロード | 4 | 端末接続 | 27 |
| このバージョンの新機能 | 5 | HTTP の使用 | 28 |
| 新機能および改善点 | 5 | ステータスとコンフィギュレーションの取得 | 28 |
| CE8.[0] での xConfiguration の変更点 | 7 | コマンドとコンフィギュレーションの送信 | 28 |
| CE8.[0] での xCommand の変更点 | 12 | HTTP POST の使用 | 28 |
| CE8.[0] での xStatus の変更点 | 15 | HTTP 経由のコーデックからのフィードバック | 29 |
| API について | 18 | フィードバックへの登録 | 29 |
| API の基礎 | 19 | 端末モードから XML への変換 | 30 |
| API への接続 | 19 | 注意事項 | 31 |
| [パスワード (Password)] | 19 | xConfiguration コマンド | 32 |
| RS-232/シリアル接続 | 19 | xCommand コマンド | 82 |
| Telnet | 20 | xStatus コマンド | 120 |
| SSH | 20 | 付録 | 164 |
| HTTP/HTTPS | 20 | スタートアップスクリプトについて | 165 |
| API の出力 | 21 | SystemTools コマンド | 166 |
| 出力モード | 21 | 接続解除原因タイプについて | 168 |
| コマンドラインの使用 | 22 | シスコ Web サイト内のユーザ ドキュメンテーション | 169 |
| API コマンド | 22 | | |
| その他のコマンド | 22 | | |
| コマンドライン ショートカット | 23 | | |
| 検索 | 23 | | |
| 値のタイプおよびフォーマット | 23 | | |
| コマンド | 24 | | |
| コンフィギュレーション | 24 | | |
| ステータス | 24 | | |
| イベント | 25 | | |



第 1 章

はじめに

このガイドについて

このガイドは、TC ソフトウェアの Application Programmer Interface (API) の概要を示すとともに、以下の製品のコマンドライン コマンドのリファレンス ガイドとして機能します。

- Cisco TelePresence SX20 Codec

ユーザ ドキュメンテーションのダウンロード

ユーザ マニュアルはシスコの Web サイトからダウンロードできます。▶ <http://www.cisco.com/go/sx-docs> にアクセスしてください。

シスコの Web サイトでのマニュアルの検索方法に関するガイドラインについては、付録の「▶ [シスコ Web サイト内のユーザ ドキュメンテーション](#)」を参照してください。

このバージョンの新機能

ここでは、新しいシステム設定、変更されたシステム設定、Cisco Collaboration Endpoint ソフトウェア バージョン 8.[0] (CE8.[0]) の TC7.3 と比較した場合の新しい機能、および機能強化の概要について説明します。

CE ソフトウェアは、TC7 に基づいているため、構造や主な機能は TC ソフトウェアと同じです。

詳細については、ソフトウェアのリリース ノートを参照してください。

▶ <http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/telepresence-quick-set-series/tsd-products-support-series-home.html>



アップグレードする前に CE8.0 のアップグレード要件を十分考慮することが重要です。 そうしなければ、CE8.0 にアップグレードしても正しく機能せず、ダウングレードする必要が生じます。

新機能および改善点

製品

CE8.0 は以下の製品をサポートします。

- MX200 G2
- MX300 G2
- MX700
- MX800
- SX10 Quick Set
- SX20 Quick Set
- SX80

EX シリーズ、C シリーズ、および Profile シリーズの Cisco TelePresence 製品は CE ソフトウェアでサポートされません。これらの製品については、ソフトウェア バージョン TC7.3 以前を使用してください。

ユーザ インターフェイス

CE ソフトウェアを実行している製品は以下のユーザ インターフェイスを使用する必要があります。

- すべての製品で使用可能な Touch 10 コントローラ。
- SX10 および SX20 で使用可能な TRC6 リモコン。

Touch 8 コントローラと TRC5 リモコンはサポートされません。

SX20 には、TRC6 リモコンの導入に伴って新しいオンスクリーン表示が追加されました。現在、SX20 用のオンスクリーン表示は SX10 に合わせてあります。

Touch 8 コントローラまたは TRC5 リモコンを使用した SX20 を CE8.0 にアップグレードすると、TC7.3 以前にダウングレードするように通知されます。

API の変更点

API コマンドの数が削減されました。完全に削除されたコマンドもあれば、基礎となるアーキテクチャの変更に伴って構文が変更されたコマンドもあります。

API を使用している現行の統合は、新しい API に合わせてプログラムし直さなければならないかどうかを検討する必要があります。

この章では、変更点の詳細なリストと新しいコマンドのリストを参照できます。

コンテンツ シェアリング用のインテリジェント プロキシミティ

Cisco Proximity を使用すれば、デバイス (スマートフォン、タブレット、またはラップトップ) が範囲内に入ったときに自動的にビデオ システムとペアリングすることができます。この機能は、デフォルトで無効になっています。

Cisco Proximity は、クライアントへのコンテンツ シェアリング、クライアントからのコンテンツ シェアリング、および基本的なコール制御を提供します。これらのサービスは、デフォルトで無効になっています。

スマートフォンとタブレット (Android と iOS) またはラップトップ (Windows と OS X) 用の Cisco Proximity クライアントは、[▶ http://proximity.cisco.com](http://proximity.cisco.com) からダウンロードできます。スマートフォンとタブレット用のクライアントは、Google Play (Android) と Apple App Store (iOS) から入手することもできます。

マルチストリーム

マルチストリーム機能を使用すれば、ビデオ システムで解像度が異なる複数のビデオ ストリームを同時に送受信することができます。ビデオ システムは、使用可能なすべての画面により適合するようにレイアウトをローカルで編成します。

複数の参加者との会議では、この機能によって、レイアウト制御に関するユーザ エクスペリエンスが向上します。マルチスクリーン システムは、マルチストリーム対応会議に参加しているときにすべての画面を利用できます。また、すべてのシステムにコンテンツを提供して共有できるようにレイアウトが改善されます。

このリリースでは、マルチストリームがデフォルトでオフになっています。最適なエクスペリエンスを提供するために、Cisco UCM 11.0.0 以降と、TelePresence Server および TelePresenceConductor の最新バージョンをお勧めします。

PIN コード保護

画面上の [詳細設定 (Advanced Settings)] メニューは、権限のないユーザがビデオ システムの設定を変更できないように PIN コードで保護することができます。

解像度の変更点

Collaboration Endpoint ソフトウェアは、16:9 の解像度をサポートするディスプレイのみをサポートします。

リモート モニタリング

セキュリティを強化するために、ビデオ システムにリモート モニタリング オプション キーがインストールされている場合は、ビデオ システムの Web インターフェイスからしかローカルおよび遠端ビデオ ストリームのスナップショットを撮ることができません。

リモート モニタリングは、オプション キーを追加してシステムをリブートすることによって有効になります。

ビデオ システムのユーザには警告メッセージやインジケータが送信されません。システム管理者がカメラや画面を監視および制御する必要があることをユーザに適切な方法で通知してください。

削除された機能

- MultiWay はサポートされなくなりました。代わりに、CUCM アドホック会議またはホスト型会議が使用できます。
- Cisco CTMS はサポートされなくなりました。代わりに、他のマルチポイント会議ソリューション (Cisco TelePresence Server, Cisco TelePresence MCU, Cisco TelePresence Conductor など) が使用できます。
- MediaNet はサポートされなくなりました。

CE8.[0] での xConfiguration の変更点

新しい構成

Conference MultiStream Mode
Proximity Mode
Proximity Services CallControl
Proximity Services ContentShare FromClients
Proximity Services ContentShare ToClients

削除されたコンフィギュレーション

<path> * は、<path> で始まるすべてのコンフィギュレーションが削除されたことを意味します。

Audio Input HDMI [1] Mode
Audio Microphones Mute Enabled
Audio Volume
Cameras Camera [n] DHCP
Cameras Camera [n] Flip
Cameras Camera [n] MotorMoveDetection
Cameras PowerLine Frequency
Conference [1] ActiveControl Mode
Conference [1] CallProtocollPStack
Conference [1] FarEndControl SignalCapability
Conference [1] IncomingMultisiteCall Mode
Conference [1] MicUnmuteOnDisconnect Mode
Conference [1] Multipoint Mode
Conference [1] Presentation *
Conference [1] VideoBandwidth *
Experimental *
FacilityService *
H323 Profile [1] Gatekeeper Discovery

H323 Profile [1] PortAllocation
ログイン モード
Network [1] DHCP RequestTFTPServerAddress
Network [1] TrafficControl Mode
NetworkServices CTMS Encryption
NetworkServices CTMS Mode
NetworkServices HTTPS Mode
NetworkServices HTTPS OCSP *
NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate
NetworkServices HTTPS VerifyServerCertificate
NetworkServices Medianet Metadata
NetworkServices MultiWay *
NetworkServices SSH AllowPublicKey
NetworkServices XMLAPI Mode
Peripherals Pairing *
RTP *
Security *
SIP ANAT
SIP AuthenticateTransferror
SIP OCSP *
SIP PreferredIPMedia
SIP PreferredIPSignaling
SIP プロファイルの[1]行
SIP Profile [1] Mailbox
SIP Profile [1] Outbound
SIP Profile [1] Proxy [n] Discovery
SIP Profile [1] TlsVerify

SIP Profile [1] Turn BandwidthProbe
SIP Profile [1] Turn DiscoverMode
SIP Profile [1] Turn DropRflx
SIP Profile [1] Type
SystemUnit CallLogging Mode
SystemUnit MenuLanguage
Time OlsonZone
UserInterface OSD EncryptionIndicator
UserInterface OSD InputMethod Cyrillic
UserInterface OSD InputMethod InputLanguage
UserInterface TouchPanel DefaultPanel
UserInterface UserPreferences
UserInterface Wallpaper
Video AllowWebSnapshots
Video Input Connector [n] DviType
Video Input Connector [n] OptimalDefinition *
Video Input Connector [n] RGBQuantizationRange
Video Input Source [n] Connector
Video Layout DisableDisconnectedLocalOutputs
Video Layout LocalLayoutFamily
Video Layout PresentationDefault View
Video Layout RemoteLayoutFamily
Video Layout ScaleToFrame
Video Layout ScaleToFrameThreshold
Video Layout Scaling
Video OSD AutoSelectPresentationSource
Video OSD CallSettingsSelection
Video OSD LanguageSelection

Video OSD LoginRequired
Video OSD MenuStartupMode
Video OSD MissedCallsNotification
Video OSD Mode
Video OSD MyContactsExpanded
Video OSD TodaysBookings
Video OSD VirtualKeyboard
Video OSD WallpaperSelection
Video Output Connector [n] Location HorizontalOffset
Video Output Connector [n] Location VerticalOffset
Video Output Connector [n] RGBQuantizationRange
Video PIP *
Video Selfview
Video SelfviewPosition

変更されたコンフィギュレーション

NetworkServices HTTP Mode

旧: <Off / On>
デフォルト値: On

新: <Off / HTTP+HTTPS / HTTPS>
デフォルト値: HTTP+HTTPS

Phonebook Server[n] Type

旧: <VCS / TMS / Callway / CUCM>
デフォルト値: TMS

新: <Off / VCS / TMS / CUCM>
デフォルト値: Off

Provisioning Mode

旧: <Off / TMS / VCS / Callway / CUCM / Auto / Edge>

新: <Off / TMS / VCS / CUCM / Auto / Edge>

Standby BootAction

旧: <None / Preset1 / Preset2 / Preset3 / Preset4 / Preset5 / Preset6 / Preset7 / Preset8 / Preset9 / Preset10 / Preset11 / Preset12 / Preset13 / Preset14 / Preset15 / RestoreCameraPosition / DefaultCameraPosition>
 新: <None / RestoreCameraPosition / DefaultCameraPosition>

Standby WakeupAction

旧: <None / Preset1 / Preset2 / Preset3 / Preset4 / Preset5 / Preset6 / Preset7 / Preset8 / Preset9 / Preset10 / Preset11 / Preset12 / Preset13 / Preset14 / Preset15 / RestoreCameraPosition / DefaultCameraPosition>
 新: <None / RestoreCameraPosition / DefaultCameraPosition>

タイムゾーン

変更: タイムゾーンのリストが更新されています。値スペースの情報は、tz データベース (別名: IANA タイムゾーン データベース) から取得しています。

Video Input Connector [n] InputSourceType

旧: <other / camera / PC / DVD / document_camera / whiteboard>
 新: <other / camera / PC / mediaplayer / document_camera / whiteboard>

Video Input Connector [n] PresentationSelection

旧: <Manual / Automatic / OnConnect>
 新: <Manual / OnConnect>

Video Output Connector [n] Resolution

旧: <Auto / 1024_768_60 / 1280_1024_60 / 1280_720_50 / 1280_720_60 / 1920_1080_50 / 1920_1080_60 / 1280_768_60 / 1360_768_60 / 1366_768_60>
 新: <Auto / 1280_720_50 / 1280_720_60 / 1920_1080_50 / 1920_1080_60>

名前が変更されたコンフィギュレーション

Audio SoundsAndAlerts KeyTones Mode

変更後: UserInterface KeyTones Mode

Cameras Camera [n] Backlight

変更後: Cameras Camera [n] Backlight DefaultMode

Cameras Camera [n] Brightness Level

変更後: Cameras Camera [n] Brightness DefaultLevel

Conference [1] AutoAnswer Delay

変更後: Conference AutoAnswer Delay

Conference [1] AutoAnswer Mode

変更後: Conference AutoAnswer Mode

Conference [1] AutoAnswer Mute

変更後: Conference AutoAnswer Mute

Conference [1] DefaultCall Protocol

変更後: Conference DefaultCall Protocol

Conference [1] DefaultCall Rate

変更後: Conference DefaultCall Rate

Conference [1] DoNotDisturb DefaultTimeout

変更後: Conference DoNotDisturb DefaultTimeout

Conference [1] Encryption Mode

変更後: Conference Encryption Mode

Conference [1] FarEndControl Mode

変更後: Conference FarEndControl Mode

Conference [1] MaxReceiveCallRate

変更後: Conference MaxReceiveCallRate

Conference [1] MaxTotalReceiveCallRate

変更後: Conference MaxTotalReceiveCallRate

Conference [1] MaxTotalTransmitCallRate

変更後: Conference MaxTotalTransmitCallRate

Conference [1] MaxTransmitCallRate

変更後: Conference MaxTransmitCallRate

H323 Profile [1] Authentication LoginName

変更後: H323 Authentication LoginName

H323 Profile [1] Authentication Mode

変更後: H323 Authentication Mode

H323 Profile [1] Authentication Password

変更後: H323 Authentication Password

H323 Profile [1] CallSetup Mode

変更後: H323 CallSetup Mode

H323 Profile [1] Encryption KeySize

変更後: H323 Encryption KeySize

H323 Profile [1] Gatekeeper Address

変更後: H323 Gatekeeper Address

H323 Profile [1] H323Alias E164

変更後: H323 H323Alias E164

H323 Profile [1] H323Alias ID

変更後: H323 H323Alias ID

NetworkServices NTP Address

変更後: NetworkServices NTP Server [n] Address

SIP Profile [1] Authentication [1] LoginName

変更後: SIP Authentication UserName

SIP Profile [1] Authentication [1] Password

変更後: SIP Authentication Password

SIP Profile [1] DefaultTransport

変更後: SIP DefaultTransport

SIP Profile [1] DisplayName

変更後: SIP DisplayName

SIP Profile [1] Ice DefaultCandidate

変更後: SIP Ice DefaultCandidate

SIP Profile [1] Ice Mode

変更後: SIP Ice Mode

SIP Profile [1] Proxy [n] Address

変更後: SIP Proxy [n] Address

SIP Profile [1] Turn Password

変更後: SIP Turn Password

SIP Profile [1] Turn Server

変更後: SIP Turn Server

SIP Profile [1] Turn UserName

変更後: SIP Turn UserName

SIP Profile [1] URI

変更後: SIP URI

SystemUnit ContactInfo Type

変更後: UserInterface ContactInfo Type

Video CamCtrlPip CallSetup Duration

変更後: Video Selfview OnCall Duration

Video CamCtrlPip CallSetup Mode

変更後: Video Selfview OnCall Mode

Video DefaultPresentationSource

変更後: Video Presentation DefaultSource

Video Input Source [n] CameraControl Camerald

変更後: Video Input Connector [n] CameraControl Camerald

Video Input Source [n] CameraControl Mode

変更後: Video Input Connector [n] CameraControl Mode

Video Input Source [n] Name

変更後: Video Input Connector [n] Name

Video Input Source [n] PresentationSelection

変更後: Video Input Connector [n] PresentationSelection

Video Input Source [n] Quality

変更後: Video Input Connector [n] Quality

Video Input Source [n] Type

変更後: Video Input Connector [n] InputSourceType

Video Input Source [n] Visibility

変更後: Video Input Connector [n] Visibility

Video MainVideoSource

変更後: Video DefaultMainSource

Video OSD Output

変更後: UserInterface OSD Output

Video Output HDMI [n] CEC Mode

変更後: Video Output Connector [n] CEC Mode

Video Output HDMI [n] MonitorRole

変更後: Video Output Connector [n] MonitorRole



Video Output HDMI [n] OverscanLevel

[変更後](#): Video Output Connector [n] OverscanLevel

Video Output HDMI [n] Resolution

[変更後](#): Video Output Connector [n] Resolution

Video SelfviewDefault FullscreenMode

[変更後](#): Video Selfview Default FullscreenMode

Video SelfviewDefault Mode

[変更後](#): Video Selfview Default Mode

Video SelfviewDefault OnMonitorRole

[変更後](#): Video Selfview Default OnMonitorRole

Video SelfviewDefault PIPPosition

[変更後](#): Video Selfview Default PIPPosition

CE8.[0] での xCommand の変更点

新しいコマンド

Camera Preset ActivateDefaultPosition
Camera Preset Show
Proximity Services Activate
Proximity Services Deactivate
SystemUnit OptionKey Remove
SystemUnit OptionKey RemoveAll
UserManagement User Passphrase Change
UserManagement User Passphrase Set

削除されたコマンド

*xCommand <path> ** は、*xCommand <path>* で始まるすべてのコンフィギュレーションが削除されたことを意味します。

Audio Sound Play
Audio Sound Stop
Audio VuMeter *
Camera PanTiltReset
Camera PositionActivateFromPreset
Camera PositionSet
Camera Preset Snapshot *
CamCtrlPip
Experimental *
FacilityService Dial
FarEndControl Preset Store
Key *
Logging ExtendedLogging *
Message Echo

Message FarendMessage
Presentation Byod *
Provisioning CUCM CAPF OperationStart
Provisioning CUCM ExtensionMobility *
Provisioning CUCM ITL Show
Security FIPSMODE Activate
SystemUnit AdminPassword Set
SystemUnit ConfigurationProfile *
UserInterface OSD Close
UserInterface ScreenShot *
Video AutoPresentationStart *
Video Layout SetPresentationView
Video OSD Close

変更されたコマンド

Call Accept
削除: CallType
コールの切断
旧: CallId (r): <0 - 65534>
新: CallId: <0 - 65534>
保留
旧: CallId (r): <0 - 65534>
新: CallId: <0 - 65534>
Camera PositionReset
新: Axis: <All/Focus/PanTilt/Zoom>
Camera Preset Edit
新: DefaultPosition: <False/True>

Camera Preset List

- 新: CamerId: <1 - 7>
- 新: DefaultPosition: <False/True>
- 削除: PresetId

Camera Preset Store

- 新: DefaultPosition: <False/True>

HttpFeedback Deregister

- 旧: 必要なユーザ ロール: ADMIN
- 新: 必要なユーザ ロール: USER

HttpFeedback Register

- 旧: 必要なユーザ ロール: ADMIN
- 新: 必要なユーザ ロール: USER

Peripherals List

- 旧: Type: <All/BluetoothHeadset/ControlSystem/ISDNLink/Other/TouchPanel>
- 新: Type: <All/ControlSystem/ISDNLink/Other/TouchPanel>

Presentation Stop

- 新: PresentationSource: <1 - 4>

UserInterface Message Alert Clear

- 旧: 必要なユーザ ロール: ADMIN
- 新: 必要なユーザ ロール: USER

UserInterface Message Prompt Clear

- 旧: 必要なユーザ ロール: ADMIN
- 新: 必要なユーザ ロール: USER

UserInterface Message TextLine Clear

- 旧: 必要なユーザ ロール: ADMIN
- 新: 必要なユーザ ロール: USER

UserManagement User Passphrase Set

- 新: YourPassphrase: <S: 0, 255>

名前が変更されたか、置き換えられたコマンド

ブート

- 変更後: SystemUnit Boot

Call DisconnectAll

- 統合先: Call Disconnect

Call HoldAll

- 統合先: Call Hold

Conference ActiveSpeaker Reset

- 変更後: Conference SpeakerLock Release

Conference ActiveSpeaker Set

- 変更後: Conference SpeakerLock Set

DTMFSend

- 変更後: Call DTMFSend

FarEndControl Camera Move

- 変更後: Call FarEndControl Camera Move

FarEndControl Camera Stop

- 変更後: Call FarEndControl Camera Stop

FarEndControl Preset Activate

- 変更後: Call FarEndControl RoomPreset Activate

FarEndControl Source Select

- 変更後: Call FarEndControl Source Select

Message *

- 変更後: UserInterface Message *

Preset *

- 変更後: RoomPreset *

SystemUnit DateTime Get

- 変更後: Time DateTime Get

SystemUnit DateTime Set

- 変更後: Time DateTime Set

旧: Year: <2008..2037>

新: Year: <2015..2037>

xCommand SystemUnit Diagnostics Run

- 変更後: xCommand Diagnostics Run

xCommand Video Presentation Set

- 変更後: xCommand Video PresentationPIP Set



xCommand Video PictureLayoutSet

変更後: xCommand Video Layout LayoutFamily Set

xCommand Video PIP ActiveSpeaker Set

変更後: xCommand Video ActiveSpeakerPIP Set

xCommand Video PIP Presentation Set

変更後: xCommand Video PresentationPIP Set

CE8.[0] での xStatus の変更点

新しいステータス

Call [n] HoldReason
 Conference Call [n] Capabilities FarendMessage Mode
 Conference Call [n] Capabilities IxChannel Status
 H323 Mode Reason
 Proximity Services Availability
 Standby State
 SIP Mailbox URI
 SystemUnit Software OptionKeys RemoteMonitoring
 UserInterface ContactInfo ContactMethod [n] Number
 UserInterface ContactInfo Name

削除されたステータス

*xStatus <path> ** は、*xStatus <path>* で始まるすべてのコンフィギュレーションが削除されたことを意味します。

Call [n] CallPriority
 Call [n] ModifyState
 Call [n] SecurityStatus
 CallDiagnostics [n] * (以前の Diagnostics Call [n] *)
 Cameras Camera [n] DownloadProgress (以前の Camera [n] DownloadProgress)
 Cameras Camera [n] HardwareID (以前の Camera [n] HardwareID)
 Cameras Camera [n] IpAddress (以前の Camera [n] IpAddress)
 Cameras Camera [n] Position * (以前の Camera [n] Position *)
 Cameras Camera [n] UpgradeStatus (以前の Camera [n] UpgradeStatus)
 Conference Call [n] Appearance (以前の Conference Site [n] Appearance)
 Conference Call [n] AttendedTransfer (以前の Conference Site [n] AttendedTransfer)
 Conference Call [n] CalText (以前の Conference Site [n] CalText)
 Conference Call [n] Preserved (以前の Conference Site [n] Preserved)

Conference Call [n] SecurityStatus (以前の Conference Site [n] SecurityStatus)
 Conference Call [n] UnattendedTransfer (以前の Conference Site [n] UnattendedTransfer)
 Conference Line [n] Appearance [n] *
 Conference LoudestSite
 Conference Presentation LastLocalSource
 Conference Presentation LocalSendingMode
 Conference Presentation LocalSource
 Conference Presentation Protocol
 Conference Presentation Resolution *
 Conference SelectedCallProtocol
 Conference Site [n] ConferenceExtended
 Diagnostics LastRun (以前の SystemUnit Diagnostics LastRun)
 Experimental *
 H320 *
 ICE *
 Logging *
 MediaChannels Call [n] *
 Network [n] IPv4 DHCP *
 Network [n] IPv4 DNS *
 Network [n] MTU
 Peripherals ConnectProgress [n] *
 Peripherals ControllableDevice [n] *
 Provisioning CUCM *
 Provisioning NextRetry
 Provisioning Reason
 Provisioning Server
 Provisioning Software PreviousUpgrade *

Provisioning Software UpgradeStatus SecondsUntilUpgrade

RoomPreset [n] * (以前の Preset [n] *)

Security Audit Server Port

SystemUnit Hardware BootSoftware

SystemUnit Hardware MainBoard *

SystemUnit Hardware Module CompatibilityLevel

SystemUnit Hardware Module Identifier

SystemUnit Hardware MonitoringSoftware

SystemUnit Hardware TemperatureThreshold

SystemUnit Hardware UDI

SystemUnit MenuLogo

SystemUnit Software Application

SystemUnit State Subsystem Application

SystemUnit State System

Time ZoneOlson

Video Input LastConnectedSource

Video Layout *

変更されたステータス

Call [n] Protocol

旧: String

新: <H320/H323/SIP>

Conference Multipoint Mode

旧: <Auto/CUCMMediaResourceGroupList/MultiSite/MultiWay/Off>

新: <Auto/CUCMMediaResourceGroupList/MultiSite/Off>

Diagnostics Message [n] Type

新: TemperatureCheck、AudioInternalSpeakerDisabled、および ContactInfoMismatch が値スペースに追加

H323 Mode Status

旧: String

新: <Enabled/Disabled>

Peripherals ConnectedDevice [n] Status

旧: <Connected/ResponseTimedOut>

新: <Connected/ResponseTimedOut/Unpairing/LostConnection>

Peripherals ConnectedDevice [n] Type

旧: <BluetoothHeadset/Byod/Camera/ControlSystem/ISDNLink/Other/SpeakerTrack Byod/TouchPanel>

新: <Byod/Camera/ControlSystem/ISDNLink/Other/SpeakerTrack Byod/TouchPanel>

Peripherals ConnectedDevice [n] UpgradeStatus

旧: <Downloading/Failed/Installing/None/Succeeded>

新: <Downloading/Failed/Installing/InstallationReady/None/Succeeded/Rebooting/Retrying/Aborted/Paused>

Provisioning Status

旧: <AuthenticationFailed/ConfigError/Failed/Idle/NeedConfig/Provisioned>

新: <AuthenticationFailed/ConfigError/Failed/Idle/NeedConfig/Provisioning/Provisioned>

SystemUnit Software OptionKeys MultiSite

旧: String

新: <False/True>

SystemUnit Software OptionKeys PremiumResolution

旧: String

新: <False/True>

名前が変更されたステータス

xStatus <path> * は、*xStatus <path>* で始まるすべてのコンフィギュレーションが削除されたことを意味します。

Camera [n] *

変更後: Cameras Camera [n] *

Conference ActiveSpeaker Manual SiteId

変更後: Conference SpeakerLock CallId

Conference ActiveSpeaker Mode

変更後: Conference SpeakerLock Mode

Conference ActiveSpeaker Siteld

変更後: Conference ActiveSpeaker CallId

Conference Presentation Instance[n] LocalSendingMode

変更後: Conference Presentation LocalInstance[n] SendingMode

Conference Presentation Instance[n] LocalSource

変更後: Conference Presentation LocalInstance[n] Source

Conference Presentation Siteld

変更後: Conference Presentation CallId

Conference Site [n] *

変更後: Conference Call [n] *

Conference Site [n] Hold

変更後: Conference Call [n] Capabilities Hold

NetworkServices NTP Address

変更後: NetworkServices NTP Server [n] Address

SIP Profile [n] *

変更後: SIP *

SIP Profile [n] DirectoryURI Alias [n] URI

変更後: SIP AlternateURI Alias [n] URI

SIP Profile [n] DirectoryURI Primary URI

変更後: SIP AlternateURI Primary URI

SystemUnit ContactInfo

変更後: UserInterface ContactInfo ContactMethod [n] Number

SystemUnit ContactName

変更後: UserInterface ContactInfo Name

SystemUnit Diagnostics Message [n] *

変更後: Diagnostics Message [n] *

SystemUnit Software MaxAudioCalls

変更後: Capabilities Conference MaxAudioCalls

SystemUnit Software MaxVideoCalls

変更後: Capabilities Conference MaxVideoCalls

SystemUnit State MaxNumberOfActiveCalls

変更後: Capabilities Conference MaxActiveCalls

SystemUnit State MaxNumberOfCalls

変更後: Capabilities Conference MaxCalls

Video Input Source [n] Resolution FormatStatus

変更後: Video Input Source [n] FormatStatus

Video Input Source [n] Resolution FormatType

変更後: Video Input Source [n] FormatType

Video PIP ActiveSpeaker Position

変更後: Video ActiveSpeaker PIPPosition

Video PIP Presentation Position

変更後: Video Presentation PIPPosition

第 2 章

API について

API の基礎

この章では、コーデック API によってサポートされるメカニズムの概要について説明します。

ここでは、API へのアクセス方法、コマンドラインの使用法、および API の各部分の機能について説明しています。コーデックで利用可能なフィードバック機能の使用法については、この章を参照してください。

API は次の 4 つの主要グループで構成されます。

- コマンド
- コンフィギュレーション
- ステータス
- イベント

この 4 つのグループは、階層的に整理されているため、関連機能を簡単に見つけることができます。以降の章では、コマンド、コンフィギュレーション、およびステータスすべての完全なリストを確認できます。

API への接続

コーデック API にアクセスする方法は複数あります。選択した方法に関係なく、API の構造は同じです。アプリケーションに適した接続方法を選択してください。始めるに当たって、方法によっては有効にする前にコンフィギュレーションを変更しなければならない場合があります。ここで方法の詳細を確認してください。

パスワードを除く以下のコンフィギュレーションは、Web インターフェイス上の [システム設定 (System Configuration)] メニューまたはコマンドライン インターフェイスから設定することができます。例はすべてコマンドライン インターフェイス用です。

[パスワード (Password)]

ビデオ システムは完全な資格情報を持つデフォルトのユーザ アカウントに提供されます。ユーザ名は *admin* です。最初はデフォルトユーザのパスワードは設定されていません。

システム設定へのアクセスを制限するために、必ず、管理者ユーザ用のパスワードを設定する必要があります。加えて、同様のクレデンシャルを持つ他のユーザ用のパスワードも設定する必要があります。

パスワードは、コーデックの Web インターフェイス上で設定できます。Web ブラウザを開いて、アドレス バーにビデオ システムの IP アドレスを入力し、ログインします。右上にあるユーザ名をクリックして、ドロップダウン メニューから [パスワード変更 (Change password)] を選択します。

RS-232/シリアル接続

これは、IP アドレス、DNS、またはネットワークがなくても使用できるため、インテグレータがシスコ製品に接続する場合に最も使用される接続の 1 つです。

コーデックのコンフィギュレーション

シリアル接続の場合に変更可能な 2 つのコンフィギュレーション (ボー レートと、ログインが必要かどうか) があります。これらの設定を有効にするには、コーデックをリブートする必要があります。

```
xConfiguration SerialPort BaudRate:
<9600/19200/38400/57600/115200>
xConfiguration SerialPort LoginRequired: <Off/On>
```

接続

SX20 コーデックの場合、USB ポートに接続するために USB/RS-232 アダプタが必要です。

注:

- セキュリティ上の理由から、パスワード入力要求がデフォルトでオンになっていますが、必要に応じてオフにすることができます。
- デフォルト ボー レートは 38400 に設定されます。これは、コーデックが大量のフィードバックを返す可能性があるためです。9600 ボー レートを使用した場合は、統合が低速化する可能性があります。したがって、この速度以上の接続を維持することをお勧めします。
- 初期ブート シーケンスで、コーデックは、設定されたアプリケーション ボー レートに関係なく、38400 のボー レートを使用します。

Telnet

Telnet は、TCP/IP の世界のシリアル プロトコルに相当します。Telnet はデフォルトで無効になっています。Telnet を使用してコーデックに接続する前に、それを有効にする必要があります。

コーデック設定

Telnet サービスを有効にするには、コーデック上で次の設定を構成します。この設定を変更しても、デバイスをリポートする必要はありませんが、有効になるまで少し時間がかかる場合があります。

```
xConfiguration NetworkServices Telnet Mode: On
```

SSH

SSH は、セキュアな TCP/IP 接続であり、コーデックではデフォルトで有効になっています。無効にすることもできます。SSH 経由で API にアクセスするには、PuTTY などの SSH クライアントが必要です。

HTTP/HTTPS

HTTP/HTTPS はコネクションレス プロトコルのため、永続的接続はありません。HTTP 経由で API と通信する方法は複数あります。

コーデック設定

HTTP サービスと HTTPS サービスを有効または無効にするには、コーデック上で次の設定を構成します。これらの設定を変更したら、デバイスをリポートする必要があります。

```
xConfiguration NetworkServices HTTP Mode:  
<Off/On>
```

```
xConfiguration NetworkServices HTTPS Mode:  
<Off/On>
```

接続中 (Connecting)

お使いの Web ブラウザでコーデックの IP アドレスまたはホスト名を入力することによって、API を検査することができます。Web インターフェイスで、メニュー セクションの [システム設定 (System Configuration)] > [API] > [XML API] で API マニュアルを参照できます。HTTP POST 方式と HTTP GET 方式は、コマンドの実行に使用され、コーデックからフィードバックを取得します。これについては、このドキュメントの「[▶「HTTP の使用」、28 ページ](#)」で説明します。

API の出力

xPreferences は、RS 232、Telnet、および SSH セッションの初期設定を構成するために使用します。

出力モード

- **Terminal**: 回線ベースの制御システムで使用するための回線ベースの出力。
- **XML**: XML を解釈可能な制御システムで使用するための XML 出力。
- **JSON**: JSON 形式は Web ベースのシステムと統合する場合に便利です。

デフォルトの出力モードは **Terminal** です。これを変更するには、各セッションの初期設定を個別に定義する必要があります。このガイドの例は端末モードの場合です。

出力モードを XML に設定するには、次のコマンドを発行します。

```
xPreferences outputmode xml
```

端末モードに戻すには、次のコマンドを発行します。

```
xPreferences outputmode terminal
```

例: 端末モードの Layout コマンド

```
xCommand Video Layout AssignCall CallId: 2 LayoutId: 1
```

例: XML モードの Layout コマンド

```
<Command>  
<Video>  
<Layout>  
<AssignCall command="True">  
<CallId>2</CallId>  
<LayoutId>1</LayoutId>  
</AssignCall>  
</Layout>  
</Video>  
</Command>
```

コマンドラインの使用

ヘルプ

サポートされているすべてのトップレベル コマンドのリストを入力するには、RS-232、Telnet、または SSH を使用してテレプレゼンス システムに接続してから **?** または **help** を入力します (例 1)。

Bye

bye コマンドを入力すると、コマンドライン インターフェイスが閉じます。

API コマンド

xConfiguration

コンフィギュレーションは、システム名やネットワーク設定などのシステム設定です。これらはブート後も維持されます。▶「[コンフィギュレーション](#)」、[24 ページ](#)を参照してください。

xCommand

コマンドは、コーデックに、番号のダイヤリングや電話帳の検索などのアクションの実行を指示します。▶「[コマンド](#)」、[24 ページ](#)を参照してください。

xStatus

ステータスには、接続されたコール数、ゲートキーパー登録のステータス、接続された入力ソース数と出力ソース数といったコーデックの現在の状態が含まれます。▶「[ステータス](#)」、[24 ページ](#)を参照してください。

xFeedback

Feedback コマンドは、監視するコンフィギュレーションとステータスの階層の部分指定のために使用します。フィードバックは、指定された RS 232、Telnet、または SSH セッションでのみ発行されます。複数のセッションを使用してコーデックに接続している場合は、各セッションのフィードバックを個別に定義する必要があります。▶「[フィードバック メカニズム](#)」、[26 ページ](#)を参照してください。

例 1:

```
?
- User Commands -

help          xcommand      xconfiguration  xevent         xfeedback
xgetxml       xdocument     xpreferences    xtransaction   xstatus
bye           echo          log             systemtools
OK
```

xPreferences

xPreferences コマンドは、RS 232、Telnet、および SSH セッションの初期設定を構成するために使用します。▶「[API の出力](#)」、[21 ページ](#)を参照してください。

Echo <on/off>

エコーが**オン**に設定されている場合は、コマンドライン インターフェイスにテキストを入力すると、そのキー入力が表示されます。

エコーが**オフ**に設定されている場合は、コマンドライン インターフェイスにテキストを入力しても、ユーザ入力が表示されません。

xEvent

xEvent コマンドは、フィードバックに使用可能なイベントに関する情報を返します。▶「[イベント](#)」、[25 ページ](#)を参照してください。

xGetxml

xGetxml 要求は、要求に付加されたロケーションパラメータに基づいて XML ドキュメントを返します。式と一致する要素 (またはドキュメント全体) が返されます。▶「[フィードバック メカニズム](#)」、[26 ページ](#)を参照してください。

その他のコマンド

Systemtools

systemtools コマンドは、管理統制と診断用のコマンドラインツールのセットです。このコマンドは、シスコのテクニカル サポートと一緒に高度なトラブルシューティングに使用できます。Systemtools はプログラミング API の一部ではありません。▶「[SystemTools コマンド](#)」、[166 ページ](#)を参照してください。

Log

log コマンドは高度なログを有効にするために使用します。これはシステムのデバッグにのみ使用します。

コマンドライン ショートカット

クライアントがサポートしていれば、いくつかの時間節約ショートカットを使用できます。

- コマンドまたは引数を完成させるための Tab 補完。
- コマンド履歴をナビゲートするための上矢印キーと下矢印キー。
- **<CTRL-a>**: 行の先頭にジャンプします。
- **<CTRL-e>**: 行の末尾にジャンプします。
- **<CTRL-r>**: 増分コマンド履歴検索。
- **<CTRL-w>**: 現在の行を消去します。

検索

// を使用して、ステータスまたはコンフィギュレーション階層内の要素を検索できます (例 1)。

複数の // を結合することもできます (例 2)。

注: 検索ショートカットは、API の検査に最適ですが、アプリケーションでは使用しないでください。より新しいファームウェア リリースにアップグレードする場合は、必ず、完全な /パスを使用してコマンドの曖昧な表現を避けることをお勧めします。

例 1:

OUT と HDMI で始まる単語を含むすべてのコンフィギュレーションを列挙します。

```
xconfiguration //out//hdmi
*c xConfiguration Audio Output HDMI 1 Level: 0
*c xConfiguration Audio Output HDMI 1 Mode: On
*c xConfiguration Audio Output HDMI 2 Level: 0
*c xConfiguration Audio Output HDMI 2 Mode: Off
** end
```

例 2:

入力と出力の両方の接続されたすべての送信元の解像度幅を取得します。

```
xStatus //vid//res//wid
*s Video Input Source 1 Resolution Width: 1920
*s Video Input Source 2 Resolution Width: 0
*s Video Input Source 3 Resolution Width: 0
*s Video Input Source 4 Resolution Width: 0
*s Video Output Connector 1 Resolution Width: 1920
*s Video Output Connector 2 Resolution Width: 1280
*s Video Output Connector 3 Resolution Width: 1280
** end
```

値のタイプおよびフォーマット

システムは、次の値のタイプをサポートします。

- **整数値:** <x..y>
整数入力の有効範囲を定義します。x = 最小値、y = 最大値。
- **リテラル値:** <X/Y/./Z>
特定のコンフィギュレーションに使用可能な値を定義します。
- **文字列値:** <S: x, y>
このコンフィギュレーションの有効な入力は x ~ y 個の文字列であることを定義します。文字列にはさらにフォーマットと長さを指定する規則を定義できます。

スペースを含む入力値は引用符で囲む必要があります。

スペースを含むコンフィギュレーションとコマンドの値は引用符で囲む必要があります。スペースを含まない値には引用符は必要ありません。

例:

```
正:xCommand dial number: "my number contains spaces"
正:xCommand dial number: 12345
誤:xCommand dial number: my number contains spaces
```

大文字と小文字の区別

すべてのコマンドは大文字と小文字が区別されます。次のコマンドはすべて機能します。

```
XCOMMAND DIAL NUMBER: foo@bar.org
xcommand dial number: foo@bar.org
xCommand Dial Number: foo@bar.org
```

コマンド

コマンドは、コーデックに、番号のダイヤリングや電話帳の検索などのアクションの実行を指示します。すべてのコマンドがプレフィックスの `xCommand` で始まり、その後コマンドパスが続きます。

コマンドラインで「`xCommand ?`」と入力すると、すべてのトップレベル コマンドが列挙されます。

コマンドとそのパラメータの完全なリストを表示するには、コマンドラインで「`xCommand ??`」と入力します。

コマンド引数はキーと値のペアです。

`xCommand` を発行する場合は、コマンドが 1 つの引数と 1 つの必須パラメータで構成されます。このドキュメントでは、必須パラメータとオプションパラメータの両方を含む、すべての `xCommand` コマンドの使い方について説明します。オプションパラメータはカッコ付きで示します。

例: `xCommand Dial Number: 123`

- `xCommand` はコマンド プレフィックスです。実行されるコマンドは `Dial` です。
- この例には、1 つの引数 `Number: 123` が含まれています。`Number` がキーで、`123` が値です。キーと値のペアは「:」で区切ります。

コンフィギュレーション

コンフィギュレーションは、ブート後も維持されるシステム設定です。コマンドと同様に、コンフィギュレーションも階層で構成されます。

コマンドラインで「`xConfiguration ?`」と入力すると、すべてのトップレベル コンフィギュレーションが列挙されます。

「`xConfiguration ??`」と入力すると、すべてのコンフィギュレーションとその値スペースが列挙されます。

「`xConfiguration`」と入力すると、すべてのコンフィギュレーションとその現在値が列挙されます。一部のコンフィギュレーションだけを表示するには、`xConfiguration` の後ろにコンフィギュレーションパスの部分を 1 つ以上続けます。

例: Set the H323 Alias ID

入力:

```
xConfiguration H323 Profile 1 H323Alias ID:
"changed@company.com"
```

例: Get the H323 Alias ID

入力:

```
xConfiguration H323 Profile 1 H323Alias ID
```

結果:

```
*c xConfiguration H323 Profile 1 H323Alias ID:
"changed@company.com"
**end
```

ステータス

ステータスには、接続されたコール数、ゲートキーパー登録のステータス、接続された入力ソース数と出力ソース数といったコーデックの現在の状態が含まれます。

コマンドラインで「`xStatus ?`」と入力すると、すべてのトップレベルステータスが列挙されます。

「`xStatus`」と入力すると、すべてのステータスとその現在値が列挙されます。

一部のステータスだけを表示するには、次のように、`xStatus` の後ろにステータスパスの関連部分(アドレス式)を続けます。

```
xStatus <address expression>
```


イベント

イベントは、フィードバックに使用可能なイベントに関する情報を返します。この概要では、API で利用可能ないくつかのイベントの例を示します。

サポートされるイベント タイプの概要を表示するには、xEvent の後ろに `?`、`??`、または `help` を入力します。

- `xEvent ?` トップレベル イベントを列挙します。
- `xEvent ??` 使用可能なすべてのイベントを列挙します。
- `xEvent help` トップレベル イベントを列挙します。

イベントの結果はコーデックの状態によって異なります。

例 1: 発信コール通知

発信コール通知は、発信コールがダイヤルされるときに報告されるイベントです。コールに割り当てられた CallId を返します。

```
*e OutgoingCallIndication CallId: x
** end
```

例 2: コールの切断

コールの切断は、コールが切断されたときに報告されるイベントです。切断されたコールの CallId と切断理由を返します。

```
*e CallDisconnect CallId: x CauseValue: 0
CauseString: "" CauseType: LocalDisconnect
OrigCallDirection: "outgoing"
** end
```

例 3: コール成功

コール成功は、コールが正常に接続され、すべてのチャンネルが起動して確立されたときに報告されるイベントです。

```
*e CallSuccessful CallId: 132 Protocol: "h223"
Direction: "outgoing" CallRate: 768 RemoteURI:
"h223:integratorHQ@company.com" EncryptionIn:
"Off" EncryptionOut: "Off"
** end
```

例 4: FECC アクション要求

FECC アクション要求は、遠端が FECC コマンドを送信中に報告されるイベントです。

```
*e FeccActionInd Id: 132 Req: 1 Pan: 1 PanRight:
1 Tilt: 0 TiltUp: 0 Zoom: 0 ZoomIn: 0 Focus: 0
FocusIn: 0 Timeout: 300 VideoSrc: 0 m: 0
** end
```

例 5: TString メッセージの受信

TString メッセージの受信は、遠端が TString メッセージを送信し終わったときに報告されるイベントです。

```
*e TString CallId: 132 Message: "ee"
** end
```

例 6: SString メッセージの受信

SString メッセージの受信は、遠端が SString メッセージを送信し終わったときに報告されるイベントです。

```
*e SString String: "ee" Id: 132
** end
```

フィードバック メカニズム

アプリケーションとコーデックが同期された状態を安定して保持できるソリューションを構築するには、コーデックの状態が変化したときに報告するように通知システムをセットアップする必要があります。

API は以下に関する通知をサポートします。

- ・ コンフィギュレーションの変更
- ・ ステータスの変更
- ・ イベント通知

これらの通知は、ユーザが明示的にコーデックに送信するように指示しない限り、送信されません。ユーザは、アプリケーションに必要なすべてのフィードバックをサブスクライブする必要があります。これは、フィードバック式を登録することによって行われます。フィードバック式を登録する方法は、使用されている接続方法によって異なります。

HTTP を使用している場合は、フィードバックの処理方法がここで説明するものと若干異なります。詳細については、[▶「HTTP 経由のコーデックからのフィードバック」、29 ページ](#)を参照してください。

警告: コーデックは、特に、コールの接続または切断時に、大量のフィードバックを出力する可能性があります。したがって、必要なフィードバックのみをサブスクライブする必要があります。

ステータス フィードバックは `xFeedback register /Status` を発行して登録しないでください。このコマンドを発行すると、制御アプリケーションが処理すべきデータが多すぎて、性能が低下したり、予期せぬ動作が発生したりする可能性があります。

フィードバック式

フィードバックの登録時に使用される式は、XPath 言語のバリエーションです。この言語は XML ドキュメントからノードを選択する方法を記述します。CE ソフトウェアには 3 つの主要なフィードバックドキュメントが付属しています。

| マニュアル | API コマンド | パス |
|--------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| ステータス | <code>xStatus</code> | <code>/Status</code> |
| 設定 (Configuration) | <code>xConfiguration</code> | <code>/Configuration</code> |
| イベント | <code>xEvent</code> | <code>/Event</code> |

フィードバック登録用の構文:
`xFeedback register <path>`

ステータス フィードバックは `xFeedback register /Status` を発行して登録しないでください。

コンフィギュレーションの変更は、それほど頻繁には発生しないため、`xFeedback register /Configuration` を使用して登録する方法が安全です。

複数の例を参照することにより、この情報を使用したフィードバック式の構築方法を理解することができます。適切に式を検証するには、ブラウザで <http://<ip-address>/getxml?location=path> にアクセスするか、端末から `xgetxml <path>` を実行してから、フィードバックが必要なノードと出力が一致しているかをチェックします。

例 1: マイクのミュート ステータス。

端末クエリ

```
xStatus Audio Microphones Mute
*s Audio Microphones Mute: Off
** end
```

同等のフィードバック式

```
xFeedback register /Status/Audio/Microphones/Mute
```

例 2: すべてのビデオ入力コネクタの名前。

端末クエリ

```
xConfiguration Video Input Connector Name
*c xConfiguration Video Input Connector 1 Name:
  "NameA"
*c xConfiguration Video Input Connector 2 Name:
  "NameB"
*c xConfiguration Video Input Connector 3 Name:
  "NameC"
*c xConfiguration Video Input Connector 4 Name:
  "NameD"
*c xConfiguration Video Input Connector 5 Name:
  "NameE"
** end
```

同等のフィードバック式

```
xFeedback register /Configuration/Video/Input/
Connector/Name
```

例 3: ビデオ入力コネクタ 3 の名前。

端末クエリ

```
xConfiguration Video Input Connector 3 Name
*c xConfiguration Video Input Connector 3 Name:
  "NameC"
** end
```

同等のフィードバック式

```
xFeedback register /Configuration/Video/Input/
Connector[@item='3']/Name
```

端末接続

フィードバック サブスクリプションの管理

フィードバック式を登録、列挙、および登録解除するには、コマンドの xFeedback と対応するサブ コマンドを使用します。

登録された式は、現在アクティブな接続に対してのみ有効です。2 つの Telnet セッションを開き、一方のセッションでフィードバックを取得するために登録した場合は、もう一方のセッションでフィードバックを受信できません。これは、セッションから切断すると、再接続後にすべての式を再登録する必要があることも意味します。

最大 38 個の式を登録できます。

フィードバック出力

フィードバック出力は、xConfiguration コマンドと xStatus コマンドを使用してシステムに問い合わせたときに取得されるものと全く同じです。たとえば、コマンドラインでコマンドの xStatus Standby Active を発行すると、結果は次のようになります。

```
*s Standby Active: On
** end
```

ステータスの変更に関するフィードバックに登録した場合は、システムがスタンバイ モードに入ったときに取得されるフィードバックと全く同じになります。

```
*s Standby Active: On
** end
```

これは、デバイスに対してプログラミングしている場合は、1 つの形式だけを処理すれば済むことを意味します。

例: フィードバック サブスクリプションの管理

A: フィードバック式を登録します。

```
入力: xFeedback register /Status/Audio
結果: ** end
      OK
```

```
入力: xFeedback register /Event/CallDisconnect
結果: ** end
      OK
```

```
入力: xFeedback register /Configuration/Video/
      MainVideoSource
結果: ** end
      OK
```

B: 現在登録されている式を列挙します。

```
入力: xFeedback list
結果: /Configuration/Video/MainVideoSource
      /Event/CallDisconnect
      /Status/Audio
      ** end
      OK
```

C: フィードバック式を登録解除します。

```
入力: xFeedback deregister /Event/CallDisconnect
結果: ** end
      OK
```

```
入力: xFeedback deregister /Status/Audio
結果: ** end
      OK
```

D: 新しいフィードバック式を列挙します。

```
入力: xFeedback list
結果: /Configuration/Video/MainVideoSource
      ** end
      OK
```

HTTP の使用

コーデックは、HTTP および HTTPS 経由のコマンドとコンフィギュレーションの送信をサポートします。この方法でコンフィギュレーションとステータスを取得することもできます。このインターフェイスは、コマンドラインと同じ API ですが、XML 形式で表現します。

ステータスとコンフィギュレーションの取得

例 1: コーデック上のすべてのステータス エントリを取得します。

```
http://<ip-address>/getxml?location=/Status
```

例 2: コーデックの音声ステータスのみを取得します。

```
http://<ip-address>/getxml?location=/Status/Audio
```

例 3: コーデックのすべてのコンフィギュレーションを取得します。

```
http://<ip-address>/getxml?location=/Configuration
```

例 4: コーデックのすべてのビデオ コンフィギュレーションを取得します。

```
http://<ip-address>/getxml?location=/Configuration/Video
```

URL チート シート

次の表に、HTTP 経由で API にアクセスするときに使用される主な URL を示します。

| 方法 | URL | 説明 |
|------|--|----------------------------|
| GET | http://<ip-address>/status.xml | 完全なステータス ドキュメント |
| GET | http://<ip-address>/configuration.xml | 完全なコンフィギュレーション ドキュメント |
| GET | http://<ip-address>/command.xml | 完全なコマンド ドキュメント |
| GET | http://<ip-address>/valuespace.xml | 完全な値スペース ドキュメント |
| GET | http://<ip-address>/getxml?location=<path> | パスに基づいてドキュメントを取得 |
| POST | http://<ip-address>/putxml | HTTP ボディ内のコンフィギュレーションとコマンド |

コマンドとコンフィギュレーションの送信

HTTP POST の使用

コンフィギュレーションとコマンドをコーデックに送信する場合は、HTTP ヘッダー Content-Type が text/xml に設定されている（つまり、Content-Type: text/xml）ことが重要です。POST のボディは XML コンテンツを含んでいる必要があります。

例 1: システム名の変更。

要求

```
POST /putxml HTTP/1.1
Content-Type: text/xml
```

```
<Configuration>
  <SystemUnit>
    <Name>newName</Name>
  </SystemUnit>
</Configuration>
```

例 2: カメラ位置の設定。

要求

```
POST /putxml HTTP/1.1
Content-Type: text/xml
```

```
<Command>
  <Camera>
    <PositionSet command="True">
      <CameraId>1</CameraId>
      <Pan>200</Pan>
      <Tilt>200</Tilt>
    </PositionSet>
  </Camera>
</Command>
```

応答

```
HTTP/1.1 200 OK
Content-Type: text/xml
Content-Length: 91
```

```
<?xml version="1.0"?>
<Command>
  <CameraPositionSetResult item="1" status="OK"/>
</Command>
```

HTTP 経由のコーデックからのフィードバック

コーデックから通知を取得するには、HTTP フィードバック式を登録する必要があります。その後、コーデックが HTTP POST を使用して ServerUrl で指定された URL にフィードバック メッセージを送信します。これは、アプリケーションがコーデックから更新を受信するための HTTP サーバを用意する必要があることを意味します。

フィードバックへの登録

登録用のコマンドは xCommand HttpFeedback Register です。ここでは、このコマンドの構文と引数について説明します。

HttpFeedback Register の構文:

```
xCommand HttpFeedback Register
  FeedbackSlot: <1..4>
  ServerUrl(r): <S: 1, 2048>
  Expression: <S: 1, 255>
  Expression: <S: 1, 255>
  Expression: <S: 1, 255>
  Expression: <S: 1, 255>
  Expression: <S: 1, 255>
  Expression: <S: 1, 255>
  Expression: <S: 1, 255>
  Expression: <S: 1, 255>
  Expression: <S: 1, 255>
  Expression: <S: 1, 255>
  Expression: <S: 1, 255>
  Expression: <S: 1, 255>
  Expression: <S: 1, 255>
  Expression: <S: 1, 255>
  Expression: <S: 1, 255>
  Expression: <S: 1, 255>
  Expression: <S: 1, 255>
  Expression: <S: 1, 255>
```

HttpFeedback Register の引数:

FeedbackSlot: コーデックは HTTP フィードバックを要求するサーバの最大 4 つのスロットを登録できます。その 1 つへの登録を設定します。

注: Cisco TelePresence Management Suite (TMS) が使用されている環境では FeedbackSlot 3 を使用しないでください。これは、TMS がこのフィードバックスロットを使用して式を登録するためです。

ServerUrl: コーデックに HTTP フィードバック メッセージを投稿するように指示する URL。

式 1 ~ 15: フィードバックを受信する式を登録します。式の形式の詳細については、[「フィードバック メカニズム」](#)、26 ページを参照してください。

例: コンフィギュレーションの変更、切断イベント、およびコールステータスの変更に対するフィードバックの登録。

```
<Command>
  <HttpFeedback>
    <Register command="True">
      <FeedbackSlot>1</FeedbackSlot>
      <ServerUrl>http://127.0.0.1/myhttppostsripturl</ServerUrl>
      <Expression item="1">/Configuration</Expression>
      <Expression item="2">/Event/CallDisconnect</Expression>
      <Expression item="3">/Status/Call</Expression>
    </Register>
  </HttpFeedback>
</Command>
```

フィードバック出力

コーデックが登録済みの HTTP サーバに変更内容を通知するときは、ボディにポーリング時と同じ XML が含まれています。ただし、1 カ所だけ違う部分があります。ルート ノードに Identification ノードと、通知の発信元のコーデックを指定する子ノードが含まれています。これは、1 つの HTTP サーバ URI を使って複数のコーデックを処理できることを意味します。

例: 音量の変更。

```
<Configuration xmlns="http://www.company.com/XML/CUII/2.0">
  <Identification>
    <SystemName>integrator</SystemName>
    <MACAddress>00:00:de:ad:be:ef</MACAddress>
    <IPAddress>192.168.1.100</IPAddress>
    <ProductType>Cisco Codec</ProductType>
    <ProductID>Cisco Codec C90</ProductID>
    <SWVersion>TC6.0.0.199465</SWVersion>
    <HWBoard>101401-5 [08]</HWBoard>
    <SerialNumber>PH0000000</SerialNumber>
  </Identification>
  <Audio item="1">
    <Volume item="1">60</Volume>
  </Audio>
</Configuration>
```

端末モードから XML への変換

コマンドの変換

XML コマンドは、端末コマンドと同じ構造を維持しますが、親子関係を使用して階層を記述します。次の例で、この構造を確認できます。

例 1: コールのセットアップ。

端末

```
xCommand Dial Number: "12345" Protocol: H323
```

XML

```
<Command>
  <Dial command="True">
    <Number>12345</Number>
    <Protocol>H323</Protocol>
  </Dial>
</Command>
```

例 2: コールへのビデオ レイアウトの割り当て。

端末

```
xCommand Video Layout AssignCall CallId: 2
LayoutId: 1
```

XML

```
<Command>
  <Video>
    <Layout>
      <AssignCall command="True">
        <CallId>2</CallId>
        <LayoutId>1</LayoutId>
      </AssignCall>
    </Layout>
  </Video>
</Command>
```

コンフィギュレーションの変換

xConfiguration から XML への変換は、コマンドと同様ですが、配列内のインデックスを指定するために特殊な属性 item= "NN" が追加されます。

例: ビデオ入力コネクタ 2 の入力ソース タイプの設定。

端末

```
xConfiguration Video Input Connector 2
InputSourceType: camera
```

XML

```
<Configuration>
  <Video>
    <Input>
      <Connector item="2">
        <InputSourceType>camera</InputSourceType>
      </Connector>
    </Input>
  </Video>
</Configuration>
```

注意事項

ここで、Cisco SX シリーズ API のプログラミングに関するベスト プラクティスを示します。

リモコン エミュレーションを避ける

xCommand UserInterface OSD Key Click コマンドと xCommand UserInterface OSD Key Press コマンドの使用はお勧めできません。これらのコマンドはまだ API で使用できますが、direct コマンドの使用をお勧めします。これは、お使いの統合での下位互換性を保証するためです。オンスクリーン表示ではなく、コーデックに対してプログラムします。

完全なコマンドを使用する

プログラミングでは必ず完全なコマンドを使用する必要があります。つまり、xconf vid ではなく、xConfiguration Video を使用します。ショートカットは、コマンドライン上の API での検索には使用できますが、プログラミングには使用できません。これは、新しいコマンドが API に追加されたときに、あいまいなコードが生成される可能性があるためです。

不要なフィードバックをサブスクライブしない

サブスクライブするフィードバックの数が多すぎると、制御アプリケーションが輻輳する可能性があります。現在のバージョンではフィードバックの量が適当でも、今後のリリースでフィードバックの量が増える可能性があります。

第 3 章

xConfiguration コマンド

xConfiguration コマンドの説明

この章では、xConfiguration コマンドの完全なリストを参照できます。例では、デフォルト値または値の例のいずれかを示します。

定期的にシスコの Web サイトにアクセスして、マニュアルの最新版をチェックすることをお勧めします。
 参照先: <http://www.cisco.com/go/sx-docs>

| | | | |
|--|----|---|----|
| [音声 (Audio)] 設定: | 36 | xConfiguration Conference AutoAnswer Mute | 41 |
| xConfiguration Audio DefaultVolume | 36 | xConfiguration Conference AutoAnswer Delay | 41 |
| xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingTone | 36 | xConfiguration Conference DefaultCall Protocol | 41 |
| xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingVolume | 36 | xConfiguration Conference DefaultCall Rate | 42 |
| xConfiguration Audio Input Line [1] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo | 36 | xConfiguration Conference DoNotDisturb DefaultTimeout | 42 |
| xConfiguration Audio Input Line [1] VideoAssociation VideoInputSource | 37 | xConfiguration Conference Encryption Mode | 42 |
| xConfiguration Audio Input Microphone [1..2] EchoControl Mode | 37 | xConfiguration Conference FarEndControl Mode | 42 |
| xConfiguration Audio Input Microphone [1..2] EchoControl NoiseReduction | 37 | xConfiguration Conference MaxReceiveCallRate | 43 |
| xConfiguration Audio Input Microphone [1..2] EchoControl Dereverberation | 37 | xConfiguration Conference MaxTransmitCallRate | 43 |
| xConfiguration Audio Input Microphone [1..2] Level | 38 | xConfiguration Conference MaxTotalReceiveCallRate | 43 |
| xConfiguration Audio Input Microphone [1..2] Mode | 38 | xConfiguration Conference MaxTotalTransmitCallRate | 43 |
| xConfiguration Audio Input Microphone [1..2] Mode | 38 | xConfiguration Conference MultiStream Mode | 44 |
| カメラ 設定: | 38 | H323 設定: | 44 |
| xConfiguration Cameras Camera [1] Backlight DefaultMode | 38 | xConfiguration H323 Authentication Mode | 44 |
| xConfiguration Cameras Camera [1] Brightness Mode | 38 | xConfiguration H323 Authentication LoginName | 44 |
| xConfiguration Cameras Camera [1] Brightness DefaultLevel | 39 | xConfiguration H323 Authentication Password | 45 |
| xConfiguration Cameras Camera [1] Focus Mode | 39 | xConfiguration H323 CallSetup Mode | 45 |
| xConfiguration Cameras Camera [1] Gamma Mode | 39 | xConfiguration H323 Encryption KeySize | 45 |
| xConfiguration Cameras Camera [1] Gamma Level | 39 | xConfiguration H323 Gatekeeper Address | 45 |
| xConfiguration Cameras Camera [1] Mirror | 40 | xConfiguration H323 H323Alias E164 | 46 |
| xConfiguration Cameras Camera [1] Whitebalance Mode | 40 | xConfiguration H323 H323Alias ID | 46 |
| xConfiguration Cameras Camera [1] Whitebalance Level | 40 | xConfiguration H323 NAT Mode | 46 |
| xConfiguration Cameras Preset TriggerAutofocus | 40 | xConfiguration H323 NAT Address | 47 |
| 会議 設定: | 41 | | |
| xConfiguration Conference AutoAnswer Mode | 41 | | |

| | |
|---|----|
| ネットワーク 設定: | 47 |
| xConfiguration Network [1] DNS Domain Name | 47 |
| xConfiguration Network [1] DNS Server [1..3] Address | 47 |
| xConfiguration Network [1] IEEE8021X Mode | 48 |
| xConfiguration Network [1] IEEE8021X TlsVerify | 48 |
| xConfiguration Network [1] IEEE8021X UseClientCertificate | 48 |
| xConfiguration Network [1] IEEE8021X Identity | 48 |
| xConfiguration Network [1] IEEE8021X Password | 49 |
| xConfiguration Network [1] IEEE8021X AnonymousIdentity | 49 |
| xConfiguration Network [1] IEEE8021X Eap Md5 | 49 |
| xConfiguration Network [1] IEEE8021X Eap Tls | 49 |
| xConfiguration Network [1] IEEE8021X Eap Tls | 50 |
| xConfiguration Network [1] IEEE8021X Eap Peap | 50 |
| xConfiguration Network [1] IPStack | 50 |
| xConfiguration Network [1] IPv4 Assignment | 50 |
| xConfiguration Network [1] IPv4 Address | 51 |
| xConfiguration Network [1] IPv4 Gateway | 51 |
| xConfiguration Network [1] IPv4 SubnetMask | 51 |
| xConfiguration Network [1] IPv6 Assignment | 51 |
| xConfiguration Network [1] IPv6 Address | 52 |
| xConfiguration Network [1] IPv6 Gateway | 52 |
| xConfiguration Network [1] IPv6 DHCPOptions | 52 |
| xConfiguration Network [1] MTU | 52 |
| xConfiguration Network [1] QoS Mode | 53 |
| xConfiguration Network [1] QoS Diffserv Audio | 53 |
| xConfiguration Network [1] QoS Diffserv Video | 53 |
| xConfiguration Network [1] QoS Diffserv Data | 53 |
| xConfiguration Network [1] QoS Diffserv Signalling | 54 |
| xConfiguration Network [1] QoS Diffserv ICMPv6 | 54 |
| xConfiguration Network [1] QoS Diffserv NTP | 54 |
| xConfiguration Network [1] RemoteAccess Allow | 54 |
| xConfiguration Network [1] Speed | 55 |
| xConfiguration Network [1] VLAN Voice Mode | 55 |
| xConfiguration Network [1] VLAN Voice VlanId | 55 |

| | |
|--|----|
| NetworkServices 設定: | 56 |
| xConfiguration NetworkServices CDP Mode | 56 |
| xConfiguration NetworkServices H323 Mode | 56 |
| xConfiguration NetworkServices HTTP Mode | 56 |
| xConfiguration NetworkServices NTP Mode | 56 |
| xConfiguration NetworkServices NTP Server [1..3] Address | 57 |
| xConfiguration NetworkServices SIP Mode | 57 |
| xConfiguration NetworkServices SNMP Mode | 57 |
| xConfiguration NetworkServices SNMP Host [1..3] Address | 57 |
| xConfiguration NetworkServices SNMP CommunityName | 58 |
| xConfiguration NetworkServices SNMP SystemContact | 58 |
| xConfiguration NetworkServices SNMP SystemLocation | 58 |
| xConfiguration NetworkServices SSH Mode | 58 |
| xConfiguration NetworkServices Telnet Mode | 59 |
| xConfiguration NetworkServices WelcomeText | 59 |

| | |
|--|----|
| 周辺機器 (Peripherals) 設定: | 59 |
| xConfiguration Peripherals Profile TouchPanels | 59 |

| | |
|--|----|
| Phonebook 設定: | 60 |
| xConfiguration Phonebook Server [1] ID | 60 |
| xConfiguration Phonebook Server [1] Type | 60 |
| xConfiguration Phonebook Server [1] URL | 60 |

| | |
|--|----|
| プロビジョニング 設定: | 61 |
| xConfiguration Provisioning Connectivity | 61 |
| xConfiguration Provisioning Mode | 61 |
| xConfiguration Provisioning LoginName | 62 |
| xConfiguration Provisioning Password | 62 |
| xConfiguration Provisioning HttpMethod | 62 |
| xConfiguration Provisioning ExternalManager Address | 62 |
| xConfiguration Provisioning ExternalManager AlternateAddress | 63 |
| xConfiguration Provisioning ExternalManager Protocol | 63 |
| xConfiguration Provisioning ExternalManager Path | 63 |
| xConfiguration Provisioning ExternalManager Domain | 63 |

| | | | |
|--|----|--|----|
| プロキシミティ 設定: | 64 | 時刻 (Time) 設定: | 71 |
| xConfiguration Proximity Mode..... | 64 | xConfiguration Time TimeFormat | 71 |
| xConfiguration Proximity Services CallControl..... | 64 | xConfiguration Time DateFormat | 71 |
| xConfiguration Proximity Services ContentShare FromClients | 64 | xConfiguration タイム ゾーン | 71 |
| xConfiguration Proximity Services ContentShare ToClients..... | 64 | | |
| SerialPort 設定: | 65 | UserInterface 設定: | 73 |
| xConfiguration SerialPort Mode..... | 65 | xConfiguration UserInterface ContactInfo Type..... | 73 |
| xConfiguration SerialPort BaudRate..... | 65 | xConfiguration UserInterface KeyTones Mode..... | 73 |
| xConfiguration SerialPort LoginRequired | 65 | xConfiguration UserInterface Language | 73 |
| | | xConfiguration UserInterface OSD Output..... | 74 |
| SIP 設定: | 66 | [ビデオ (Video)] 設定: | 74 |
| xConfiguration SIP Authentication UserName | 66 | xConfiguration Video DefaultMainSource | 74 |
| xConfiguration SIP 認証/パスワード (SIP Authentication Password) | 66 | xConfiguration Video Input Connector [1..2] CameraControl Mode | 74 |
| xConfiguration SIP DefaultTransport..... | 66 | xConfiguration Video Input Connector [1..2] CameraControl Camerald | 75 |
| xConfiguration SIP DisplayName | 66 | xConfiguration Video Input Connector [1..2] InputSourceType..... | 75 |
| xConfiguration SIP Ice Mode | 67 | xConfiguration Video Input Connector [1..2] Name | 75 |
| xConfiguration SIP Ice DefaultCandidate | 67 | xConfiguration Video Input Connector [1..2] Quality..... | 75 |
| xConfiguration SIP ListenPort..... | 67 | xConfiguration Video Input Connector [1..2] PresentationSelection | 76 |
| xConfiguration SIP Proxy [1..4] Address..... | 67 | xConfiguration Video Input Connector [1..2] Visibility | 76 |
| xConfiguration SIP Turn Server | 68 | xConfiguration Video Monitors | 77 |
| xConfiguration SIP Turn UserName | 68 | xConfiguration Video Output Connector [1..2] CEC Mode | 77 |
| xConfiguration SIP Turn Password | 68 | xConfiguration Video Output Connector [1..2] MonitorRole..... | 78 |
| xConfiguration SIP URI | 68 | xConfiguration Video Output Connector [1..2] OverscanLevel | 78 |
| | | xConfiguration Video Output Connector [1..2] Resolution | 78 |
| Standby 設定: | 69 | xConfiguration Video Presentation DefaultSource..... | 79 |
| xConfiguration Standby Control..... | 69 | xConfiguration Video Selfview Default Mode..... | 79 |
| xConfiguration Standby Delay | 69 | xConfiguration Video Selfview Default FullscreenMode..... | 79 |
| xConfiguration Standby BootAction..... | 69 | xConfiguration Video Selfview Default OnMonitorRole | 80 |
| xConfiguration Standby StandbyAction | 69 | xConfiguration Video Selfview Default PIPPosition | 80 |
| xConfiguration Standby WakeupAction | 70 | xConfiguration Video Selfview OnCall Mode | 81 |
| | | xConfiguration Video Selfview OnCall Duration | 81 |
| SystemUnit 設定: | 70 | | |
| xConfiguration SystemUnit Name..... | 70 | | |

[音声 (Audio)] 設定:

xConfiguration Audio DefaultVolume

スピーカーのデフォルト音量を定義します。ビデオ システムをオンにするか再起動すると、音量がこの値に設定されます。ビデオ システムの稼働中に音量を変更するには、Touch コントローラまたはリモコンを使用します。ビデオ システムが稼働中に音量を変更して、デフォルト値にリセットするには、音量を変更する API コマンド (xCommand Audio Volume) を使用することもできます。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: 50

使用方法:

xConfiguration Audio DefaultVolume: DefaultVolume

説明:

DefaultVolume: 整数 (0 ~ 100)

1 ~ 100 の値を選択します。これは、-34.5 dB ~ 15 dB の 0.5 dB 単位に相当します。0 に設定すると、音声はオフになります。

xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingTone

着信コールに使用する着信音を定義します。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: Sunrise

使用方法:

xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingTone: RingTone

説明:

RingTone: Sunrise/Mischief/Ripples/Reflections/Vibes/Delight/Evolve/Playful/Ascent/Calculation/Mellow/Ringer

リストから着信音を選択します。

xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingVolume

着信コールの着信音の音量を定義します。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: 50

使用方法:

xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingVolume: RingVolume

説明:

RingVolume: 整数 (0 ~ 100)

値は 5 刻みで 0 ~ 100 (-34.5 dB ~ 15 dB) になります。音量 0 = オフです。

xConfiguration Audio Input Line [1] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo

音声ソースをビデオ入力コネクタ上のビデオ ソースに関連付け、ビデオ ソースが提供されるかどうかに応じて、音声を再生するかミュートするかを決定できます。デフォルトでは、音声はミュートされません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration Audio Input Line n VideoAssociation MuteOnInactiveVideo:

MuteOnInactiveVideo

説明:

MuteOnInactiveVideo: Off/On

[オフ (Off)]: オーディオ ソースはビデオ ソースに関連付けられません。ビデオ ソースが提供されるか否かに関係なく、音声はローカルおよび相手先で再生されます。

[オン (On)]: オーディオ ソースはビデオ ソースに関連付けられます。関連付けられたビデオ ソースが提供されると、音声は再生されます (ローカルおよび相手先で)。ビデオ ソースが表示されない場合、音声はミュートされます。

xConfiguration Audio Input Line [1] VideoAssociation VideoInputSource

音声ソースは、ビデオ入力コネクタ上でビデオ ソースに関連付けることができます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 2

使用方法:

xConfiguration Audio Input Line n VideoAssociation VideoInputSource:
VideoInputSource

説明:

VideoInputSource: 1/2

音声ソースを関連付けるビデオ入力コネクタを選択します。

xConfiguration Audio Input Microphone [1..2] EchoControl Mode

エコー キャンセラは音声環境で検出された変更があると、室内の音声特性に合わせて継続的に自己調整を行います。音声条件の変更が非常に顕著な場合、エコー キャンセラの再調整に 1 ~ 2 秒かかることがあります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration Audio Input Microphone n EchoControl Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

[オフ (Off)]: エコー制御は外部のエコー キャンセレーションまたは再生機器が使用されるとオフになります。

[オン (On)]: エコー制御は、相手先に自らの音声が聞こえないようにするため、通常はオンに設定されます。選択すると、エコー キャンセレーションは常にアクティブになります。

xConfiguration Audio Input Microphone [1..2] EchoControl NoiseReduction

システムには継続的なバックグラウンド ノイズ (空調システム、冷却ファンのノイズなど) を減らす組み込みノイズ リダクションが備わっています。さらに、High Pass Filter (Humfilter) は低周波ノイズを削減します。マイクについてはエコー制御モードをイネーブルにする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration Audio Input Microphone n EchoControl NoiseReduction:
NoiseReduction

説明:

NoiseReduction: Off/On

[オフ (Off)]: ノイズ リダクションをオフにします。

[オン (On)]: 低周波ノイズがある場合、ノイズ リダクションはイネーブルにする必要があります。

xConfiguration Audio Input Microphone [1..2] EchoControl Dereverberation

システムには室内の残響を減らす組み込みの信号処理が備わっています。マイクについてはエコー制御モードをイネーブルにする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration Audio Input Microphone n EchoControl Dereverberation:
Dereverberation

説明:

Dereverberation: Off/On

[オフ (Off)]: 残響をオフにします。

[オン (On)]: 残響をオンにします。

xConfiguration Audio Input Microphone [1..2] Level

マイク入力コネクタの音声レベルを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 14

使用方法:

xConfiguration Audio Input Microphone n Level: Level

説明:

Level: 整数 (0 ~ 24)

0 ~ 24 dB の値を 1 dB 刻みで選択します。

xConfiguration Audio Input Microphone [1..2] Mode

音声入力マイク モードを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration Audio Input Microphone n Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

Off: 音声入力マイク コネクタを無効にします。

On: 音声入力マイク コネクタを有効にします。

カメラ 設定:

xConfiguration Cameras Camera [1] Backlight DefaultMode

この設定は、逆光補正をオンまたはオフにします。逆光補正は、部屋の中で人物の背後に強い光がある場合に役立ちます。逆光補正がないと、こちらの画像が相手に非常に暗い状態で見えてしまいます。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera n Backlight DefaultMode: DefaultMode

説明:

DefaultMode: Off/On

[オフ (Off)]: カメラの逆光補正をオフにします。

[オン (On)]: カメラの逆光補正をオンにします。

xConfiguration Cameras Camera [1] Brightness Mode

カメラの明るさモードを定義します。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera n Brightness Mode: Mode

説明:

Mode: Auto/Manual

[自動 (Auto)]: カメラの明るさはシステムによって自動的に設定されます。

[手動 (Manual)]: カメラの明るさの手動設定をイネーブルにします。明るさのレベルは Cameras Camera [n] Brightness DefaultLevel 設定を使用して設定されます。

xConfiguration Cameras Camera [1] Brightness DefaultLevel

明るさのレベルを定義します。Cameras Camera [n] Brightness Mode を Manual に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: 20

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera n Brightness DefaultLevel: DefaultLevel

説明:

DefaultLevel: 整数(1 ~ 31)

明るさレベル。

xConfiguration Cameras Camera [1] Focus Mode

カメラのフォーカス モードを定義します。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera n Focus Mode: Mode

説明:

Mode: Auto/Manual

[自動 (Auto)]: コールが接続されると、カメラはオートフォーカスになります。カメラの移動(パン、チルト、ズーム)後も同様です。システムは、オートフォーカスを数秒間だけ使用して正しい焦点に設定します。その後、オートフォーカスはカメラが焦点調整し続けることを防ぐためオフになります。

[手動 (Manual)]: オートフォーカスをオフにし、カメラの焦点を手動で調整します。

xConfiguration Cameras Camera [1] Gamma Mode

この設定は、ガンマ補正をイネーブルにし、ガンマ モードをサポートするカメラのみに適用されます。ガンマは、画像ピクセルとモニタの明るさとの間の非線形関係を表します。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera n Gamma Mode: Mode

説明:

Mode: Auto/Manual

[自動 (Auto)]: 自動がデフォルトであり、推奨設定です。

Manual: 手動モードでは、ガンマ値がガンマ レベル設定で変更されます。Cameras Camera [n] Gamma Level を参照してください。

xConfiguration Cameras Camera [1] Gamma Level

ガンマ レベルを設定して、使用するガンマ補正テーブルを選択できます。この設定は、明るさの設定を変更しても十分な結果が得られない困難な光条件に役立つことがあります。Cameras Camera [n] Gamma Mode を Manual に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: 0

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera n Gamma Level: Level

説明:

Level: 整数(0 ~ 7)

ガンマ レベルを定義します。

xConfiguration Cameras Camera [1] Mirror

ミラー モード (水平反転) を使用して画面の画像を反転できます。ミラーリングは、セルフビューおよび遠端に送信されるビデオの両方に適用されます。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera n Mirror: Mirror

説明:

Mirror: Auto/Off/On

[自動 (Auto)]: 上下逆にマウントされたことをカメラが検出すると、画像が自動的に反転します。上下逆にマウントされたかどうかをカメラが自動的に検出できない場合、画像は変更されません。

[オフ (Off)]: 他人から見えている自分のように画像を表示します。

[オン (On)]: 鏡に映っている自分のように画像を表示します。

xConfiguration Cameras Camera [1] Whitebalance Mode

カメラのホワイト バランス モードを定義します。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera n Whitebalance Mode: Mode

説明:

Mode: Auto/Manual

[自動 (Auto)]: カメラはカメラのビューに合わせて常にホワイト バランスを調整します。

[手動 (Manual)]: カメラのホワイトバランスの手動設定をイネーブルにします。ホワイトバランスのレベルは Cameras Camera [n] Whitebalance Level 設定を使用して設定します。

xConfiguration Cameras Camera [1] Whitebalance Level

ホワイトバランスのレベルを定義します。Cameras Camera [n] Whitebalance Mode を Manual に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: 1

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera n Whitebalance Level: Level

説明:

Level: 整数(1 ~ 16)

ホワイト バランスのレベル。

xConfiguration Cameras Preset TriggerAutofocus

現在位置 (パン、チルト)、ズームおよびフォーカスはプリセットで保存されます。この設定を使用して、カメラを再フォーカスするか、プリセットで保存されたフォーカス値を使用するかどうかを指定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Cameras Preset TriggerAutofocus: TriggerAutofocus

説明:

TriggerAutofocus: Auto/Off/On

[自動 (Auto)]: プリセットを選択しない場合に、カメラの種類に応じてカメラを再フォーカスするかどうかを指定します。

[オフ (Off)]: プリセットで保存されたフォーカス値が使用されます。プリセットを選択する場合、カメラは再フォーカスしません。

[オン (On)]: プリセットを選択する場合、カメラは再フォーカスします。プリセットで保存されたフォーカス値が上書きされる可能性があります。

会議 設定:

xConfiguration Conference AutoAnswer Mode

自動応答モードを定義します。コールに回答する前に数秒間待機する場合は Conference AutoAnswer Delay 設定を使用し、コールに回答するときにマイクをミュートする場合は Conference AutoAnswer Mute 設定を使用します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration Conference AutoAnswer Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

[オフ (Off)]: 着信コールに手動で応答するには、リモート コントロールの OK キーまたは緑色のコール キーを押すか、タッチ コントローラで [応答 (Answer)] をタップする必要があります。

[オン (On)]: 通話中でない限り、システムが自動的に着信コールに回答します。通話中の着信コールに対しては、常に手動で応答または拒否する必要があります。

xConfiguration Conference AutoAnswer Mute

着信コールが自動的に応答する場合にマイクをミュートするかどうか定義します。[自動応答モード (AutoAnswer Mode)] が有効にされている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration Conference AutoAnswer Mute: Mute

説明:

Mute: Off/On

[オフ (Off)]: 着信コールはミュートにされません。

[オン (On)]: 着信コールは自動的に応答されるときミュートにされます。

xConfiguration Conference AutoAnswer Delay

システムによって自動的に応答される前に着信コールがどれくらい待つ必要があるかを定義します (秒単位)。[自動応答モード (AutoAnswer Mode)] が有効にされている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0

使用方法:

xConfiguration Conference AutoAnswer Delay: Delay

説明:

Delay: 整数 (0 ~ 50)

自動応答遅延 (秒単位)。

xConfiguration Conference DefaultCall Protocol

システムからコールを発信するときに使用されるデフォルトの通信プロトコルを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Conference DefaultCall Protocol: Protocol

説明:

Protocol: Auto/H323/Sip/H320

[自動 (Auto)]: 使用可能なプロトコルに基づいた通信プロトコルの自動選択をイネーブルにします。複数のプロトコルが使用可能な場合、優先順位は次のとおりです: 1) SIP、2) H323、3) H320。システムで登録できない場合や、通信プロトコルがイネーブルになっていない場合、自動選択で H323 が選択されます。

[H323]: すべてのコールが H.323 コールとして設定されます。

[SIP]: すべてのコールが SIP コールとして設定されます。

H320: すべてのコールが H.320 コールとしてセットアップされます (Cisco TelePresence ISDN リンクに接続されている場合のみ)。

xConfiguration Conference DefaultCall Rate

システムからコールを発信するときに使用されるデフォルト コール レートを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 1920

使用方法:

xConfiguration Conference DefaultCall Rate: Rate

説明:

Rate: 整数 (64 ~ 6000)

デフォルト コール レート (kbps) を設定します。

xConfiguration Conference DoNotDisturb DefaultTimeout

この設定はサイレント セッションのデフォルト期間、つまり着信コールが拒否され、不在履歴として登録される時間を決定します。セッションは、ユーザ インターフェイス (リモート コントローラまたはタッチ コントローラ) を使用して早期に終了できます。デフォルト値は 60 分です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 60

使用方法:

xConfiguration Conference DoNotDisturb DefaultTimeout: DefaultTimeout

説明:

DefaultTimeout: 整数 (0 ~ 1440)

着信拒否セッションが自動的にタイムアウトするまでの分数を 0 ~ 1440 (24 時間) の間で設定します。

xConfiguration Conference Encryption Mode

会議の暗号化モードを定義します。会議が開始されると、画面に鍵と「Encryption On」または「Encryption Off」という文字が数秒間表示されます。

注: CE-NC ソフトウェア (暗号なし) がビデオ システムにインストールされている場合、暗号化モードは常にオフになります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: BestEffort

使用方法:

xConfiguration Conference Encryption Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On/BestEffort

[オフ (Off)]: システムは、暗号化を使用しません。

[オン (On)]: システムは、暗号化されたコールだけを許可します。

[ベストエフォート (BestEffort)]: システムは暗号化を可能な限り使用します。

> ポイント ツー ポイント コール: 遠端システムで暗号化 (AES-128) がサポートされている場合、コールは暗号化されます。そうでない場合は、コールは暗号化なしで送信されます。

> MultiSite コール: 暗号化されたマルチサイト会議を実現するためには、すべてのサイトが暗号化をサポートしている必要があります。そうでない場合は、会議は暗号化されません。

xConfiguration Conference FarEndControl Mode

リモート側 (遠端) にこちら側のビデオ ソースの選択とローカル カメラの制御 (パン、チルト、ズーム) を許可するかどうか決定できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration Conference FarEndControl Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

[オフ (Off)]: 相手先はこちら側のビデオ ソースの選択やローカル カメラの制御 (パン、チルト、ズーム) を許可されません。

[オン (On)]: 相手先はこちら側のビデオ ソースの選択とローカル カメラの制御 (パン、チルト、ズーム) を許可します。カメラの制御とビデオ ソースの選択は、こちら側では通常どおり可能です。

xConfiguration Conference MaxReceiveCallRate

コールを発信または受信するときに使用される最大受信ビット レートを定義します。これは個別のコールの最大ビット レートです。すべての同時アクティブ コールに集約した最大レートを設定するには、Conference MaxTotalReceiveCallRate 設定を使用します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 6000

使用方法:

xConfiguration Conference MaxReceiveCallRate: MaxReceiveCallRate

説明:

MaxReceiveCallRate: 整数(64 ~ 6000)

最大受信コール レート (kbps) を設定します。

xConfiguration Conference MaxTransmitCallRate

コールを発信または受信するときに使用される最大送信ビット レートを定義します。これは個別のコールの最大ビット レートです。すべての同時アクティブ コールに集約した最大レートを設定するには、Conference MaxTotalTransmitCallRate 設定を使用します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 6000

使用方法:

xConfiguration Conference MaxTransmitCallRate: MaxTransmitCallRate

説明:

MaxTransmitCallRate: 整数(64 ~ 6000)

最大送信コール レート (kbps) を設定します。

xConfiguration Conference MaxTotalReceiveCallRate

この設定は、ビデオ システム内蔵の MultiSite 機能 (オプション) を使用してマルチポイントのビデオ会議をホストする場合に適用されます。

許容最大全体受信ビット レートを定義します。ビット レートは任意の時点におけるすべてのアクティブ コール間で均等に分割されます。これは、誰かがマルチポイント会議に参加または退出するとき、またはコールが保留 (中断) されるか再開されるときに個々のコールが適切に高速化または低速化されることを意味します。

個々のコールの最大受信ビット レートは、Conference MaxReceiveCallRate 設定により定義されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 10000

使用方法:

xConfiguration Conference MaxTotalReceiveCallRate: MaxTotalReceiveCallRate

説明:

MaxTotalReceiveCallRate: 整数(64 ~ 10000)

最大受信コール レート (kbps) を設定します。

xConfiguration Conference MaxTotalTransmitCallRate

この設定は、ビデオ システム内蔵の MultiSite 機能 (オプション) を使用してマルチポイントのビデオ会議をホストする場合に適用されます。

許容最大全体送信ビット レートを定義します。ビット レートは任意の時点におけるすべてのアクティブ コール間で均等に分割されます。これは、誰かがマルチポイント会議に参加または退出するとき、またはコールが保留 (中断) されるか再開されるときに個々のコールが適切に高速化または低速化されることを意味します。

個々のコールの最大送信ビット レートは、Conference MaxTransmitCallRate 設定により定義されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 10000

使用方法:

xConfiguration Conference MaxTotalTransmitCallRate: MaxTotalTransmitCallRate

説明:

MaxTotalTransmitCallRate: 整数(64 ~ 10000)

最大送信コール レート (kbps) を設定します。

xConfiguration Conference MultiStream Mode

ビデオ システムは、会議インフラストラクチャが機能 (Cisco TelePresence Server 4.2 以降) をサポートしていれば、会議用のマルチストリーム ビデオをサポートします。これは、ビデオ システムがビデオ ストリームをすべての利用可能な画面を使用する会議レイアウトにローカルに編成できることを意味します。これにより、ユーザ エクスペリエンスが向上します。

マルチストリーム ビデオは、SIP 経由でのみサポートされます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration Conference MultiStream Mode: Mode

説明:

Mode: Auto/Off

Auto:機能が会議インフラストラクチャでサポートされていれば、ビデオ ストリームのローカル編成を使用します。

Off:ローカル編成が無効です。レイアウトは会議インフラストラクチャ (Cisco TelePresence Server) によってトランスコードされます。

H323 設定:

xConfiguration H323 Authentication Mode

H.323 プロファイルの認証モードを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration H323 Authentication Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

Off:システムは H.323 ゲートキーパーに対して自身の認証を試行せず、通常の登録を試行します。

On:認証が必要なことを H.323 ゲートキーパーが示している場合、システムはゲートキーパーに対して自身の認証を試行します。コーデックとゲートキーパーの両方で H323 Authentication LoginName 設定と H323 Authentication Password 設定を定義する必要があります。

xConfiguration H323 Authentication LoginName

システムは、認証のために H.323 ゲートキーパーに H323 認証ログイン名と H323 認証パスワードを送信します。認証はコーデックから H.323 ゲートキーパーへの単方向の認証です。つまり、システムはゲートキーパーに認証されます。認証が不要であることを H.323 ゲートキーパーが示している場合でも、システムは登録を試行します。H.323 認証モードを有効にする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration H323 Authentication LoginName: LoginName

説明:

LoginName: 文字列 (0, 50)

認証ログイン名。

xConfiguration H323 Authentication Password

システムは、認証のために H.323 ゲートキーパーに H323 認証ログイン名と H323 認証パスワードを送信します。認証はコーデックから H.323 ゲートキーパーへの単方向の認証です。つまり、システムはゲートキーパーに認証されます。認証が不要であることを H.323 ゲートキーパーが示している場合でも、システムは登録を試行します。H.323 認証モードを有効にする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration H323 Authentication Password: Password

説明:

Password: 文字列(0, 50)
認証パスワード。

xConfiguration H323 CallSetup Mode

H323 コールを確立するときにゲートキーパーとダイレクト コールのどちらを使用するかを定義します。ダイレクト H.323 コールは、H323 CallSetup Mode が Gatekeeper に設定されている場合も発信できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Gatekeeper

使用方法:

xConfiguration H323 CallSetup Mode: Mode

説明:

Mode: Direct/Gatekeeper

Direct: IP アドレスを直接ダイヤルすることによってのみ H.323 コールを発信できます。

Gatekeeper: システムはゲートキーパーを使用して H.323 コールを発信します。このオプションを選択した場合は、H323 Gatekeeper Address も設定する必要があります。

xConfiguration H323 Encryption KeySize

Advanced Encryption Standard (AES) 暗号化キーの確立時に使用する Diffie-Hellman キー交換方式の最小または最大サイズを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Max1024bit

使用方法:

xConfiguration H323 Encryption KeySize: KeySize

説明:

KeySize: Min1024bit/Max1024bit/Min2048bit

[Min1024bit]: 最小サイズは 1024 ビットです。

[Max1024bit]: 最大サイズは 1024 ビットです。

[Min2048bit]: 最小サイズは 2048 ビットです。

xConfiguration H323 Gatekeeper Address

ゲートキーパーの IP アドレスを定義します。H323 CallSetup Mode を Gatekeeper に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration H323 Gatekeeper Address: Address

説明:

Address: 文字列(0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

xConfiguration H323 H323Alias E164

H.323 エイリアス E.164 は、H.323 ゲートキーパーに設定された番号計画に従ってシステムのアドレスを定義します。E.164 エイリアスは電話番号と同じであり、アクセス コードと結合される場合もあります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration H323 H323Alias E164: E164

説明:

E164: 文字列(0, 30)

H.323 エイリアス E.164 アドレス。使用できる文字は、0 ~ 9、*、# です。

xConfiguration H323 H323Alias ID

H.323 ゲートキーパー上のシステムのアドレス指定に使用され、コール リストに表示される H.323 エイリアス ID を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration H323 H323Alias ID: ID

説明:

ID: 文字列(0, 49)

H.323 エイリアス ID。例:「firstname.lastname@company.com」、「My H.323 Alias ID」

xConfiguration H323 NAT Mode

ファイアウォール トラバーサル テクノロジーは、ファイアウォール障壁を通過するセキュアなパスを作成し、外部のビデオ会議システムに接続されたときの音声/ビデオ データの正しい交換を可能にします (IP トラフィックが NAT ルータを通過する場合)。注: NAT は、ゲートキーパーとの組み合わせでは動作しません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration H323 NAT Mode: Mode

説明:

Mode: Auto/Off/On

[自動 (Auto)]: H323 NAT アドレスと実際の IP アドレスのどちらかをシグナリングに使用するかをシステムが決定します。これにより、LAN 上のエンドポイント、または WAN のエンドポイントにコールを発信できるようになります。H323 NAT アドレスが間違っているか設定されていない場合、実際の IP アドレスが使用されます。

[オフ (Off)]: システムは、実際の IP アドレスをシグナリングします。

[オン (On)]: システムは、Q.931 および H.245 内にある実際の IP アドレスの代わりに、設定された H323 NAT アドレスをシグナリングします。NAT サーバアドレスは、スタートアップ メニューで「My IP Address: 10.0.2.1」と表示されます。H323 NAT アドレスが間違っているか設定されていない場合、H.323 コールは設定できません。

xConfiguration H323 NAT Address

NAT サポートを備えたルータへの外部/グローバル IP アドレスを定義します。ルータに送信されるパケットは、システムにルーティングされます。ゲートキーパーに登録されている場合は NAT を使用できないことに注意してください。

ルータで、次のポートはシステムの IP アドレスにルーティングする必要があります。

*ポート 1720

*ポート 5555-6555

*ポート 2326-2487

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration H323 NAT Address: Address

説明:

Address: 文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

ネットワーク 設定:

xConfiguration Network [1] DNS Domain Name

DNS ドメイン名は、非修飾名に追加されるデフォルトのドメイン名サフィックスです。

例: DNS ドメイン名が「company.com」で、ルックアップする名前が「MyVideoSystem」の場合、DNS ルックアップ「MyVideoSystem.company.com」になります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Network n DNS Domain Name: Name

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Name: 文字列 (0, 64)

DNS ドメイン名。

xConfiguration Network [1] DNS Server [1..3] Address

DNS サーバのネットワーク アドレスを定義します。最大で 3 つのアドレスを指定できます。ネットワーク アドレスが不明の場合、管理者またはインターネット サービス プロバイダーに問い合わせます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Network n DNS Server m Address: Address

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

m: DNS サーバを識別するインデックス。最大 3 台の DNS サーバが許可されます。範囲: 1..3

Address: 文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

xConfiguration Network [1] IEEE8021X Mode

システムは、イーサネット ネットワークに認証済みネットワーク アクセスを提供するために使用される、ポート ベースのネットワーク アクセス コントロールによって、IEEE 802.1X LAN ネットワークに接続できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration Network n IEEE8021X Mode: Mode

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Mode: Off/On

[オフ (Off)]: 802.1X 認証がディセーブルになります (デフォルト)。

[オン (On)]: 802.1X 認証がイネーブルになります。

xConfiguration Network [1] IEEE8021X TlsVerify

TLS を使用する場合の、ローカル CA リストの証明書に対する IEEE802.1x 接続のサーバ側証明書の検証です。CA リストはビデオ システムにアップロードする必要があります。これは、Web インターフェイスから実行できます。

この設定は、Network [1] IEEE8021X Eap Tls が有効 (On) の場合にだけ有効です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration Network n IEEE8021X TlsVerify: TlsVerify

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

TlsVerify: Off/On

[オフ (Off)]: Off に設定する場合、ローカル CA リストに対するサーバ側 X.509 証明書を確認せずに、TLS 接続が許可されます。これは、コーデックに CA リストがアップロードされていない場合、選択する必要があります。

[オン (On)]: On に設定する場合、すべての TLS 接続のローカル CA リストに対して、サーバ側 X.509 証明書が検証されます。有効な証明書を持つサーバだけが許可されます。

xConfiguration Network [1] IEEE8021X UseClientCertificate

IEEE802.1x 接続中の、秘密キーと証明書のペアを使用した認証。認証 X.509 証明書は、ビデオ システムにアップロードされている必要があります。これは、Web インターフェイスから実行できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration Network n IEEE8021X UseClientCertificate: UseClientCertificate

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

UseClientCertificate: Off/On

[オフ (Off)]: [オフ (Off)] に設定した場合、クライアント側の証明書は使用されません (サーバ側のみ)。

[オン (On)]: [オン (On)] に設定した場合、クライアント (ビデオ システム) はサーバと相互認証 TLS ハンドシェイクを実行します。

xConfiguration Network [1] IEEE8021X Identity

802.1X 認証用のユーザ名を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Network n IEEE8021X Identity: Identity

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Identity: 文字列 (0, 64)

802.1X 認証用のユーザ名。

xConfiguration Network [1] IEEE8021X Password

802.1X 認証用のパスワードを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Network n IEEE8021X Password: Password

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Password: 文字列(0,32)

802.1X 認証用のパスワード。

xConfiguration Network [1] IEEE8021X AnonymousIdentity

802.1X 匿名 ID 文字列は、別のトンネリングされた ID をサポートする EAP-PEAP および EAP-TTLS などの EAP (Extensible Authentication Protocol) タイプとともに、非暗号化 ID として使用されます。設定された場合、匿名 ID は最初の (非暗号化) EAP ID 要求に使用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Network n IEEE8021X AnonymousIdentity: AnonymousIdentity

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

AnonymousIdentity: 文字列(0,64)

802.1X 匿名 ID 文字列。

xConfiguration Network [1] IEEE8021X Eap Md5

MD5 (メッセージダイジェスト アルゴリズム 5) モードを定義します。これは、共有秘密に依存するチャレンジ ハンドシェイク認証プロトコルです。MD5 は弱いセキュリティです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration Network n IEEE8021X Eap Md5: Md5

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Md5: Off/On

[オフ (Off)]: EAP-MD5 プロトコルはディセーブルになります。

[オン (On)]: EAP-MD5 プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

xConfiguration Network [1] IEEE8021X Eap Ttls

TTLS (Tunneled Transport Layer Security) モードを定義します。クライアント証明書の要件なしで LAN クライアントを認証します。Funk Software および Certicom によって開発されました。通常 Agere Systems、Proxim および Avaya でサポートされます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration Network n IEEE8021X Eap Ttls: Ttls

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Ttls: Off/On

[オフ (Off)]: EAP-TTLS プロトコルはディセーブルになります。

[オン (On)]: EAP-TTLS プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

xConfiguration Network [1] IEEE8021X Eap Tls

IEEE802.1x 接続用の EAP-TLS (トランスポート層セキュリティ) の使用をイネーブルまたはディセーブルにします。RFC 5216 で規定された EAP-TLS プロトコルは最もセキュアな EAP 標準の 1 つと見なされています。LAN クライアントは、クライアント証明書を使用して認証されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration Network n IEEE8021X Eap Tls: Tls

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Tls: Off/On

[オフ (Off)]: EAP-TLS プロトコルはディセーブルになります。

[オン (On)]: EAP-TLS プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

xConfiguration Network [1] IEEE8021X Eap Peap

Peap (Protected Extensible Authentication Protocol) モードを定義します。クライアント証明書の要件なしで LAN クライアントを認証します。Microsoft、シスコと RSA Security により開発されました。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration Network n IEEE8021X Eap Peap: Peap

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Peap: Off/On

[オフ (Off)]: EAP-PEAP プロトコルはディセーブルになります。

[オン (On)]: EAP-PEAP プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

xConfiguration Network [1] IPStack

システムのネットワーク インターフェイスで IPv4、IPv6、またはデュアル IP スタックを使用する必要がある場合に選択します。注: この設定を変更した後、反映されるまでに 30 秒間待つ必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Dual

使用方法:

xConfiguration Network n IPStack: IPStack

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

IPStack: Dual/IPv4/IPv6

[デュアル (Dual)]: [デュアル (Dual)] に設定すると、ネットワーク インターフェイスは両方の IP バージョンで同時に動作することができ、また、IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を同時に持つことができます。

[IPv4]: [IPv4] に設定すると、システムのネットワーク インターフェイスで IPv4 が使用されます。

[IPv6]: [IPv6] に設定すると、システムのネットワーク インターフェイスで IPv6 が使用されます。

xConfiguration Network [1] IPv4 Assignment

システムが IPv4 アドレス、サブネット マスク、およびゲートウェイ アドレスを取得する方法を定義します。この設定は IPv4 ネットワーク上のシステムにのみ適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: DHCP

使用方法:

xConfiguration Network n IPv4 Assignment: Assignment

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Assignment: Static/DHCP

[静的 (Static)]: アドレスは、Network IPv4 Address、Network IPv4 Gateway、Network IPv4 SubnetMask の各設定 (静的アドレス) を使用して手動で設定する必要があります。

[DHCP]: システム アドレスは DHCP サーバによって自動的に割り当てられます。

xConfiguration Network [1] IPv4 Address

システムのスタティック IPv4 ネットワーク アドレスを定義します。Network IPv4 Assignment が Static に設定されている場合に限り適用できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Network n IPv4 Address: Address

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Address: 文字列(0, 64)

有効な IPv4 アドレス。

xConfiguration Network [1] IPv4 Gateway

IPv4 ネットワーク ゲートウェイ アドレスを定義します。Network IPv4 Assignment が Static に設定されている場合に限り適用できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Network n IPv4 Gateway: Gateway

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Gateway: 文字列(0, 64)

有効な IPv4 アドレス。

xConfiguration Network [1] IPv4 SubnetMask

IPv4 ネットワークのサブネット マスクを定義します。Network IPv4 Assignment が Static に設定されている場合に限り適用できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Network n IPv4 SubnetMask: SubnetMask

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

SubnetMask: 文字列(0, 64)

有効な IPv4 アドレス。

xConfiguration Network [1] IPv6 Assignment

システムが IPv6 アドレスおよびデフォルト ゲートウェイ アドレスを取得する方法を定義します。この設定は IPv6 ネットワーク上のシステムにのみ適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Autoconf

使用方法:

xConfiguration Network n IPv6 Assignment: Assignment

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Assignment: Static/DHCPv6/Autoconf

[静的 (Static)]: コーデックおよびゲートウェイの IP アドレスは、Network IPv6 Address および Network IPv6 Gateway の各設定を使用して手動で設定する必要があります。NTP アドレスや DNS サーバ アドレスなどのオプションは、手動で設定するか、または DHCPv6 サーバから取得する必要があります。Network IPv6 DHCPv6 Option 設定は、どの方法を使用するかを決定します。

[DHCPv6]: オプションを含むすべての IPv6 アドレスは、DHCPv6 サーバから取得されます。詳細については RFC 3315 を参照してください。Network IPv6 DHCPv6 Option 設定は無視されます。

[Autoconf]: IPv6 ネットワーク インターフェイスの IPv6 ステータス自動設定をイネーブルにします。詳細については RFC 4862 を参照してください。NTP アドレスや DNS サーバ アドレスなどのオプションは、手動で設定するか、または DHCPv6 サーバから取得する必要があります。Network IPv6 DHCPv6 Option 設定は、どの方法を使用するかを決定します。

xConfiguration Network [1] IPv6 Address

システムのスタティック IPv6 ネットワーク アドレスを定義します。Network IPv6 Assignment が Static に設定されている場合に限り適用できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Network *n* IPv6 Address: *Address*

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Address: 文字列 (0, 64)

有効な IPv6 アドレス。

xConfiguration Network [1] IPv6 Gateway

IPv6 ネットワーク ゲートウェイ アドレスを定義します。この設定は、Network IPv6 Assignment が Static に設定されている場合にのみ適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Network *n* IPv6 Gateway: *Gateway*

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Gateway: 文字列 (0, 64)

有効な IPv6 アドレス。

xConfiguration Network [1] IPv6 DHCPOptions

DHCPv6 サーバから一連の DHCP オプション (NTP および DNS サーバ アドレスなど) を取得します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration Network *n* IPv6 DHCPOptions: *DHCPOptions*

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

DHCPOptions: Off/On

[オフ (Off)]: DHCPv6 サーバからの DHCP オプションの取得をディセーブルにします。

[オン (On)]: 選択した DHCP オプションのセットの DHCPv6 サーバからの取得をイネーブルにします。

xConfiguration Network [1] MTU

イーサネット MTU (最大伝送単位) を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 1500

使用方法:

xConfiguration Network *n* MTU: *MTU*

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

MTU: 整数 (576 ~ 1500)

MTU の値 (バイト) を設定します。

xConfiguration Network [1] QoS Mode

QoS (Quality of Service) は、ネットワーク内のオーディオ、ビデオおよびデータの優先順位を操作するメソッドです。QoS 設定はインフラストラクチャでサポートされている必要があります。DiffServ (ディファレンシエーテッド サービス) は、ネットワークトラフィックの分類と管理を行い、現代的 IP ネットワークに QoS 優先順位を提供するためにシンプルかつスケーラブルで粗粒度のメカニズムを指定する、コンピュータ ネットワーキング アーキテクチャです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Diffserv

使用方法:

xConfiguration Network n QoS Mode: Mode

説明:

Mode: Off/Diffserv

[オフ (Off)]: QoS メソッドは使用されません。

[DiffServ]: QoS モードを DiffServ に設定すると、Network QoS DiffServ Audio、Network QoS DiffServ Video、Network QoS DiffServ Data、Network QoS DiffServ Signalling、Network QoS DiffServ ICMPv6、および Network QoS DiffServ NTP の各設定を使用してパケットの優先順位が付けられます。

xConfiguration Network [1] QoS Diffserv Audio

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode)] が [DiffServ] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内で音声パケットに持たせる優先順位を定義します。

パケットのプライオリティは、0 ~ 63 です。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。音声に推奨されるクラスは、10 進数値 32 と等しい CS4 です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0

使用方法:

xConfiguration Network n QoS Diffserv Audio: Audio

説明:

Audio: 整数 (0 ~ 63)

IP ネットワーク内の音声パケットの優先順位を設定します。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

xConfiguration Network [1] QoS Diffserv Video

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode)] が [DiffServ] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内でビデオ パケットに持たせる優先順位を定義します。プレゼンテーション チャネル (共有コンテンツ) 上のパケットも、ビデオ パケットのカテゴリに属します。パケットのプライオリティは、0 ~ 63 です。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。ビデオに推奨されるクラスは、10 進数値 32 と等しい CS4 です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0

使用方法:

xConfiguration Network n QoS Diffserv Video: Video

説明:

Video: 整数 (0 ~ 63)

IP ネットワーク内のビデオ パケットの優先順位を設定します。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

xConfiguration Network [1] QoS Diffserv Data

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode)] が [DiffServ] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内でデータ パケットに持たせる優先順位を定義します。

パケットのプライオリティは、0 ~ 63 です。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。データに対する推奨値は 0 (ベスト エフォート) です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0

使用方法:

xConfiguration Network n QoS Diffserv Data: Data

説明:

Data: 整数 (0 ~ 63)

IP ネットワーク内のデータ パケットの優先順位を設定します。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

xConfiguration Network [1] QoS Diffserv Signalling

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode)] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内でリアルタイム処理に不可欠 (時間依存) であると考えられるシグナリング パケットに持たせる優先順位を定義します。

パケットのプライオリティは、0 ~ 63 です。数字が大きいくほど、優先順位が高くなります。シグナリングに推奨されるクラスは、10 進数値 24 と等しい CS3 です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0

使用方法:

xConfiguration Network n QoS Diffserv Signalling: Signalling

説明:

Signalling: 整数 (0 ~ 63)

IP ネットワーク内のシグナリング パケットの優先順位を設定します。数字が大きいくほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

xConfiguration Network [1] QoS Diffserv ICMPv6

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode)] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内で ICMPv6 パケットに持たせる優先順位を定義します。

パケットのプライオリティは、0 ~ 63 です。数字が大きいくほど、優先順位が高くなります。ICMPv6 に対する推奨値は 0 (ベスト エフォート) です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0

使用方法:

xConfiguration Network n QoS Diffserv ICMPv6: ICMPv6

説明:

ICMPv6: 整数 (0 ~ 63)

IP ネットワーク内の ICMPv6 パケットの優先順位を設定します。数字が大きいくほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

xConfiguration Network [1] QoS Diffserv NTP

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode)] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内で NTP パケットに持たせる優先順位を定義します。

パケットのプライオリティは、0 ~ 63 です。数字が大きいくほど、優先順位が高くなります。NTP に対する推奨値は 0 (ベスト エフォート) です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0

使用方法:

xConfiguration Network n QoS Diffserv NTP: NTP

説明:

NTP: 整数 (0 ~ 63)

IP ネットワーク内の NTP パケットの優先順位を設定します。数字が大きいくほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

xConfiguration Network [1] RemoteAccess Allow

リモート アクセスで SSH/Telnet/HTTP/HTTPS からコーデックに許可する IP アドレス (IPv4/IPv6) を定義します。複数の IP アドレスはスペースで区切られます。

ネットワーク マスク (IP 範囲) は <ip address>/N で指定されます。ここで N は IPv4 では 1 ~ 32 の範囲および IPv6 では 1 ~ 128 の範囲を表します。/N は最初の N ビットがセットされたネットワーク マスクの共通インジケータです。たとえば 192.168.0.0/24 は、192.168.0 で開始するどのアドレスとも一致します。これらはアドレスの最初の 24 ビットだからです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Network n RemoteAccess Allow: Allow

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Allow: 文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

xConfiguration Network [1] Speed

イーサネット リンク速度を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Network n Speed: Speed

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Speed: Auto/10half/10full/100half/100full/1000full

[自動 (Auto)]: リンク速度を自動ネゴシエートします。

[10half]: 10 Mbps 半二重に強制リンクします。

[10full]: 10 Mbps 全二重に強制リンクします。

[100half]: 100 Mbps 半二重に強制リンクします。

[100full]: 100 Mbps 全二重に強制リンクします。

[1000full]: 1 Gbps 全二重に強制リンクします。

xConfiguration Network [1] VLAN Voice Mode

VLAN 音声モードを定義します。Cisco UCM (Cisco Unified Communications Manager) をプロビジョニング インフラストラクチャとして使用している場合、[VLAN 音声モード (VLAN Voice Mode)] が [自動 (Auto)] に自動的に設定されます。NetworkServices CDP Mode 設定が [オフ (Off)] になっている場合は、[自動 (Auto)] モードは機能しないことに注意してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Network n VLAN Voice Mode: Mode

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Mode: Auto/Manual/Off

[自動 (Auto)]: Cisco Discovery Protocol (CDP) が使用可能な場合は、音声 VLAN に ID を割り当てます。CDP を使用できない場合、VLAN はイネーブルになりません。

[手動 (Manual)]: VLAN ID は、Network VLAN Voice VlanId の設定を使用して手動で設定されます。CDP を使用できる場合、手動設定値は、CDP によって割り当てられた値によって置き換えられます。

[オフ (Off)]: VLAN はイネーブルになりません。

xConfiguration Network [1] VLAN Voice VlanId

VLAN 音声 ID を定義します。この設定は、Network VLAN Voice Mode が Manual に設定されている場合にだけ有効になります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 1

使用方法:

xConfiguration Network n VLAN Voice VlanId: VlanId

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

VlanId: 整数 (1 ~ 4094)

VLAN 音声 ID を設定します。

NetworkServices 設定:

xConfiguration NetworkServices CDP Mode

CDP (Cisco Discovery Protocol) デーモンをイネーブルまたはディセーブルにします。CDP をイネーブルにすると、エンドポイントは特定の統計情報とデバイス ID を CDP 対応スイッチにレポートします。CDP をディセーブルにする場合、[ネットワーク音声 VLAN モード (Network VLAN Voice Mode)]:[自動 (Auto)] 設定は機能しません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration NetworkServices CDP Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

[オフ (Off)]: CDP デーモンはディセーブルです。

[オン (On)]: CDP デーモンはイネーブルです。

xConfiguration NetworkServices H323 Mode

システムで H.323 コールの発信および受信を可能にするかどうかを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration NetworkServices H323 Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

[オフ (Off)]: H.323 コールの発信と受信の可能性をディセーブルにします。

[オン (On)]: H.323 コールの発信と受信の可能性をイネーブルにします (デフォルト)。

xConfiguration NetworkServices HTTP Mode

HTTP または HTTPS (HTTP Secure) プロトコルを使用したビデオ システムへのアクセスを許可するかどうかを定義します。ビデオ システムの Web インターフェイスでは HTTP または HTTPS が使用されることに注意してください。この設定が Off になっている場合は、Web インターフェイスを使用できません。

追加のセキュリティ (要求と Web サーバから返されたページの暗号化と復号化) が必要な場合は、HTTPS のみを許可します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: HTTP+HTTPS

使用方法:

xConfiguration NetworkServices HTTP Mode: Mode

説明:

Mode: Off/HTTP+HTTPS/HTTPS

Off: HTTP または HTTPS を経由するビデオ システムへのアクセスが許可されません。

HTTP+HTTPS: HTTP と HTTPS の両方を経由するビデオ システムへのアクセスが許可されます。

HTTPS: HTTPS 経由のビデオ システムへのアクセスは許可されますが、HTTP 経由のアクセスは許可されません。

xConfiguration NetworkServices NTP Mode

ネットワーク タイム プロトコル (NTP) は、リファレンス タイム サーバにシステムの時刻と日付を同期するために使用されます。時間の更新のために、タイム サーバが定期的に照会されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration NetworkServices NTP Mode: Mode

説明:

Mode: Auto/Manual/Off

[自動 (Auto)]: システムは時間を参照するために NTP サーバを使用します。デフォルトでは、NTP サーバのアドレスはネットワークの DHCP サーバから取得されます。DHCP サーバが使用されない場合、または DHCP サーバが NTP サーバアドレスを提供しない場合、NetworkServices NTP Server [n] Address 設定で指定された NTP サーバアドレスが使用されます。

Manual: システムは、NetworkServices NTP Server [n] Address 設定で指定された NTP サーバを使用して時間を参照します。

[オフ (Off)]: システムは NTP サーバを使用しません。NetworkServices NTP Server [n] Address 設定は無視されます。

xConfiguration NetworkServices NTP Server [1..3] Address

NetworkServices NTP Mode が Manual に設定された場合、および NetworkServices NTP Mode が Auto に設定されアドレスが DHCP サーバから提供されない場合に使用される NTP サーバのアドレスです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0.tandberg.pool.ntp.org

使用方法:

xConfiguration NetworkServices NTP Server n Address: Address

説明:

Address: 文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

xConfiguration NetworkServices SIP Mode

システムで SIP コールの発信および受信を可能にするかどうかを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SIP Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

[オフ (Off)]: SIP コールの発信と受信の可能性をディセーブルにします。

[オン (On)]: SIP コールの発信と受信の可能性をイネーブルにします (デフォルト)。

xConfiguration NetworkServices SNMP Mode

ネットワーク管理システムでは、管理上の対応を保証する条件についてネットワーク接続デバイス (ルータ、サーバ、スイッチ、プロジェクトなど) を監視するために SNMP (Simple Network Management Protocol) が使用されます。SNMP は、システム設定を説明する管理システム上の変数の形式で管理データを公開します。これらの変数は、その後照会でき (ReadOnly に設定)、管理アプリケーションによって設定できる場合もあります (ReadWrite に設定)。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ReadOnly

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SNMP Mode: Mode

説明:

Mode: Off/ReadOnly/ReadWrite

[オフ (Off)]: SNMP ネットワーク サービスをディセーブルにします。

[読み取り専用 (ReadOnly)]: SNMP ネットワーク サービスを照会のみイネーブルにします。

[読み書き (ReadWrite)]: SNMP ネットワーク サービスの照会とコマンドの両方をイネーブルにします。

xConfiguration NetworkServices SNMP Host [1..3] Address

最大 3 つの SNMP マネージャのアドレスを定義します。

システムの SNMP エージェント (コーデック内) は、システム ロケーションやシステム接点についてなど、SNMP マネージャ (PC プログラムなど) からの要求にตอบสนองします。SNMP トラップはサポートされません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SNMP Host n Address: Address

説明:

n: SNMP ホストを識別します。最大 3 台の SNMP ホストが許可されます。範囲: 1..3

Address: 文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

xConfiguration NetworkServices SNMP CommunityName

ネットワーク サービス SNMP コミュニティの名前を定義します。SNMP コミュニティ名は SNMP 要求を認証するために使用されます。SNMP 要求は、コーデックの SNMP エージェントから応答を受け取るため、パスワード(大文字と小文字を区別)を持つ必要があります。デフォルトのパスワードは「public」です。Cisco TelePresence 管理スイート (TMS) がある場合、同じ SNMP コミュニティがそこで設定されていることを確認する必要があります。注:SNMP コミュニティのパスワードは大文字と小文字が区別されません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SNMP CommunityName: CommunityName

説明:

CommunityName: 文字列(0, 50)

SNMP コミュニティ名。

xConfiguration NetworkServices SNMP SystemContact

ネットワーク サービス SNMP システム接点の名前を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SNMP SystemContact: SystemContact

説明:

SystemContact: 文字列(0, 50)

SNMP システム接点の名前。

xConfiguration NetworkServices SNMP SystemLocation

ネットワーク サービス SNMP システム ロケーションの名前を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SNMP SystemLocation: SystemLocation

説明:

SystemLocation: 文字列(0, 50)

SNMP システム ロケーションの名前。

xConfiguration NetworkServices SSH Mode

SSH(セキュア シェル) プロトコルは、コーデックとローカル コンピュータ間でのセキュアな暗号化通信を提供できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SSH Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

[オフ(Off)]:SSH プロトコルはディセーブルになります。

[オン(On)]:SSH プロトコルはイネーブルになります(デフォルト)。

xConfiguration NetworkServices Telnet Mode

Telnet は、インターネットまたはローカル エリア ネットワーク (LAN) 接続で使用されるネットワーク プロトコルです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration NetworkServices Telnet Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

[オフ (Off)]: Telnet プロトコルはディセーブルになります。これが出荷時の設定です。

[オン (On)]: Telnet プロトコルはイネーブルになります。

xConfiguration NetworkServices WelcomeText

Telnet/SSH 経由でコーデックにログインする際に、ユーザに表示する情報を選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration NetworkServices WelcomeText: WelcomeText

説明:

WelcomeText: Off/On

[オフ (Off)]: ようこそテキストは次のとおりです: ログインに成功しました (Login successfu)

[オン (On)]: ようこそテキストは次のとおりです: <システム名>; ソフトウェア バージョン; ソフトウェアのリリース日; ログインに成功しました (Login successful)

周辺機器 (Peripherals) 設定:

xConfiguration Peripherals Profile TouchPanels

ビデオ システムに接続されることが予想されるタッチ パネルの数を定義します。この情報はビデオ システムの診断サービスで使用します。接続されたタッチ パネルの数がこの設定に一致しない場合、診断サービスによって不一致がレポートされます。このバージョンでサポートされるシスコ タッチ コントローラは、1 台のみであることに注意してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: NotSet

使用方法:

xConfiguration Peripherals Profile TouchPanels: TouchPanels

説明:

TouchPanels: NotSet/Minimum1/0/1/2/3/4/5

[設定されていない (NotSet)]: タッチ パネル チェックは実行されません。

[最小 1 (Minimum1)]: 少なくとも 1 台のタッチ パネルがビデオ システムに接続されている必要があります。

0 ~ 5: ビデオ システムに接続されることが予想される Touch コントローラの数を選択します。

Phonebook 設定:

xConfiguration Phonebook Server [1] ID

外部の電話帳の名前を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Phonebook Server n ID: ID

説明:

ID: 文字列 (0, 64)

外部の電話帳の名前。

xConfiguration Phonebook Server [1] Type

電話帳サーバの種類を選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration Phonebook Server n Type: Type

説明:

Type: Off/VCS/TMS/CUCM

Off: 電話帳を使用しません。

VCS: 電話帳が Cisco TelePresence Video Communication Server 上に配置されます。

TMS: 電話帳が Cisco TelePresence Management Suite サーバ上に配置されます。

CUCM: 電話帳が Cisco Unified Communications Manager 上に配置されます。

xConfiguration Phonebook Server [1] URL

外部電話帳サーバへのアドレス (URL) を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Phonebook Server n URL: URL

説明:

URL: 文字列 (0, 255)

電話帳サーバへの有効なアドレス (URL)。

プロビジョニング 設定:

xConfiguration Provisioning Connectivity

この設定は、プロビジョニング サーバからの内部または外部の設定を要求するかどうかを、デバイスが検出する方法を制御します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Provisioning Connectivity: Connectivity

説明:

Connectivity: Internal/External/Auto

[内部 (Internal)]: 内部コンフィギュレーションを要求します。

[外部 (External)]: 外部コンフィギュレーションを要求します。

[自動 (Auto)]: 内部または外部のコンフィギュレーションを要求するかどうかを自動的に NAPTR クエリーを使用して検出します。NAPTR の応答に「e」フラグがある場合、外部設定が要求されます。それ以外の場合、内部設定が要求されます。

xConfiguration Provisioning Mode

プロビジョニング システム (外部マネージャ) を使用してビデオ システムを設定できます。これにより、ビデオ会議のネットワーク管理者は複数のビデオ システムを同時に管理することができます。この設定により、使用するプロビジョニング システムの種類を選択します。プロビジョニングは、オフに切り替えることも可能です。詳細については、プロビジョニング システムのプロバイダー/担当者にお問い合わせください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Provisioning Mode: Mode

説明:

Mode: Off/Auto/TMS/VCS/CUCM/Edge

Off: ビデオ システムはプロビジョニング システムによって設定されません。

Auto: プロビジョニング サーバを自動的に選択します。

TMS: TMS (Cisco TelePresence Management System) からビデオ システムに設定をプッシュします。

VCS: VCS (Cisco TelePresence Video Communication Server) からビデオ システムに設定をプッシュします。

CUCM: CUCM (Cisco Unified Communications Manager) からビデオ システムに設定をプッシュします。

Edge: CUCM (Cisco Unified Communications Manager) からビデオ システムに設定をプッシュします。システムは Collaboration Edge インフラストラクチャを経由して CUCM に接続します。

xConfiguration Provisioning LoginName

これは、プロビジョニング サーバとのビデオ システムの認証に使用されるクレデンシャルのユーザ名部分です。この設定は、プロビジョニング サーバが要求する場合、使用する必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Provisioning LoginName: LoginName

説明:

LoginName: 文字列(0,80)

有効なユーザ名。

xConfiguration Provisioning Password

これは、プロビジョニング サーバとのビデオ システムの認証に使用されるクレデンシャルのパスワード部分です。この設定は、プロビジョニング サーバが要求する場合、使用する必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Provisioning Password: Password

説明:

Password: 文字列(0,64)

有効なパスワード。

xConfiguration Provisioning HttpMethod

プロビジョニングに使用する HTTP 方式を選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: POST

使用方法:

xConfiguration Provisioning HttpMethod: HttpMethod

説明:

HttpMethod: GET/POST

[GET]: プロビジョニング サーバが GET をサポートする場合、GET を選択します。

[POST]: プロビジョニング サーバが POST をサポートする場合、POST を選択します。

xConfiguration Provisioning ExternalManager Address

外部マネージャ/プロビジョニング システムの IP アドレスまたは DNS 名を定義します。

外部マネージャのアドレス (およびパス) が設定されている場合、システムはスタートアップ時にこのアドレスにメッセージを送信します。このメッセージを受信すると、外部マネージャ/プロビジョニング システムはそのユニットに設定/コマンドを結果として返すことができます。

CUCM または TMS プロビジョニングを使用する場合、外部マネージャ アドレスを自動的に提供するために DHCP サーバをセットアップできます (TMS には DHCP オプション 242、CUCM には DHCP オプション 150)。Provisioning ExternalManager Address で設定されたアドレスは、DHCP によって提供されるアドレスを上書きします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Provisioning ExternalManager Address: Address

説明:

Address: 文字列(0,64)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

xConfiguration Provisioning ExternalManager AlternateAddress

エンドポイントが Cisco Unified Communications Manager (CUCM) でプロビジョニングされており、代替 CUCM が冗長性に利用可能な場合にのみ使用できます。代替 CUCM のアドレスを定義します。主な CUCM が使用できない場合、エンドポイントは代替 CUCM でプロビジョニングされます。主な CUCM が再び使用可能になると、エンドポイントはこの CUCM によってプロビジョニングされます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Provisioning ExternalManager AlternateAddress: AlternateAddress

説明:

AlternateAddress: 文字列(0, 64)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

xConfiguration Provisioning ExternalManager Protocol

要求を外部マネージャ/プロビジョニング システムに送信するときに HTTP (非セキュア通信) プロトコルを使用するか、HTTPS (セキュア通信) プロトコルを使用するかを定義します。

選択したプロトコルが NetworkServices HTTP Mode 設定で有効になっている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: HTTP

使用方法:

xConfiguration Provisioning ExternalManager Protocol: Protocol

説明:

Protocol: HTTPS/HTTP

HTTPS:HTTPS 経由で要求を送信します。

HTTP:HTTP 経由で要求を送信します。

xConfiguration Provisioning ExternalManager Path

外部マネージャ/プロビジョニング システムへのパスを定義します。いくつかの管理サービスが同じサーバに存在する、つまり同じ外部マネージャのアドレスを共有する場合、この設定が必要です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Provisioning ExternalManager Path: Path

説明:

Path: 文字列(0, 255)

外部マネージャ/プロビジョニング システムへの有効なパス。

xConfiguration Provisioning ExternalManager Domain

VCS プロビジョニング サーバの SIP ドメインを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Provisioning ExternalManager Domain: Domain

説明:

Domain: 文字列(0, 64)

有効なドメイン名。

プロキシミティ 設定:

xConfiguration Proximity Mode

ビデオ システムが超音波ペアリング メッセージを放出するかどうかを決定します。

ビデオ システムが超音波を放出すると、プロキシミティ クライアントがビデオ システムが近くにあることを検出できます。クライアントを使用するには、少なくとも 1 つのプロキシミティ サービスを有効にする必要があります (Proximity Services 設定を参照)。一般に、すべてのプロキシミティ サービスを有効にすることをお勧めします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration Proximity Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

Off: ビデオ システムは超音波を放出せず、プロキシミティ サービスは使用できません。

On: ビデオ システムは超音波を放出し、プロキシミティ クライアントが、ビデオ システムが近くにあることを検出できます。有効にされたプロキシミティ サービスを使用できます。

xConfiguration Proximity Services CallControl

プロキシミティ クライアントの基本的なコール制御機能を有効または無効にします。この設定を有効にすると、プロキシミティ クライアントを使用してコールを制御できます (ダイヤル、ミュート、音量の調整、電話の切断など)。このサービスは、モバイル デバイス (iOS または Android) でサポートされます。この設定を有効にするには、Proximity Mode を On にする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Disabled

使用方法:

xConfiguration Proximity Services CallControl: CallControl

説明:

CallControl: Enabled/Disabled

Enabled: プロキシミティ クライアントからのコール制御が有効になります。

Disabled: プロキシミティ クライアントからのコール制御が無効になります。

xConfiguration Proximity Services ContentShare FromClients

プロキシミティ クライアントからのコンテンツ シェアリングを有効または無効にします。この設定を有効にすると、ラップトップ画面の共有など、ビデオ システム上でプロキシミティ クライアントからのコンテンツをワイヤレスで共有できます。このサービスは、ラップトップ (OS X または Windows) でサポートされます。この設定を有効にするには、Proximity Mode を On にする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Disabled

使用方法:

xConfiguration Proximity Services ContentShare FromClients: FromClients

説明:

FromClients: Enabled/Disabled

Enabled: プロキシミティ クライアントからのコンテンツ シェアリングが有効になります。

Disabled: プロキシミティ クライアントからのコンテンツ シェアリングが無効になります。

xConfiguration Proximity Services ContentShare ToClients

プロキシミティ クライアントへのコンテンツ シェアリングを有効または無効にします。有効にすると、プロキシミティ クライアントがビデオ システムからプレゼンテーションを受け取ります。詳細をズームインしたり、以前のコンテンツを表示したり、スナップショットを撮ったりできます。このサービスは、モバイル デバイス (iOS または Android) でサポートされます。この設定を有効にするには、Proximity Mode を On にする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Disabled

使用方法:

xConfiguration Proximity Services ContentShare ToClients: ToClients

説明:

ToClients: Enabled/Disabled

Enabled: プロキシミティ クライアントへのコンテンツ シェアリングが有効になります。

Disabled: プロキシミティ クライアントへのコンテンツ シェアリングが無効になります。

SerialPort 設定:

xConfiguration SerialPort Mode

シリアル ポート (USB および RS-232 アダプタ経由で接続) をイネーブルまたはディセーブルにします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration SerialPort Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

[オフ (Off)]: シリアル ポートをディセーブルにします。

[オン (On)]: シリアル ポートをイネーブルにします。

xConfiguration SerialPort BaudRate

シリアル ポートに、ボー レート (データ送信レート、ビット/秒) を定義します。デフォルト値は 38400 です。シリアル ポートの他の接続パラメータは次のとおりです。データ ビット: 8。パリティ: なし。ストップ ビット: 1。フロー制御: なし。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 115200

使用方法:

xConfiguration SerialPort BaudRate: BaudRate

説明:

BaudRate: 9600/19200/38400/57600/115200

リストされているボー レート (bps) からボー レートを設定します。

xConfiguration SerialPort LoginRequired

シリアル ポートに接続するときにログインが必要かどうかを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration SerialPort LoginRequired: LoginRequired

説明:

LoginRequired: Off/On

[オフ (Off)]: ユーザはログインせずに、シリアル ポート経由でコーデックにアクセスできます。

[オン (On)]: シリアル ポート経由でコーデックに接続するときに、ログインが必要です。

SIP 設定:

xConfiguration SIP Authentication UserName

これは、SIP プロキシへの認証に使用されるクレデンシャルのユーザ名部分です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration SIP Authentication UserName: UserName

説明:

UserName: 文字列(0,128)

有効なユーザ名。

xConfiguration SIP 認証パスワード (SIP Authentication Password)

これは、SIP プロキシへの認証に使用されるクレデンシャルのパスワード部分です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration SIP 認証パスワード(SIP Authentication Password): Password

説明:

Password: 文字列(0,128)

有効なパスワード。

xConfiguration SIP DefaultTransport

LAN で使用するトランスポート プロトコルを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration SIP DefaultTransport: DefaultTransport

説明:

DefaultTransport: TCP/UDP/Tls/Auto

[TCP]: システムはデフォルトの転送方法として常に TCP を使用します。

[UDP]: システムはデフォルトの転送方法として常に UDP を使用します。

[Tls]: システムはデフォルトの転送方法として常に TLS を使用します。TLS 接続の場合、SIP CA リストをビデオ システムにアップロードできます。このような CA リストがシステムにない場合は匿名の Diffie Hellman が使用されます。

[自動 (Auto)]: システムは、TLS、TCP、UDP の順序でトランスポート プロトコルを使用して接続を試みます。

xConfiguration SIP DisplayName

設定されたとき、着信コールは SIP URI ではなく、表示名を報告します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration SIP DisplayName: DisplayName

説明:

DisplayName: 文字列(0,255)

SIP URI の代わりに表示される名前。

xConfiguration SIP Ice Mode

ICE (Interactive Connectivity Establishment, RFC 5245) は、最適化されたメディアパスの検出にエンドポイントで使用できる NAT トラバーサルソリューションです。このため、音声とビデオの最短ルートがエンドポイント間で常に確保されます。注:ICE は CUCM (Cisco Unified Communication Manager) に登録された場合はサポートされません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration SIP Ice Mode: Mode

説明:

Mode: Auto/Off/On

[自動 (Auto)]:[自動 (Auto)] に設定すると、TURN サーバを指定した場合に ICE がイネーブルになります。そうでない場合 ICE はディセーブルです。

[オフ (Off)]:ICE をディセーブルにします。

[オン (On)]:ICE をイネーブルにします。

xConfiguration SIP Ice DefaultCandidate

これは、ICE が使用するメディア ルートを決定するまで (コールの最初の 5 秒まで) エンドポイントがメディアを受け取るデフォルトの IP アドレスです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ホスト

使用方法:

xConfiguration SIP Ice DefaultCandidate: DefaultCandidate

説明:

DefaultCandidate: Host/Rflx/Relay

[ホスト (Host)]:エンドポイントは固有の IP アドレスでメディアを受信します。

[Rflx]:エンドポイントは TURN サーバで認識されるパブリック IP アドレスでメディアを受信します。

[リレー (Relay)]:エンドポイントは TURN サーバで割り当てられた IP アドレスとポートでメディアを受信し、ICE が完了するまでフォールバックとして使用されます。

xConfiguration SIP ListenPort

SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンをオンまたはオフにします。オフにした場合、エンドポイントは SIP レジストラ (CUCM または VCS) を介してのみ到達可能になります。この設定はデフォルト値のままにすることを推奨します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration SIP ListenPort: ListenPort

説明:

ListenPort: Off/On

[オフ (Off)]:SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンをオフにします。

[オン (On)]:SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンをオンにします。

xConfiguration SIP Proxy [1..4] Address

プロキシ アドレスは発信プロキシに手動で設定されたアドレスです。完全修飾ドメイン名、または IP アドレスを使用することが可能です。デフォルト ポートは、TCP および UDP の場合は 5060 ですが、もう 1 ポート準備できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration SIP Proxy n Address: Address

説明:

n: プロキシを識別するインデックス (最大 4 つのプロキシを定義できます)。範囲: 1..4

Address: 文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

xConfiguration SIP Turn Server

TURN (Traversal Using Relay NAT) サーバのアドレスを定義します。これはメディア リレー フォールバックとして使用され、また、エンドポイント固有のパブリック IP アドレスを検出するためにも使用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration SIP Turn Server: Server

説明:

Server: 文字列(0,255)

優先されるフォーマットは DNS SRV レコード(例: _turn._udp.<domain>)、または有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを指定できます。

xConfiguration SIP Turn UserName

TURN サーバへのアクセスに必要なユーザ名を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration SIP Turn UserName: UserName

説明:

UserName: 文字列(0,128)

有効なユーザ名。

xConfiguration SIP Turn Password

TURN サーバへのアクセスに必要なパスワードを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration SIP Turn Password: Password

説明:

Password: 文字列(0,128)

有効なパスワード。

xConfiguration SIP URI

SIP URI (Uniform Resource Identifier) は、ビデオ システムの識別に使用されるアドレスです。URI が登録され、SIP サービスによりシステムへの着信コールのルーティングに使用されます。SIP URI 構文は RFC 3261 で定義されています。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration SIP URI: URI

説明:

URI: 文字列(0,255)

SIP URI 構文に準拠したアドレス (URI)。

Standby 設定:

xConfiguration Standby Control

システムがスタンバイ モードに移行するかどうかを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration Standby Control: Control

説明:

Control: Off/On

[オフ(Off)]:システムはスタンバイ モードを開始しません。

On:スタンバイ遅延がタイムアウトしたときにスタンバイ モードを開始します。[スタンバイ遅延 (Standby Delay)] を適切な値に設定する必要があります。

xConfiguration Standby Delay

スタンバイ モードに入る前に、システムがアイドル モードのまま経過する時間の長さ(分単位)を定義します。[スタンバイ制御 (Standby Control)] がイネーブルである必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 10

使用方法:

xConfiguration Standby Delay: Delay

説明:

Delay: 整数(1 ~ 480)

スタンバイ遅延(分)を設定します。

xConfiguration Standby BootAction

コーデックの再起動後のカメラの位置を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: DefaultCameraPosition

使用方法:

xConfiguration Standby BootAction: BootAction

説明:

BootAction: None/RestoreCameraPosition/DefaultCameraPosition

[なし(None)]:アクションはありません。

RestoreCameraPosition:ビデオ システムが再起動すると、カメラが再起動前の位置に戻ります。

DefaultCameraPosition:ビデオ システムが再起動すると、カメラが工場出荷時位置に移動します。

xConfiguration Standby StandbyAction

スタンバイ モードに入るときのカメラ位置を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: PrivacyPosition

使用方法:

xConfiguration Standby StandbyAction: StandbyAction

説明:

StandbyAction: None/PrivacyPosition

[なし(None)]:アクションはありません。

PrivacyPosition:ビデオ システムがスタンバイに入ると、カメラがプライバシー用の横向き位置に変わります。

xConfiguration Standby WakeupAction

スタンバイ モードを抜けるときのカメラ位置を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: RestoreCameraPosition

使用方法:

xConfiguration Standby WakeupAction: WakeupAction

説明:

WakeupAction: None/RestoreCameraPosition/DefaultCameraPosition

[なし (None)]: アクションはありません。

RestoreCameraPosition: ビデオ システムがスタンバイを抜けると、カメラがスタンバイに入る前の位置に戻ります。

DefaultCameraPosition: ビデオ システムがスタンバイを抜けると、カメラが工場出荷時位置に移動します。

SystemUnit 設定:

xConfiguration SystemUnit Name

システム名を定義します。コーデックが SNMP エージェントとして機能している場合に、システム名は DHCP 要求でホスト名として送信されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration SystemUnit Name: Name

説明:

Name: 文字列 (0, 50)

システム名を定義します。

時刻 (Time) 設定:

xConfiguration Time TimeFormat

時刻形式を定義します。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: 24H

使用方法:

xConfiguration Time TimeFormat: TimeFormat

説明:

TimeFormat: 24H/12H

[24H]: 24 時間の時間フォーマットを設定します。

[12H]: 12 時間 (AM/PM) の時間フォーマットを設定します。

xConfiguration Time DateFormat

日付形式を定義します。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: DD_MM_YY

使用方法:

xConfiguration Time DateFormat: DateFormat

説明:

DateFormat: DD_MM_YY/MM_DD_YY/YY_MM_DD

[DD_MM_YY]: 2010 年 1 月 30 日は「30.01.10」と表示されます。

[MM_DD_YY]: 2010 年 1 月 30 日は「01.30.10」と表示されます。

[YY_MM_DD]: 2010 年 1 月 30 日は「10.01.30」と表示されます。

xConfiguration タイム ゾーン

ビデオ システムの地理的な場所のタイム ゾーンを定義します。値スペースの情報は、tz データベース (別名: IANA タイムゾーン データベース) から取得しています。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: Etc/UTC

使用方法:

xConfiguration タイム ゾーン: ゾーン

説明:

ゾーン: Africa/Abidjan, Africa/Accra, Africa/Addis_Ababa, Africa/Algiers, Africa/Asmara, Africa/Asmera, Africa/Bamako, Africa/Bangui, Africa/Banjul, Africa/Bissau, Africa/Blantyre, Africa/Brazzaville, Africa/Bujumbura, Africa/Cairo, Africa/Casablanca, Africa/Ceuta, Africa/Conakry, Africa/Dakar, Africa/Dar_es_Salaam, Africa/Djibouti, Africa/Douala, Africa/El_Aaiun, Africa/Freetown, Africa/Gaborone, Africa/Harare, Africa/Johannesburg, Africa/Juba, Africa/Kampala, Africa/Khartoum, Africa/Kigali, Africa/Kinshasa, Africa/Lagos, Africa/Libreville, Africa/Lome, Africa/Luanda, Africa/Lubumbashi, Africa/Lusaka, Africa/Malabo, Africa/Maputo, Africa/Maseru, Africa/Mbabane, Africa/Mogadishu, Africa/Monrovia, Africa/Nairobi, Africa/Ndjamena, Africa/Niamey, Africa/Nouakchott, Africa/Ouagadougou, Africa/Porto-Novo, Africa/Sao_Tome, Africa/Timbuktu, Africa/Tripoli, Africa/Tunis, Africa/Windhoek, America/Adak, America/Anchorage, America/Anguilla, America/Antigua, America/Araguaina, America/Argentina/Buenos_Aires, America/Argentina/Catamarca, America/Argentina/ComodRivadavia, America/Argentina/Cordoba, America/Argentina/Jujuy, America/Argentina/La_Rioja, America/Argentina/Mendoza, America/Argentina/Rio_Gallegos, America/Argentina/Salta, America/Argentina/San_Juan, America/Argentina/San_Luis, America/Argentina/Tucuman, America/Argentina/Ushuaia, America/Aruba, America/Asuncion, America/Atikokan, America/Atka, America/Bahia, America/Bahia_Banderas, America/Barbados, America/Belem, America/Belize, America/Blanc-Sablon, America/Boa_Vista, America/Bogota, America/Boise, America/Buenos_Aires, America/Cambridge_Bay, America/Campo_Grande, America/Cancun, America/Caracas, America/Catamarca, America/Cayenne, America/Cayman, America/Chicago, America/Chihuahua, America/Coral_Harbour, America/Cordoba, America/Costa_Rica, America/Creston, America/Cuiaba, America/Curacao, America/Danmarkshavn, America/Dawson, America/Dawson_Creek, America/Denver, America/Detroit, America/Dominica, America/Edmonton, America/Eirunepe, America/El_Salvador, America/Ensenada, America/Fort_Wayne, America/Fortaleza, America/Glace_Bay, America/Godthab, America/Goose_Bay, America/Grand_Turk, America/Grenada, America/Guadeloupe, America/Guatemala, America/Guayaquil, America/Guyana, America/Halifax, America/Havana, America/Hermosillo, America/Indiana/Indianapolis, America/Indiana/Knox, America/Indiana/Marengo, America/Indiana/Petersburg, America/Indiana/Tell_City, America/Indiana/Vevay, America/Indiana/Vincennes, America/Indiana/Winamac, America/Indianapolis, America/Inuvik, America/Iqaluit, America/Jamaica, America/Jujuy, America/Juneau, America/Kentucky/Louisville, America/Kentucky/Monticello, America/Knox_IN, America/Kralendijk, America/La_Paz, America/Lima, America/Los_Angeles, America/

Louisville, America/Lower_Princes, America/Maceio, America/Managua, America/Manaus, America/Marigot, America/Martinique, America/Matamoros, America/Mazatlan, America/Mendoza, America/Menominee, America/Merida, America/Metlakatla, America/Mexico_City, America/Miquelon, America/Moncton, America/Monterrey, America/Montevideo, America/Montreal, America/Montserrat, America/Nassau, America/New_York, America/Nipigon, America/Nome, America/Noronha, America/North_Dakota/Beulah, America/North_Dakota/Center, America/North_Dakota/New_Salem, America/Ojinaga, America/Panama, America/Pangnirtung, America/Paramaribo, America/Phoenix, America/Port-au-Prince, America/Port_of_Spain, America/Porto_Acre, America/Porto_Velho, America/Puerto_Rico, America/Rainy_River, America/Rankin_Inlet, America/Recife, America/Regina, America/Resolute, America/Rio_Branco, America/Rosario, America/Santa_Isabel, America/Santarem, America/Santiago, America/Santo_Domingo, America/Sao_Paulo, America/Scoresbysund, America/Shiprock, America/Sitka, America/St_Barthelemy, America/St_Johns, America/St_Kitts, America/St_Lucia, America/St_Thomas, America/St_Vincent, America/Swift_Current, America/Tegucigalpa, America/Thule, America/Thunder_Bay, America/Tijuana, America/Toronto, America/Tortola, America/Vancouver, America/Virgin, America/Whitehorse, America/Winnipeg, America/Yakutat, America/Yellowknife, Antarctica/Casey, Antarctica/Davis, Antarctica/DumontDURville, Antarctica/Macquarie, Antarctica/Mawson, Antarctica/McMurdo, Antarctica/Palmer, Antarctica/Rothera, Antarctica/South_Pole, Antarctica/Syowa, Antarctica/Troll, Antarctica/Vostok, Arctic/Longyearbyen, Asia/Aden, Asia/Almaty, Asia/Amman, Asia/Anadyr, Asia/Aqtau, Asia/Aqtobe, Asia/Ashgabat, Asia/Ashkhabad, Asia/Baghdad, Asia/Bahrain, Asia/Baku, Asia/Bangkok, Asia/Beirut, Asia/Bishkek, Asia/Brunei, Asia/Calcutta, Asia/Chita, Asia/Chobalsan, Asia/Chongqing, Asia/Chungking, Asia/Colombo, Asia/Dacca, Asia/Damascus, Asia/Dhaka, Asia/Dili, Asia/Dubai, Asia/Dushanbe, Asia/Gaza, Asia/Harbin, Asia/Hebron, Asia/Ho_Chi_Min, Asia/Hong_Kong, Asia/Hovd, Asia/Irkutsk, Asia/Istanbul, Asia/Jakarta, Asia/Jayapura, Asia/Jerusalem, Asia/Kabul, Asia/Kamchatka, Asia/Karachi, Asia/Kashgar, Asia/Kathmandu, Asia/Katmandu, Asia/Khandyga, Asia/Kolkata, Asia/Krasnoyarsk, Asia/Kuala_Lumpur, Asia/Kuching, Asia/Kuwait, Asia/Macao, Asia/Macau, Asia/Magadan, Asia/Makassar, Asia/Manila, Asia/Muscat, Asia/Nicosia, Asia/Novokuznetsk, Asia/Novosibirsk, Asia/Omsk, Asia/Oral, Asia/Phnom_Penh, Asia/Pontianak, Asia/Pyongyang, Asia/Qatar, Asia/Qyzylorda, Asia/Rangoon, Asia/Riyadh, Asia/Saigon, Asia/Sakhalin, Asia/Samarkand, Asia/Seoul, Asia/Shanghai, Asia/Singapore, Asia/Srednekolymsk, Asia/Taipei, Asia/Tashkent, Asia/Tbilisi, Asia/Tehran, Asia/Tel_Aviv, Asia/Thimbu, Asia/Thimphu, Asia/Tokyo, Asia/Ujung_Pandang, Asia/Ulaanbaatar, Asia/Ulan_Bator, Asia/Urumqi, Asia/Ust-Nera, Asia/Vientiane, Asia/Vladivostok, Asia/Yakutsk, Asia/Yekaterinburg, Asia/Yerevan, Atlantic/Azores, Atlantic/Bermuda, Atlantic/Canary, Atlantic/Cape_Verde, Atlantic/Faeroe, Atlantic/Faroe, Atlantic/Jan_Mayen, Atlantic/Madeira, Atlantic/Reykjavik, Atlantic/South_Georgia, Atlantic/St_Helena, Atlantic/Stanley, Australia/ACT, Australia/Adelaide, Australia/Brisbane, Australia/Broken_Hill, Australia/Canberra, Australia/Currie, Australia/Darwin, Australia/Eucla, Australia/Hobart, Australia/LHI, Australia/Lindeman, Australia/Lord_Howe, Australia/Melbourne, Australia/NSW, Australia/North, Australia/Perth, Australia/Queensland, Australia/South, Australia/Sydney, Australia/Tasmania, Australia/Victoria, Australia/West, Australia/Yancowinna, Brazil/Acre, Brazil/DeNoronha, Brazil/East, Brazil/West, CET, CST6CDT, Canada/Atlantic, Canada/Central, Canada/East-Saskatchewan, Canada/Eastern, Canada/Mountain, Canada/Newfoundland, Canada/Pacific,

Canada/Saskatchewan, Canada/Yukon, Chile/Continental, Chile/EasterIsland, Cuba, EET, EST, EST5EDT, Egypt, Eire, Etc/GMT, Etc/GMT+0, Etc/GMT+1, Etc/GMT+10, Etc/GMT+11, Etc/GMT+12, Etc/GMT+2, Etc/GMT+3, Etc/GMT+4, Etc/GMT+5, Etc/GMT+6, Etc/GMT+7, Etc/GMT+8, Etc/GMT+9, Etc/GMT-0, Etc/GMT-1, Etc/GMT-10, Etc/GMT-11, Etc/GMT-12, Etc/GMT-13, Etc/GMT-14, Etc/GMT-2, Etc/GMT-3, Etc/GMT-4, Etc/GMT-5, Etc/GMT-6, Etc/GMT-7, Etc/GMT-8, Etc/GMT-9, Etc/GMT0, Etc/Greenwich, Etc/UCT, Etc/UTC, Etc/Universal, Etc/Zulu, Europe/Amsterdam, Europe/Andorra, Europe/Athens, Europe/Belfast, Europe/Belgrade, Europe/Berlin, Europe/Bratislava, Europe/Brussels, Europe/Bucharest, Europe/Budapest, Europe/Busingen, Europe/Chisinau, Europe/Copenhagen, Europe/Dublin, Europe/Gibraltar, Europe/Guernsey, Europe/Helsinki, Europe/Isle_of_Man, Europe/Istanbul, Europe/Jersey, Europe/Kaliningrad, Europe/Kiev, Europe/Lisbon, Europe/Ljubljana, Europe/London, Europe/Luxembourg, Europe/Madrid, Europe/Malta, Europe/Mariehamn, Europe/Minsk, Europe/Monaco, Europe/Moscow, Europe/Nicosia, Europe/Oslo, Europe/Paris, Europe/Podgorica, Europe/Prague, Europe/Riga, Europe/Rome, Europe/Samara, Europe/San_Marino, Europe/Sarajevo, Europe/Simferopol, Europe/Skopje, Europe/Sofia, Europe/Stockholm, Europe/Tallinn, Europe/Tirane, Europe/Tiraspol, Europe/Uzhgorod, Europe/Vaduz, Europe/Vatican, Europe/Vienna, Europe/Vilnius, Europe/Volgograd, Europe/Warsaw, Europe/Zagreb, Europe/Zaporozhye, Europe/Zurich, GB, GB-Eire, GMT, GMT+0, GMT-0, GMT0, Greenwich, HST, Hongkong, Iceland, Indian/Antananarivo, Indian/Chagos, Indian/Christmas, Indian/Cocos, Indian/Comoro, Indian/Kerguelen, Indian/Mahe, Indian/Maldives, Indian/Mauritius, Indian/Mayotte, Indian/Reunion, Iran, Israel, Jamaica, Japan, Kwajalein, Libya, MET, MST, MST7MDT, Mexico/BajaNorte, Mexico/BajaSur, Mexico/General, NZ, NZ-CHAT, Navajo, PRC, PST8PDT, Pacific/Apia, Pacific/Auckland, Pacific/Bougainville, Pacific/Chatham, Pacific/Chuuk, Pacific/Easter, Pacific/Efate, Pacific/Enderbury, Pacific/Fakaofu, Pacific/Fiji, Pacific/Funafuti, Pacific/Galapagos, Pacific/Gambier, Pacific/Guadalcanal, Pacific/Guam, Pacific/Honolulu, Pacific/Johnston, Pacific/Kiritimati, Pacific/Kosrae, Pacific/Kwajalein, Pacific/Majuro, Pacific/Marquesas, Pacific/Midway, Pacific/Nauru, Pacific/Niue, Pacific/Norfolk, Pacific/Nooumea, Pacific/Pago_Pago, Pacific/Palau, Pacific/Pitcairn, Pacific/Pohnpei, Pacific/Ponape, Pacific/Port_Moresby, Pacific/Rarotonga, Pacific/Saipan, Pacific/Samoa, Pacific/Tahiti, Pacific/Tarawa, Pacific/Tongatapu, Pacific/Truk, Pacific/Wake, Pacific/Wallis, Pacific/Yap, Poland, Portugal, ROC, ROK, Singapore, Turkey, UCT, US/Alaska, US/Aleutian, US/Arizona, US/Central, US/East-Indiana, US/Eastern, US/Hawaii, US/Indiana-Starke, US/Michigan, US/Mountain, US/Pacific, US/Pacific-New, US/Samoa, UTC, Universal, W-SU, WET, Zulu>

リストからタイムゾーンを選択します。

UserInterface 設定:

xConfiguration UserInterface ContactInfo Type

ディスプレイまたはタッチ コントローラの左上隅にあるステータス フィールドに表示する、連絡先情報の種類を選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration UserInterface ContactInfo Type: Type

説明:

Type: Auto/None/IPv4/IPv6/H323Id/H320Number/E164Alias/SipUri/SystemName/DisplayName

Auto: このビデオ システムに到達するために別のシステムがダイヤルできるアドレスを表示します。アドレスはデフォルトのコール プロトコルおよびシステム登録によって異なります。

None: どのような連絡先情報も表示しません。

IPv4: システムの IPv4 アドレスを表示します。

IPv6: システムの IPv6 アドレスを表示します。

H323Id: システムの H.323 ID を表示します (H323 H323Alias ID 設定を参照)。

H320Number: 連絡先情報としてシステムの H.320 番号を表示します (Cisco TelePresence ISDN Link に接続されている場合のみ)。

E164Alias: 連絡先情報としてシステムの H.323 E.164 エイリアスを表示します (H323 H323Alias E164 設定を参照)。

SipUri: システムの SIP URI を表示します (SIP URI 設定を参照)。

SystemName: システムの名前を表示します (SystemUnit Name 設定を参照)。

DisplayName: システムの表示名を表示します (SIP DisplayName 設定を参照)。

xConfiguration UserInterface KeyTones Mode

システムは、リモコンのキーを押したときや Touch コントローラでテキストや番号を入力したときにキーボード クリック効果音 (キー トーン) が鳴るように設定できます。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration UserInterface KeyTones Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

Off: キー トーン効果音が鳴りません。

On: キー トーン効果音が鳴ります。

xConfiguration UserInterface Language

画面およびタッチ コントローラでメニューやメッセージで使用される言語を選択します。デフォルトの言語は英語です。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: 英語

使用方法:

xConfiguration UserInterface Language: Language

説明:

Language: English/ChineseSimplified/ChineseTraditional/Catalan/Czech/Danish/Dutch/Finnish/French/German/Hungarian/Italian/Japanese/Korean/Norwegian/Polish/PortugueseBrazilian/Russian/Spanish/Swedish/Turkish/Arabic/Hebrew

リストから言語を選択します。

xConfiguration UserInterface OSD Output

画面上の情報とインジケータ (OSD) を表示するモニタを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration UserInterface OSD Output: Output

説明:

Output: Auto/1/2

Auto: システムは、ビデオ出力に接続されたモニタを検出し、画面上の情報とインジケータを最初に接続されたモニタに送信します。複数のモニタがセットアップされ、システムをオンにする前にすべてのモニタが接続されていた場合は、画面上の情報とインジケータが出力コネクタ 1 (HDMI 1) から始まる最も低い番号のビデオ出力に送信されます。

1 ~ 2: システムは画面上の情報とインジケータを指定された出力に送信します。システムの出力コネクタ n に画面上の情報とインジケータを送信する場合は n を選択します。

[ビデオ (Video)] 設定:

xConfiguration Video DefaultMainSource

メイン ビデオ ソースとして使用されるビデオ入力ソースを定義します。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: 1

使用方法:

xConfiguration Video DefaultMainSource: DefaultMainSource

説明:

DefaultMainSource: 1/2

メイン ビデオ ソースとして使用されるソースを設定します。

xConfiguration Video Input Connector [1..2] CameraControl Mode

このビデオ入力コネクタに接続されているカメラを制御するかどうかを定義します。

カメラ制御はコネクタ 2 (DVI-I) では使用できないことに注意してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: コネクタ 1:On コネクタ 2:Off

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector n CameraControl Mode: Mode

説明:

Mode: コネクタ 1:Off/On コネクタ 2:Off

[オフ (Off)]: カメラ制御をディセーブルにします。

[オン (On)]: カメラ制御をイネーブルにします。

xConfiguration Video Input Connector [1..2] CameraControl CameraId

カメラ ID はビデオ入力に接続されたカメラの一意の ID です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 1

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector *n* CameraControl CameraId: CameraId

説明:

CameraId: 1

カメラ ID は固定で、変更できません。

xConfiguration Video Input Connector [1..2] InputSourceType

ビデオ入力に接続された入力ソースのタイプを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: コネクタ 1:camera コネクタ 2:PC

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector *n* InputSourceType: InputSourceType

説明:

n: 入力コネクタを識別するインデックス。範囲: 1..2

InputSourceType: camera/PC/mediaplayer/document_camera/whiteboard/other

[カメラ (camera)]: カメラがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

[PC]: コンピュータがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

[メディア プレーヤー (mediaplayer)]: メディア プレーヤーがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

[ドキュメント カメラ (document_camera)]: ドキュメント カメラがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

[ホワイトボード (whiteboard)]: ホワイトボード カメラがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

[その他 (other)]: 他のオプションが適合しない場合に使用します。

xConfiguration Video Input Connector [1..2] Name

ビデオ入力コネクタの名前を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector *n* Name: Name

説明:

n: 入力コネクタを識別するインデックス。範囲: 1..2

Name: 文字列 (0, 50)

ビデオ入力コネクタの名前。

xConfiguration Video Input Connector [1..2] Quality

ビデオのエンコードと送信のときには、高解像度と高フレーム レートとの間にトレード オフが存在します。一部のビデオ ソースでは、高フレーム レートが高解像度より重要である場合や、逆の場合もあります。この設定は、高フレーム レートと高解像度のどちらを優先するかを指定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: コネクタ 1:Motion コネクタ 2:Sharpness

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector *n* Quality: Quality

説明:

n: 入力コネクタを識別するインデックス。範囲: 1..2

Quality: Motion/Sharpness

[モーション (Motion)]: できるだけ高いフレーム レートにします。通常、多数の参加者がいる場合や画像の動きが激しい場合など、高フレーム レートが必要なときに使用されます。

[シャープさ (Sharpness)]: できるだけ高い解像度にします。詳細なイメージやグラフィックに高い品質が必要な場合に使用されます。

xConfiguration Video Input Connector [1..2] PresentationSelection

ビデオ入力にプレゼンテーション ソースを接続するときの、ビデオ システムの動作を定義します。一般に、どの入力ソースでもプレゼンテーション ソースとして使用できます。通常、メイン カメラはプレゼンテーション ソースとしては使用されません。

ビデオ システムがスタンバイ モードである場合、プレゼンテーション ソースを接続すると起動します。相手先とプレゼンテーションを共有すると、常に追加アクションが必要となることに注意してください (ユーザ インターフェイスで [共有 (Share)] を押します)。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: コネクタ 1:Manual コネクタ 2:OnConnect

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector *n* PresentationSelection:

PresentationSelection

説明:

n: 入力コネクタを識別するインデックス。範囲: 1..2

PresentationSelection: Manual/OnConnect

[手動 (Manual)]: 手動モードでは、ビデオ入力の内容をユーザ インターフェイスから選択するまで画面に表示されません。

[接続中 (OnConnect)]: [接続中 (OnConnect)] モードでは、ケーブルが接続されている場合はビデオ入力の内容が画面に表示されます。それ以外の場合は、[手動 (Manual)] モードと同じ動作です。

xConfiguration Video Input Connector [1..2] Visibility

ユーザ インターフェイスのメニューにあるビデオ入力コネクタの表示を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: コネクタ 1:IfSignal コネクタ 2:Always

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector *n* Visibility: Visibility

説明:

Visibility: Never/Always/IfSignal

[なし (Never)]: 入力ソースがプレゼンテーション ソースとして使用される見込みがない場合、[なし (Never)] に設定します。

[常時 (Always)]: [常時 (Always)] に設定すると、ビデオ入力コネクタ用メニュー選択はグラフィカル ユーザ インターフェイスに常に表示されます。

[シグナルがある場合 (IfSignal)]: [シグナルがある場合 (IfSignal)] に設定すると、ビデオ入力コネクタ用メニュー選択は、ビデオ入力に何か接続されている場合のみ表示されます。

xConfiguration Video Monitors

Video Output Connector [n] MonitorRole 設定を使用する各モニタにロールを割り当てます。モニタロールは、この出力に接続されているモニタ上のどのレイアウト(コール参加者とプレゼンテーション)に表示するかを決定します。別のモニタ ロールのモニタは異なるレイアウトになります。両方のモニタにモニタ ロール First を設定することはできません。

Video Monitors で設定するモニタ レイアウト モードには、部屋のセットアップで利用する各レイアウト数を反映させてください。いくつかのモニタがプレゼンテーション用に確保できることに注意してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Video Monitors: Monitors

説明:

Monitors: Auto/Single/Dual/DualPresentationOnly

[自動(Auto)]: コーデックに接続されたモニタ数は自動的に検出され、レイアウトは MonitorRole の設定に従ってモニタに割り振られます。

[シングル(Single)]: レイアウトは、1 台のモニタに表示されます。2 台のモニタがコーデックに接続されている場合、1 台は無効になります。

[デュアル(Dual)]: レイアウトはモニタ ロール [第1 (First)] および [第2 (Second)] のモニタに配信されます。プレゼンテーションがレイアウトの一部である場合、コールの参加者はすべてモニタ ロール [第1 (First)] のモニタに表示され、プレゼンテーションはモニタ ロール [第2 (Second)] のモニタに表示されます。

[デュアルプレゼンテーションのみ (DualPresentationOnly)]: コールのすべての参加者がモニタ ロール [第1 (First)] のモニタに表示されます。プレゼンテーションがレイアウトの一部である場合、プレゼンテーションはモニタ ロール [第2 (Second)] に表示されます。

さまざまな最適鮮明度プロファイル、コール レート、フレーム レートで使用される一般的な解像度

| フレーム レート | 最適鮮明 度プロフ イル | コール レート | | | | | | |
|-------------|--------------------|----------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | | 256 kbps | 768 kbps | 1152 kbps | 1472 kbps | 2560 kbps | 4 Mbps | 6 Mbps |
| 30 fps | 標準 | 512X288 | 1024X576 | 1280X720 | 1280X720 | 1920X1080 | 1920X1080 | 1920X1080 |
| | 中型 | 640X360 | 1280X720 | 1280X720 | 1280X720 | 1920X1080 | 1920X1080 | 1920X1080 |
| | 大 (High) | 768X448 | 1280X720 | 1280X720 | 1920X1080 | 1920X1080 | 1920X1080 | 1920X1080 |
| 60 fps | 標準 | 256X144 | 512X288 | 768X448 | 1024X576 | 1280X720 | 1280X720 | 1920X1080 |
| | 中型 | 256X144 | 768X448 | 1024X576 | 1024X576 | 1280X720 | 1920X1080 | 1920X1080 |
| | 大 (High) | 512X288 | 1024X576 | 1280X720 | 1280X720 | 1920X1080 | 1920X1080 | 1920X1080 |

xConfiguration Video Output Connector [1..2] CEC Mode

ビデオ出力 (HDMI) は、Consumer Electronics Control (CEC) をサポートします。この設定が [オン (On)] の場合 (デフォルトは [オフ (Off)])、システムはシステム自体がスタンバイに移行する際にモニタをスタンバイ状態に設定するために CEC を使用します。同様に、システムがスタンバイから復帰するとき、システム自身がモニタを起動します。これを実現するには、出力に接続されるモニタは CEC と互換性があり、CEC がモニタに設定されている必要があります。

CEC については、製造業者によって異なるマーケティング名称が使用されていることに注意してください。例: Anynet+ (Samsung)、Aquos Link (シャープ)、BRAVIA Sync (Sony)、HDMI-CEC (日立)、Kuro Link (パイオニア)、CE-Link および Regza Link (東芝)、RIHD (オンキヨー)、HDAVI Control、EZ-Sync、VIERA Link (Panasonic)、EasyLink (Philips)、NetCommand for HDMI (三菱)。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration Video Output Connector n CEC Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

[オフ (Off)]: CEC 制御をディセーブルにします。

[オン (On)]: CEC 制御をイネーブルにします。

xConfiguration Video Output Connector [1..2] MonitorRole

モニタ ロールは、ビデオ出力コネクタに接続されたモニタにどのビデオ ストリームを表示するかを示します。すべての出力用の Video Monitors 設定および MonitorRole 設定とともに、各モニタに表示されるレイアウト (ビデオ ストリーム) を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: コネクタ [1]:First コネクタ [2]:Second

使用方法:

xConfiguration Video Output Connector *n* MonitorRole: MonitorRole

説明:

MonitorRole: Auto/First/Second/PresentationOnly

[自動 (Auto)]: モニタが接続されたときにシステムが検知し、Video Monitors 設定に対応するモニタ ロール ([第1 (First)], [第2 (Second)]) を自動的に割り当てます。

[第1 (First)]/[第2 (Second)]: マルチ モニタ設定でのモニタの役割を定義します。シングル モニタ設定では、[第1 (First)] と [第2 (Second)] との違いはありません。

[プレゼンテーションのみ (PresentationOnly)]: アクティブな場合プレゼンテーション ビデオ ストリームを表示し、他のものは表示しません。このモニタ ロールのモニタおよび出力は Video Monitors 設定によって無視されます。

xConfiguration Video Output Connector [1..2] OverscanLevel

モニタによっては、画像全体を表示できない可能性があります。これはモニタに表示したときに、ビデオ システムから送信される画像の外側が、切断されることを意味します。

ビデオ システムに使用可能なフレームの外部を使用しないように指示するには、この設定を使用します。この部分はモニタによって切断されている可能性があります。この場合、画面上のビデオとメッセージの両方が拡大縮小されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: なし (None)

使用方法:

xConfiguration Video Output Connector *n* OverscanLevel: OverscanLevel

説明:

OverscanLevel: None/Medium/High

[なし (None)]: ビデオ システムは出力解像度すべてを使用します。

[中 (Medium)]: ビデオ システムは出力解像度の外側 3 % を使用しません。

[高 (High)]: ビデオ システムは出力解像度の外側 6 % を使用しません。

xConfiguration Video Output Connector [1..2] Resolution

接続された画面の解像度とリフレッシュ レートを定義します。

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Video Output Connector *n* Resolution: Resolution

説明:

Resolution: Auto/1280_720_50/1280_720_60/1920_1080_50/1920_1080_60

[自動 (Auto)]: システムは接続されたモニタのネゴシエーションに基づいて自動的に最適な解像度の設定を試行します。

1280_720_50: 解像度は 1280 x 720、更新間隔は 50 Hz です。

1280_720_60: 解像度は 1280 x 720、更新間隔は 60 Hz です。

1920_1080_50: 解像度は 1920 x 1080、更新間隔は 50 Hz です。

1920_1080_60: 解像度は 1920 x 1080、更新間隔は 60 Hz です。

xConfiguration Video Presentation DefaultSource

デフォルト プレゼンテーション ソースとして使用するビデオ入力ソースを定義します。この設定は、API やサードパーティ製ユーザ インターフェイスで使用される場合がありますが、Touch 10 または TRC6 リモコンを使用している場合は該当しません。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: 2

使用方法:

xConfiguration Video Presentation DefaultSource: DefaultSource

説明:

DefaultSource: 1/2

デフォルト プレゼンテーション ソースとして使用するビデオ入力ソース。

xConfiguration Video Selfview Default Mode

メイン ビデオ ソース (セルフビュー) をコールの後に画面に表示するかどうかを定義します。セルフ ビュー ウィンドウの位置とサイズはそれぞれ、Video Selfview Default PIPPosition 設定と Video Selfview Default FullscreenMode 設定によって決定されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Current

使用方法:

xConfiguration Video Selfview Default Mode: Mode

説明:

Mode: Off/Current/On

[オフ (Off)]: セルフビューはコール退出時にオフにされます。

[現在 (Current)]: セルフビューはそのままの状態が残ります。つまりコール中にオンであった場合はコール終了後にもオンのままであり、コール中にオフであった場合はコール終了後にもオフのままであります。

[オン (On)]: セルフビューはコール退出時にオンにされます。

xConfiguration Video Selfview Default FullscreenMode

コール終了後にメイン ビデオ ソース (セルフビュー) を全画面表示するか、小さいピクチャ イン ピクチャ (PiP) 画面で表示するかを定義します。この設定はセルフビューがオンである場合にのみ有効です (Video Selfview Default Mode 設定を参照)。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Current

使用方法:

xConfiguration Video Selfview Default FullscreenMode: FullscreenMode

説明:

FullscreenMode: Off/Current/On

[オフ (Off)]: セルフビューは PiP として表示されます。

[現在 (Current)]: セルフビューの画像のサイズはコール終了時に未変更の状態に保たれます。つまりコール中に PiP であった場合はコール終了後にも PiP のままであり、コール中に全画面であった場合はコール終了後にも全画面のままであります。

[オン (On)]: セルフビューの画像は全画面表示されます。

xConfiguration Video Selfview Default OnMonitorRole

コール終了後にメイン ビデオ ソース (セルフビュー) を表示するモニタ/出力を定義します。この値は、異なる出力用に設定された Video Output Connector [n] MonitorRole 設定のモニタ ロールを反映します。

この設定は、セルフビューが全画面表示されていてもピクチャ イン ピクチャ (PiP) で表示されていても適用されますが、Video Monitors 設定が Dual に設定されている場合に限られます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Current

使用方法:

xConfiguration Video Selfview Default OnMonitorRole: OnMonitorRole

説明:

OnMonitorRole: First/Second/Current

[第 1 (First)]: セルフビューの画像は、Video Output HDMI MonitorRole が [第 1 (First)] に設定されている場合に出力に表示されます。

[第 2 (Second)]: セルフビューの画像は、Video Output HDMI MonitorRole が [第 2 (Second)] に設定されている場合に出力に表示されます。

[現在 (Current)]: コールを中止すると、セルフビュー画像がコール中と同じ出力上に保持されます。

xConfiguration Video Selfview Default PIPPosition

コール終了後のセルフビューの小さいピクチャ イン ピクチャ (PiP) 画面の位置を定義します。この設定はセルフビューがオンであり (Video Selfview Default Mode 設定を参照)、フルスクリーン ビューがオフである場合 (Video Selfview Default FullscreenMode 設定を参照) にのみ有効です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Current

使用方法:

xConfiguration Video Selfview Default PIPPosition: PIPPosition

説明:

PIPPosition: Current/UpperLeft/UpperCenter/UpperRight/CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight

[現在 (Current)]: セルフビュー PiP の位置はコール終了後にも変更されません。

[左上隅 (UpperLeft)]: セルフビュー PiP が画面の左上隅に表示されます。

[上部中央 (UpperCenter)]: セルフビュー PiP が画面の上部中央に表示されます。

[右上隅 (UpperRight)]: セルフビュー PiP が画面の右上隅に表示されます。

[左中央 (CenterLeft)]: セルフビュー PiP が画面の左中央に表示されます。

[右中央 (CenterRight)]: セルフビュー PiP が画面の右中央に表示されます。

[左下隅 (LowerLeft)]: セルフビュー PiP が画面の左下隅に表示されます。

[右下隅 (LowerRight)]: セルフビュー PiP が画面の右下隅に表示されます。

xConfiguration Video Selfview OnCall Mode

コールをセットアップする短い間、この設定を使用してセルフ ビューがオンにされます。Video Selfview OnCall Duration 設定は、それが維持される時間の長さを指定します。これは一般にセルフ ビューがオフの場合に適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: on

使用方法:

xConfiguration Video Selfview OnCall Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

[オフ (Off)]: セルフ ビューはコール セットアップ中に自動的に表示されません。

[オン (On)]: セルフ ビューはコール セットアップ中に自動的に表示されます。

xConfiguration Video Selfview OnCall Duration

この設定は Video Selfview OnCall Mode 設定が On である場合のみ有効です。この場合、ここで設定された秒数により、自動的にオフにされる前にセルフ ビューが表示される期間が決まります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 10

使用方法:

xConfiguration Video Selfview OnCall Duration: Duration

説明:

Duration: 整数 (1 ~ 60)

範囲: セルフ ビューをオンにする期間を選択します。有効な範囲は、1 ~ 60 秒です。

第 4 章

xCommand コマンド

xCommand コマンドの説明

この章では、xCommand タイプ コマンドとパラメータの完全なリストを参照できます。

定期的にシスコの Web サイトにアクセスして、マニュアルの最新版をチェックすることをお勧めします。

参照先: ▶ <http://www.cisco.com/go/sx-docs>

| | | | |
|--|----|---|----|
| [音声 (Audio)] コマンド | 86 | xCommand Call Join..... | 90 |
| xCommand Audio Microphones Mute..... | 86 | xCommand Call Reject..... | 90 |
| xCommand Audio Microphones Unmute..... | 86 | xCommand Call Resume..... | 90 |
| xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone List..... | 86 | xCommand Call UnattendedTransfer..... | 90 |
| xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone Play..... | 86 | | |
| xCommand Audio Volume Decrease..... | 86 | CallHistory コマンド..... | 91 |
| xCommand Audio Volume Increase..... | 86 | xCommand CallHistory AcknowledgeAllMissedCalls..... | 91 |
| xCommand Audio Volume Mute..... | 86 | xCommand CallHistory AcknowledgeMissedCall..... | 91 |
| xCommand Audio Volume Set..... | 87 | xCommand CallHistory DeleteAll..... | 91 |
| xCommand Audio Volume SetToDefault..... | 87 | xCommand CallHistory DeleteEntry..... | 91 |
| xCommand Audio Volume Unmute..... | 87 | xCommand CallHistory Get..... | 92 |
| | | xCommand CallHistory Recents..... | 92 |
| Bookings コマンド..... | 87 | | |
| xCommand Bookings Clear..... | 87 | カメラ コマンド..... | 93 |
| xCommand Bookings List..... | 87 | xCommand Camera PositionReset..... | 93 |
| | | xCommand Camera Preset Activate..... | 93 |
| コール コマンド..... | 88 | xCommand Camera Preset ActivateDefaultPosition..... | 93 |
| xCommand Call Accept..... | 88 | xCommand Camera Preset Edit..... | 94 |
| xCommand Call DTMFSend..... | 88 | xCommand Camera Preset List..... | 94 |
| xCommand Call Disconnect..... | 88 | xCommand Camera Preset Remove..... | 94 |
| xCommand Call FarEndControl Camera Move..... | 88 | xCommand Camera Preset Show..... | 95 |
| xCommand Call FarEndControl Camera Stop..... | 89 | xCommand Camera Preset Store..... | 95 |
| xCommand Call FarEndControl RoomPreset Activate..... | 89 | xCommand Camera Ramp..... | 96 |
| xCommand Call FarEndControl Source Select..... | 89 | xCommand Camera TriggerAutofocus..... | 96 |
| xCommand Call Hold..... | 89 | | |
| xCommand Call Ignore..... | 90 | | |

| | | | |
|--|-----|---|-----|
| 会議 コマンド | 97 | Presentation コマンド | 106 |
| xCommand Conference DoNotDisturb Activate | 97 | xCommand Presentation Start | 106 |
| xCommand Conference DoNotDisturb Deactivate | 97 | xCommand Presentation Stop | 106 |
| xCommand Conference SpeakerLock Release | 97 | プロビジョニング コマンド | 107 |
| xCommand Conference SpeakerLock Set | 97 | xCommand Provisioning CompleteUpgrade | 107 |
| 診断 コマンド | 98 | xCommand Provisioning PostponeUpgrade | 107 |
| xCommand Diagnostics Run | 98 | xCommand Provisioning CUCM CTL Delete | 107 |
| ダイヤル (Dial) コマンド | 98 | xCommand Provisioning CUCM CTL Show | 107 |
| xCommand Dial | 98 | xCommand Provisioning StartUpgrade | 107 |
| HttpFeedback コマンド | 99 | プロキシミティ コマンド | 108 |
| xCommand HttpFeedback Deregister | 99 | xCommand Proximity Services Activate | 108 |
| xCommand HttpFeedback Register | 99 | xCommand Proximity Services Deactivate | 108 |
| 周辺機器 (Peripherals) コマンド | 99 | RoomPreset コマンド | 108 |
| xCommand Peripherals Connect | 99 | xCommand RoomPreset Activate | 108 |
| xCommand Peripherals HeartBeat | 100 | xCommand RoomPreset Clear | 108 |
| xCommand Peripherals List | 100 | xCommand RoomPreset Store | 109 |
| xCommand Peripherals Pairing DeviceDiscovery Start | 100 | セキュリティ コマンド | 109 |
| xCommand Peripherals Pairing Pair | 100 | xCommand Security Persistency | 109 |
| xCommand Peripherals Pairing Unpair | 101 | Standby コマンド | 110 |
| xCommand Peripherals Purge | 101 | xCommand Standby Activate | 110 |
| Phonebook コマンド | 101 | xCommand Standby Deactivate | 110 |
| xCommand Phonebook Contact Add | 101 | xCommand Standby ResetTimer | 110 |
| xCommand Phonebook Contact Delete | 102 | SystemUnit コマンド | 110 |
| xCommand Phonebook Contact Modify | 102 | xCommand SystemUnit Boot | 110 |
| xCommand Phonebook ContactMethod Add | 103 | xCommand SystemUnit FactoryReset | 110 |
| xCommand Phonebook ContactMethod Delete | 103 | xCommand SystemUnit Notifications RemoveAll | 111 |
| xCommand Phonebook ContactMethod Modify | 104 | xCommand SystemUnit OptionKey Add | 111 |
| xCommand Phonebook Folder Add | 104 | | |
| xCommand Phonebook Folder Delete | 104 | | |
| xCommand Phonebook Folder Modify | 105 | | |
| xCommand Phonebook Search | 105 | | |



| | | | |
|--|-----|--|-----|
| xCommand SystemUnit OptionKey Remove..... | 111 | xCommand Video Matrix Swap | 118 |
| xCommand SystemUnit OptionKey RemoveAll | 111 | xCommand Video Matrix Unassign | 118 |
| xCommand SystemUnit SoftwareUpgrade..... | 111 | xCommand Video PresentationPIP Set | 119 |
| xCommand Video Selfview Set..... | 119 | | |
| 時刻 (Time) コマンド..... | 112 | | |
| xCommand Time DateTime Get | 112 | | |
| xCommand Time DateTime Set | 112 | | |
| UserInterface コマンド..... | 112 | | |
| xCommand UserInterface Message Alert Clear | 112 | | |
| xCommand UserInterface Message Alert Display | 112 | | |
| xCommand UserInterface Message Prompt Clear | 113 | | |
| xCommand UserInterface Message Prompt Display | 113 | | |
| xCommand UserInterface Message Prompt Response..... | 114 | | |
| xCommand UserInterface Message TextLine Clear | 114 | | |
| xCommand UserInterface Message TextLine Display..... | 114 | | |
| xCommand UserInterface OSD Key Click..... | 114 | | |
| xCommand UserInterface OSD Key Press | 115 | | |
| xCommand UserInterface OSD Key Release..... | 115 | | |
| UserManagement コマンド..... | 115 | | |
| xCommand UserManagement RemoteSupportUser Create..... | 115 | | |
| xCommand UserManagement RemoteSupportUser Delete | 115 | | |
| xCommand UserManagement RemoteSupportUser DisablePermanently | 115 | | |
| xCommand UserManagement RemoteSupportUser GetState | 116 | | |
| xCommand UserManagement User Passphrase Change | 116 | | |
| xCommand UserManagement User Passphrase Set | 116 | | |
| [ビデオ (Video)] コマンド..... | 117 | | |
| xCommand Video ActiveSpeakerPIP Set | 117 | | |
| xCommand Video Input SetMainVideoSource..... | 117 | | |
| xCommand Video Input Source SetActiveConnector | 117 | | |
| xCommand Video Layout LayoutFamily Set | 117 | | |
| xCommand Video Matrix Assign | 118 | | |
| xCommand Video Matrix Reset | 118 | | |

[音声 (Audio)] コマンド

xCommand Audio Microphones Mute

すべてのマイクをミュートします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Audio Microphones Mute
```

xCommand Audio Microphones Unmute

マイクのミュートを解除します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Audio Microphones Unmute
```

xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone List

xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingTone を使用して設定可能なすべての着信音を列挙します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone List
```

xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone Play

使用可能な着信音を 1 つ再生します。使用可能な着信音のリストを取得するには、コマンド xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone List を使用します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone Play RingTone: RingTone
```

説明:

RingTone: 文字列(1、100)

着信音の名前。

xCommand Audio Volume Decrease

エンドポイントの音量を下げます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Audio Volume Decrease [Steps: Steps]
```

説明:

Steps: 整数(1 ~ 10)

1 段階が音量の 0.5dB の減少に相当します。

xCommand Audio Volume Increase

エンドポイントの音量を上げます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Audio Volume Increase [Steps: Steps]
```

説明:

Steps: 整数(1 ~ 10)

1 段階が音量の 0.5dB の増加に相当します。

xCommand Audio Volume Mute

エンドポイントの音量をミュートします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Audio Volume Mute
```

xCommand Audio Volume Set

エンドポイントの音量を指定されたレベルに設定します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Audio Volume Set Level: Level

説明:

Level: 整数 (0 ~ 100)

ゲイン レベルを選択します。デフォルト レベルの 70 は 0dB のゲインに相当します。レベル 100 は 15dB のゲインに相当します。

xCommand Audio Volume SetToDefault

現在の音量レベルをエンドポイントのデフォルトとして設定します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Audio Volume SetToDefault

xCommand Audio Volume Unmute

エンドポイントの音量をミュート後に元に戻します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Audio Volume Unmute

Bookings コマンド

xCommand Bookings Clear

現在保存されている予約リストを消去します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Bookings Clear

xCommand Bookings List

システムに保存された予約を表示します。予約の詳細のリストは管理システムから受信されます。すべてのパラメータはオプションで、検索結果を制限するために使用できます。

パラメータを指定しない場合、過去、現在、将来の予約がすべて表示されます。昨日より前の予約をリストしないようにするには、DayOffset = 0 を使用します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Bookings List [Days: Days] [DayOffset: DayOffset] [Limit: Limit]
[Offset: Offset]

説明:

Days: 整数 (1 ~ 365)

予約を取得する日数。

DayOffset: 整数 (0 ~ 365)

検索を開始する日(今日:0、明日:1...)

Limit: 整数 (1 ~ 65534)

列挙する予約の最大数。

Offset: 整数 (0 ~ 65534)

この検索の予約のオフセット番号。

コール コマンド

xCommand Call Accept

着信コールを受け入れます。CallId を指定しなかった場合は、すべての着信コールが受け入れられます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Call Accept [CallId: CallId]
```

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallId は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。CallId をコール中表示するには、xStatus Call コマンドを実行します。

xCommand Call DTMFSend

遠端に DTMF トーンを送信します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Call DTMFSend [CallId: CallId] DTMFString: DTMFString
```

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallId は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。CallId をコール中表示するには、xStatus Call コマンドを実行します。

DTMFString: 文字列 (0, 32)

DTMF 文字列を入力します。

xCommand Call Disconnect

コールを切断します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Call Disconnect [CallId: CallId]
```

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallId は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。CallId をコール中表示するには、xStatus Call コマンドを実行します。

xCommand Call FarEndControl Camera Move

遠端カメラ (リモート カメラ) を移動します。

注: 遠端カメラは停止コマンド (参照: xCommand FarEndControl Camera Stop) が発行されるまで、指定された方向に移動し続けます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Call FarEndControl Camera Move [CallId: CallId] Value: Value
```

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallId は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。CallId をコール中表示するには、xStatus Call コマンドを実行します。

Value: Left/Right/Up/Down/ZoomIn/ZoomOut

カメラを移動する方法に関するアクションを選択します。

xCommand Call FarEndControl Camera Stop

xCommand FarEndControl Camera Move が発行された後に遠端カメラを停止します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Call FarEndControl Camera Stop [CallId: CallId]
```

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallId は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

xCommand Call FarEndControl RoomPreset Activate

このコマンドは、コール中に、遠端コーデックのプリセットをアクティブにするために使用します。プリセットには、遠端コーデック™ のカメラの位置と入力ビデオ スイッチャ設定が含まれます。

プリセットは、遠端コーデック上でローカルに xCommand Preset Store コマンドを使用するか、リモート コーデックから xCommand FarEndControl Preset Store コマンドを使用することによって、事前に遠端コーデック上に保存しておく必要があります。

注: FarEndControl コマンドが機能するためには、遠端コーデック™ の xConfiguration Conference FarEndControl Mode 設定をオンに切り替える必要があります。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Call FarEndControl RoomPreset Activate [CallId: CallId] PresetId: PresetId
```

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallId は、マルチポイント コール中にも、遠端コーデックを識別するために必要とされます。xCommand Dial コマンドを発行すると、CallId が返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

PresetId: 整数 (1 ~ 15)

遠端コーデックに保存されたプリセットの ID。

xCommand Call FarEndControl Source Select

遠端システムの主なソースとして使用するビデオ入力ソースを選択します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Call FarEndControl Source Select [CallId: CallId] SourceId: SourceId
```

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallId は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

SourceId: 整数 (0 ~ 15)

遠端のビデオ入力ソースを選択します。

xCommand Call Hold

コールを保留にします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Call Hold [CallId: CallId] [Reason: Reason]
```

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallId は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

Reason: Conference/Transfer/Other

内部使用専用。

xCommand Call Ignore

着信コールの着信音をオフにします。コールには応答できません。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Call Ignore CallId: CallId

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallID は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

xCommand Call Join

内部使用専用。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Call Join CallId: CallId

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

xCommand Call Reject

着信コールを拒否します。コール ID を指定しない場合は、すべての着信コールが拒否されます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Call Reject [CallId: CallId]

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallID は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

xCommand Call Resume

保留されていたコールを再開します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Call Resume CallId: CallId

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallID は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

xCommand Call UnattendedTransfer

進行中のコールを他の参加者に転送します。SIP コールでのみ完全にサポートされます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Call UnattendedTransfer CallId: CallId Number: Number

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallID は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

Number: 文字列 (0、255)

コールの転送先の番号。

CallHistory コマンド

xCommand CallHistory AcknowledgeAllMissedCalls

すべての不在着信に関するタッチ コントローラ上の不在着信インジケータをオフにします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand CallHistory AcknowledgeAllMissedCalls
```

xCommand CallHistory AcknowledgeMissedCall

指定されたコールに関するタッチ コントローラ上の不在着信インジケータをオフにします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand CallHistory AcknowledgeMissedCall CallHistoryId: CallHistoryId [AcknowledgeConsecutiveDuplications: AcknowledgeConsecutiveDuplications]
```

説明:

CallHistoryId: 整数(1 ~ 2147483647)

当該コールの CallHistoryId。ID 番号を取得するには、xCommand CallHistory Get を実行します。

AcknowledgeConsecutiveDuplications: False/True

情報が重複しているすべての周辺コールを包含または除外することができます。

xCommand CallHistory DeleteAll

過去のコールに関するすべての情報を削除します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand CallHistory DeleteAll [Filter: Filter]
```

説明:

Filter: All/Missed/Placed/Received

削除するコールを絞り込むことができます。

xCommand CallHistory DeleteEntry

指定されたコールに関するすべての情報を削除します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand CallHistory DeleteEntry CallHistoryId: CallHistoryId [AcknowledgeConsecutiveDuplications: AcknowledgeConsecutiveDuplications]
```

説明:

CallHistoryId: 整数(1 ~ 2147483647)

当該コールの CallHistoryId。ID 番号を取得するには、xCommand CallHistory Get を実行します。

AcknowledgeConsecutiveDuplications: False/True

情報が重複しているすべての周辺コールを包含または除外することができます。

xCommand CallHistory Get

ビデオ システム上で過去に発信されたコールに関するすべての情報を取得します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand CallHistory Get [Filter: Filter] [Offset: Offset] [Limit: Limit]
[DetailLevel: DetailLevel] [SearchString: SearchString] [CallHistoryId:
CallHistoryId]
```

説明:

Filter: All/Missed/AnsweredElsewhere/Forwarded/Placed/NoAnswer/Received/Rejected/UnacknowledgedMissed

取得するコールを絞り込むことができます。

Offset: 整数 (0 ~ 65534)

開始するコールを設定します。

Limit: 整数 (0 ~ 65534)

出力内のコール数を定義します。

DetailLevel: Basic/Full

これらのコールに関する情報の詳細レベルを設定します。

SearchString: 文字列 (0、255)

指定した表示名またはコール バック番号に適用されるコマンドを設定できるようにします。

CallHistoryId: 整数 (0 ~ 65534)

当該コールの CallHistoryId。

xCommand CallHistory Recents

ビデオ システム上で過去に発信されたコールに関する集約情報を取得します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand CallHistory Recents [Filter: Filter] [Offset: Offset] [Limit: Limit]
[DetailLevel: DetailLevel] [SearchString: SearchString] [CallHistoryId:
CallHistoryId] [Order: Order]
```

説明:

Filter: All/Missed/AnsweredElsewhere/Forwarded/Placed/NoAnswer/Received/Rejected/UnacknowledgedMissed

取得するコールを絞り込むことができます。

Offset: 整数 (0 ~ 65534)

開始するコールを設定します。

Limit: 整数 (0 ~ 65534)

出力内のコール数を定義します。

DetailLevel: Basic/Full

これらのコールに関する情報の詳細レベルを設定します。

SearchString: 文字列 (0、255)

指定した表示名またはコール バック番号に適用されるコマンドを設定できるようにします。

CallHistoryId: 整数 (0 ~ 65534)

当該コールの CallHistoryId。

Order: OccurrenceTime/OccurrenceFrequency

過去のコールの表示順序を定義します。

カメラ コマンド

xCommand Camera PositionReset

カメラ位置をデフォルト位置にリセットします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Camera PositionReset [Axis: Axis] CameraId: CameraId
```

説明:

Axis: All/Focus/PanTilt/Zoom

リセットするモータを選択します。指定しなかった場合は、すべてのモータがリセットされます。

CameraId: 整数 (1 ~ 1)

リセットするカメラ プリセットの ID。

xCommand Camera Preset Activate

保存されているカメラ プリセットの 1 つをアクティブにします。

xCommand Camera Preset コマンドは、個々のカメラに適用されることに注意してください。これは、接続されたすべてのカメラとビデオ入力スイッチャの設定が単一のプリセットでカバーされる xCommand Preset コマンドとは対照的です。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Camera Preset Activate PresetId: PresetId
```

説明:

PresetId: 整数 (1 ~ 35)

アクティブにするカメラ プリセットの ID。

xCommand Camera Preset ActivateDefaultPosition

定義されたデフォルト位置にカメラを設定します。デフォルト位置は、xCommand Camera Preset Store または xCommand Camera Preset Edit で定義します。カメラごとに定義できるデフォルト位置は 1 つだけです。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Camera Preset ActivateDefaultPosition [CameraId: CameraId]
```

説明:

CameraId: 整数 (1 ~ 1)

アクティブにするカメラ プリセットの ID。CameraId を指定しなかった場合は、すべてのカメラが定義されたそれぞれのデフォルト位置に設定されます。

xCommand Camera Preset Edit

保存されているカメラ プリセットを編集します。xCommand Camera Preset List コマンドで返されるリスト内のカメラ プリセットの名前と位置を変更できます。このプリセットが関連するカメラのデフォルト位置かどうかを変更できます。

xCommand Camera Preset コマンドは、個々のカメラに適用されることに注意してください。これは、単一のプリセットで接続されたすべてのカメラとビデオ入力スイッチャの設定がカバーされる xCommand Preset コマンドとは対照的です。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Camera Preset Edit PresetId: PresetId [ListPosition: ListPosition]
[Name: Name] [DefaultPosition: DefaultPosition]

説明:

PresetId: 整数 (1 ~ 35)

編集するカメラ プリセットの ID。

ListPosition: 整数 (1 ~ 35)

xCommand Camera Preset List コマンドで返されるリスト内の位置。

Name: 文字列 (0, 255)

カメラ プリセットの名前。xCommand Camera Preset List コマンドで返されるリスト内で使用されます。

DefaultPosition: False/True

このプリセットが関連するカメラのデフォルト位置かどうかを定義します。カメラごとに設定可能なデフォルト位置は 1 つだけのため、設定された場合は、古いデフォルト プリセットが自動的に非デフォルトとしてマークされます。

xCommand Camera Preset List

使用可能なカメラ プリセットに関する情報を列挙します。

xCommand Camera Preset コマンドは、個々のカメラに適用されることに注意してください。これは、接続されたすべてのカメラとビデオ入力スイッチャの設定が単一のプリセットでカバーされる xCommand Preset コマンドとは対照的です。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Camera Preset List CameraId: CameraId [DefaultPosition: DefaultPosition]

説明:

CameraId: 整数 (1 ~ 1)

指定されたカメラのプリセットのみを列挙します。

DefaultPosition: False/True

デフォルト位置のみ、または、デフォルト位置以外の位置のみを列挙します。

xCommand Camera Preset Remove

カメラ プリセットを削除します。

xCommand Camera Preset コマンドは、個々のカメラに適用されることに注意してください。これは、接続されたすべてのカメラとビデオ入力スイッチャの設定が単一のプリセットでカバーされる xCommand Preset コマンドとは対照的です。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Camera Preset Remove PresetId: PresetId

説明:

PresetId: 整数 (1 ~ 35)

削除するカメラ プリセットの ID。

xCommand Camera Preset Show

要求された PresetId のプリセット詳細を表示します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Camera Preset Show PresetId: PresetId

説明:

PresetId: 整数 (1 ~ 35)

表示するカメラ プリセットの ID。

xCommand Camera Preset Store

選択されたカメラの現在の位置 (パンとチルト)、ズーム、およびフォーカスを保存します。カメラは CameraId パラメータで識別されます。

xCommand Camera Preset コマンドは、個々のカメラに適用されることに注意してください。これは、接続されたすべてのカメラとビデオ入力スイッチャの設定が単一のプリセットでカバーされる xCommand Preset コマンドとは対照的です。xCommand Camera Preset コマンドは、カメラ位置の完全なセットで動作するのではなく、カメラごとに複数のカメラ位置を処理する場合に便利です。個別のカメラ プリセットを遠端制御に使用することはできません。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Camera Preset Store [PresetId: PresetId] CameraId: CameraId
[ListPosition: ListPosition] [Name: Name] [TakeSnapshot: TakeSnapshot]
[DefaultPosition: DefaultPosition]

説明:

PresetId: 整数 (1 ~ 35)

このカメラ プリセットの ID。明示的に設定しなかった場合は、コーデックが自動的にプリセット ID を割り当てます。

CameraId: 整数 (1 ~ 1)

プリセット位置を保存するカメラを選択します。

ListPosition: 整数 (1 ~ 35)

xCommand Camera Preset List コマンドで返されるリスト内の新しいカメラ プリセットの位置。

Name: 文字列 (0, 255)

新しいカメラ プリセットの名前。xCommand Camera Preset List コマンドで返されるリスト内で使用されます。

TakeSnapshot: False/True

プレビューのスナップショットを許可または拒否します。

DefaultPosition: False/True

このプリセットに関連するカメラのデフォルト位置にするかどうかを定義します。カメラごとに保持可能なデフォルト位置は 1 つだけのため、設定された場合は、古いデフォルト プリセットが自動的に非デフォルトとしてマークされます。

xCommand Camera Ramp

指定された方向にカメラを移動します。カメラは、stop コマンドが発行されるまで指定された速度で移動します。デジジー チェーンでは、指定するカメラの **CameraId** を知っておく必要があります。パンと傾斜は同時に操作できますが、その他の組み合わせは同時操作できないことに注意してください。後者の場合、指定された最初の動作だけ実行されます。たとえば、ズームとパンの両方を同時に実行しようとすると、ズームだけが実行されます。

注:カメラを停止するために、停止コマンドを実行する必要があります。下の例を参照してください。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Camera Ramp CameraId: CameraId [Pan: Pan] [PanSpeed: PanSpeed] [Tilt: Tilt] [TiltSpeed: TiltSpeed] [Zoom: Zoom] [ZoomSpeed: ZoomSpeed] [Focus: Focus]
```

説明:

CameraId: 整数 (1 ~ 1)

カメラを選択します。

Pan: Left/Right/Stop

カメラを左または右に移動してから停止します。

PanSpeed: 整数 (1 ~ 15)

パン速度を設定します。

Tilt: Down/Up/Stop

カメラを上または下に移動してから停止します。

TiltSpeed: 整数 (1 ~ 15)

チルト速度を設定します。

Zoom: In/Out/Stop

カメラを拡大または縮小してから停止します。

ZoomSpeed: 整数 (1 ~ 15)

ズーム速度を設定します。

Focus: Far/Near/Stop

カメラのフォーカスを遠くに、または近くに合わせてから停止します。

xCommand Camera TriggerAutofocus

オートフォーカス機能をトリガーします。カメラはオートフォーカス機能をサポートする必要があります。カメラがデジジー チェーン接続されている場合、チェーンでの位置によって **CameraId** が指定されます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Camera TriggerAutofocus CameraId: CameraId
```

説明:

CameraId: 整数 (1 ~ 1)

オートフォーカスするカメラを選択します。

会議 コマンド

xCommand Conference DoNotDisturb Activate

このコマンドは応答不可モードをオンにします。Timeout パラメータを使用すれば、オフにするタイミングを制御できます。応答不可がオンになっている場合は、すべての着信コールが拒否され、不在着信として登録されます。発信側はビジー信号を受信します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Conference DoNotDisturb Activate [Timeout: Timeout]
```

説明:

Timeout: 整数 (0 ~ 1440)

応答不可がオフになるまでの分数を設定します。設定しなかった場合は、1440 分 (24 時間) 後に応答不可がタイムアウトします。

xCommand Conference DoNotDisturb Deactivate

応答不可モードをオフにします。応答不可がオフの場合は、着信コールが通常どおり受信されます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Conference DoNotDisturb Deactivate
```

xCommand Conference SpeakerLock Release

xCommand Conference SpeakerLock Set で設定された、ロックされたスピーカーを解放します。デフォルトの音声スイッチングがオンに戻ります。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Conference SpeakerLock Release
```

xCommand Conference SpeakerLock Set

スピーカーの 1 つを分かりやすいスピーカー位置に手動でロックする場合。これにより、デフォルトの音声スイッチングがオーバーライドされます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Conference SpeakerLock Set Target: Target [CallId: CallId]
```

説明:

Target: local/remote

ローカルまたはリモート参加者を識別します。

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

リモート参加者の CallID を識別します。Target が "remote" に設定されている場合にのみ関連します。

診断 コマンド

xCommand Diagnostics Run

このコマンドは、システム上で自己診断コマンドを実行します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand Diagnostics Run [ResultSet: ResultSet]
```

説明:

ResultSet: Alerts/All/None

診断結果をアラート、すべて、またはなしに絞り込むことができます。設定しなかった場合は、すべての結果が表示されます。

ダイヤル(Dial) コマンド

xCommand Dial

システムからダイヤルします。他のコマンドの一部に必要な CallId および Conferenceld に関する情報を返します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Dial Number: Number [Protocol: Protocol] [CallRate: CallRate]
[CallType: CallType] [BookingId: BookingId] [Appearance: Appearance]
[DisplayName: DisplayName]
```

説明:

Number: 文字列 (0、255)

番号またはアドレスを入力します。

Protocol: H320/H323/Sip

コール プロトコルを選択します。

CallRate: 整数 (64 ~ 6000)

コール レートを設定します。

CallType: Audio/Video

コール タイプを選択します。

BookingId: 文字列 (0、255)

外部予約システム (TMS、CTS-MAN など) が、発信されたコールと予約システムの会議用内部識別子を照合するための独自の基準として使用可能な識別子。これはどのような文字列にすることもできます (GUID など)。予約 ID はコール ログやコール イベントなどで提供されます。

Appearance: 整数 (1 ~ 999999999)

内部使用専用。

DisplayName: 文字列 (0、255)

リモート参加者の表示名。

HttpFeedback コマンド

xCommand HttpFeedback Deregister

HTTP(S) 経由の XML フィードバックを登録解除します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand HttpFeedback Deregister FeedbackSlot: FeedbackSlot
```

説明:

FeedbackSlot: 整数 (1 ~ 4)

フィードバック用に 1 ~ 4 個のスロットを指定できます。

xCommand HttpFeedback Register

特定の URL に HTTP(S) で XML フィードバックを返すため、HTTP(S) サーバにシステムを登録します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand HttpFeedback Register [FeedbackSlot: FeedbackSlot] ServerUrl: ServerUrl  
[Expression[1..15]: Expression[1..15]]
```

説明:

FeedbackSlot: 整数 (1 ~ 4)

フィードバック用に 1 ~ 4 個のスロットを指定できます。

ServerUrl: 文字列 (1, 2048)

HTTP(S) サーバの URL を定義します。

Expression[1..15]: 文字列 (1, 255)

XPath 式は、監視するステータスとコンフィギュレーション XML ドキュメントの部分指定します。1 ~ 15 個の XPath 式を指定できます。

周辺機器 (Peripherals) コマンド

xCommand Peripherals Connect

制御システムやタッチ パネルなどのコーデックに接続された周辺装置を登録します。登録済みの周辺装置が Web インターフェイスの [設定 (Configuration)] > [周辺装置 (Peripherals)] に表示されます。

このコマンドは、周辺装置がコーデックに初めて接続されたとき、または、周辺装置上のソフトウェアバージョンが変更されたときに使用する必要があります。接続されたデバイスのリストは、コマンド `xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] Status` を使用して取得できます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Peripherals Connect [HardwareInfo: HardwareInfo] ID: ID [Name: Name]  
[NetworkAddress: NetworkAddress] [SerialNumber: SerialNumber] [SoftwareInfo:  
SoftwareInfo] Type: Type
```

説明:

HardwareInfo: 文字列 (0, 100)

デバイス™ のハードウェア番号。

ID: 文字列 (1, 100)

接続先のデバイスの一意の ID (通常は MAC アドレス)。

Name: 文字列 (0, 100)

デバイスの名前を定義します。

NetworkAddress: 文字列 (0, 100)

接続先のデバイスのネットワーク アドレス。

SerialNumber: 文字列 (0, 100)

デバイス™ のシリアル番号。

SoftwareInfo: 文字列 (0, 100)

デバイスで実行されているソフトウェア バージョン。

Type: Byod/ControlSystem/Other/TouchPanel

接続先のデバイスのタイプを定義します。

xCommand Peripherals HeartBeat

周辺装置が接続先のデバイスとして登録されている場合は、コーデックにハートビートを送信することにより、接続されていることを通知するように設定できます。

これにより、xStatus Peripherals ConnectedDevice リストにデバイスが掲載され続けます。周辺装置がハートビートを送信するように設定されていない場合は、しばらくしてデバイスがリストから消去されます。

注:カメラには適用されません。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Peripherals HeartBeat ID: ID [Timeout: Timeout]

説明:

ID: 文字列 (1、100)

接続先のデバイスの一意の ID (通常は MAC アドレス)。

Timeout: 整数 (1 ~ 65535)

デバイスがハートビートを送信する期間を設定します。

xCommand Peripherals List

現在と過去のすべての接続された周辺機器を列挙します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand Peripherals List [Connected: Connected] [Type: Type]

説明:

Connected: False/True

検索を現在接続されているデバイスに制限します。

Type: All/ControlSystem/ISDNLink/Other/TouchPanel

検索をデバイス タイプで制限します。

xCommand Peripherals Pairing DeviceDiscovery Start

同じネットワーク上の ISDN リンクを検出するデバイス検出を開始します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand Peripherals Pairing DeviceDiscovery Start [AutoPairing: AutoPairing] [DeviceType: DeviceType] [Timeout: Timeout]

説明:

AutoPairing: [オン/オフ (On/Off)]

検出されたデバイスとエンドポイントを自動的にペアリングするかどうかを選択できます。

DeviceType: ISDNLink

ISDN リンクのみを検索します。

Timeout: 整数 (3 ~ 60)

検索の最大時間を 3 ~ 60 秒に設定します。

xCommand Peripherals Pairing Pair

ISDN リンクとエンドポイントをペアリングします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand Peripherals Pairing Pair MacAddress: MacAddress

説明:

MacAddress: 文字列 (1、1450)

エンドポイントとペアリングする ISDN リンクの MAC アドレスを入力します。

xCommand Peripherals Pairing Unpair

エンドポイントと ISDN リンクが接続されている場合に、ISDN リンクからエンドポイントをペアリング解除します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand Peripherals Pairing Unpair MacAddress: MacAddress

説明:

MacAddress: 文字列 (1, 100)

MacAddress: エンドポイントからペアリング解除する ISDN リンクの MAC アドレスを入力します。

xCommand Peripherals Purge

接続が失われた場合に、ISDN リンクとエンドポイントとのペアリングを強制的に解除します。注: ISDN リンクを別のエンドポイントにペアリングする場合も、先にペアリング解除する必要があります。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Peripherals Purge ID: ID

説明:

ID: 文字列 (1, 100)

"xx:xx:xx:xx:xx:xx" という形式の ISDN リンクの MAC アドレス。

Phonebook コマンド

xCommand Phonebook Contact Add

ローカル電話帳に新しい連絡先を追加します。このコマンドは、連絡先を識別する一意の文字列である ContactId (通常の形式は "localContactId-n") を返します。

xCommand Phonebook ContactMethod Add コマンドを使用して、1 つの連絡先に複数の連絡方法を追加できます。Cisco TelePresence Touch コントローラの [お気に入り (Favorites)] リストには、最初の連絡方法しか表示されないことに注意してください。すべての連絡方法が API、Web インターフェイス、およびリモコンから利用できます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Phonebook Contact Add Name: Name [FolderId: FolderId] [ImageURL: ImageURL] [Title: Title] [Number: Number] [Protocol: Protocol] [CallRate: CallRate] [CallType: CallType] [Device: Device] [Tag: Tag]

説明:

Name: 文字列 (0, 255)

連絡先の名前。

FolderId: 文字列 (0, 255)

連絡先を保存するフォルダの固有識別子。この識別子は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、フォルダを作成するために xCommand Phonebook Folder Add コマンドを発行した場合も返されます。

ImageURL: 文字列 (0, 255)

現在は使用されていません。

Title: 文字列 (0, 255)

連絡先のタイトル。

Number: 文字列 (0, 255)

連絡先の電話番号または住所。

Protocol: Auto/H320/H323/SIP

Auto、SIP、H323、または H320 プロトコルを選択します。

CallRate: 整数 (0 ~ 6000)

コール レートを設定します。

CallType: Audio/Video

コール タイプ (音声またはビデオ) を選択します。

Device: Mobile/Other/Telephone/Video

デバイス タイプを選択します。

Tag: Untagged/Favorite

連絡先をお気に入りとしてタグ付けするか、すでにタグ付けされた連絡先をタグ付け解除します。

xCommand Phonebook Contact Delete

ローカル電話帳から既存の連絡先を削除します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Phonebook Contact Delete ContactId: ContactId

説明:

ContactId: 文字列 (0、255)

連絡先の固有識別子。この識別子は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、連絡先を作成するために xCommand Phonebook Contact Add コマンドを発行した場合も返されます。

xCommand Phonebook Contact Modify

ローカル電話帳内の既存の連絡先の詳細を変更します。このコマンドを使用して、Name、FolderId、ImageURL、および Title パラメータを変更することができます。他のパラメータ (Number、Protocol、CallRate、CallType、および Device) は、xCommand Phonebook ContactMethod Modify コマンドを使用して変更する必要があります。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Phonebook Contact Modify ContactId: ContactId [Name: Name] [FolderId: FolderId] [ImageURL: ImageURL] [Title: Title] [Tag: Tag]

説明:

ContactId: 文字列 (0、255)

変更する連絡先の固有識別子。この識別子は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、連絡先を作成するために xCommand Phonebook Contact Add コマンドを発行した場合も返されます。

Name: 文字列 (0、255)

連絡先の名前。

FolderId: 文字列 (0、255)

フォルダの固有識別子。この識別子は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、xCommand Phonebook Folder Add コマンドを発行した場合も返されます。

ImageURL: 文字列 (0、255)

現在は使用されていません。

Title: 文字列 (0、255)

連絡先のタイトル。

Tag: Untagged/Favorite

連絡先をお気に入りとしてタグ付けするか、すでにタグ付けされた連絡先をタグ付け解除します。

xCommand Phonebook ContactMethod Add

ローカル電話帳内の既存の連絡先の詳細を追加します。このコマンドは、連絡方法を識別する一意の文字列である `ContactMethodId` (通常の形式は "n") を返します。

1 つの連絡先に複数の連絡方法を追加できます。Cisco TelePresence Touch コントローラの [お気に入り (Favorites)] リストには、最初の連絡方法しか表示されないことに注意してください。xCommand Phonebook Contact Add コマンドを発行して連絡先を作成した時点で、すでに最初の連絡方法が作成されている場合があります。すべての連絡方法が API、Web インターフェイス、およびリモコンから利用できます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Phonebook ContactMethod Add ContactId: ContactId [Device: Device]  
Number: Number [Protocol: Protocol] [CallRate: CallRate] [CallType: CallType]
```

説明:

ContactId: 文字列 (0、255)

連絡方法を追加する連絡先の固有識別子。この識別子は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、連絡先を作成するために xCommand Phonebook Contact Add コマンドを発行した場合も返されます。

Device: Mobile/Other/Telephone/Video

コール先のデバイスのタイプを設定します。

Number: 文字列 (0、255)

連絡先の電話番号または住所。

Protocol: Auto/H320/H323/SIP

Auto、SIP、H323、または H320 プロトコルを選択します。

CallRate: 整数 (0 ~ 6000)

コール レートを設定します。

CallType: Audio/Video

コール タイプ (音声またはビデオ) を選択します。

xCommand Phonebook ContactMethod Delete

ローカル電話帳内の既存の連絡先から連絡方法を削除します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Phonebook ContactMethod Delete ContactId: ContactId ContactMethodId:  
ContactMethodId
```

説明:

ContactId: 文字列 (0、255)

変更する連絡先の固有識別子。この識別子は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、連絡先を作成するために xCommand Phonebook Contact Add コマンドを発行した場合も返されます。

ContactMethodId: 文字列 (0、255)

削除する連絡方法の固有識別子。この識別子は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、連絡方法を作成するために xCommand Phonebook ContactMethod Add コマンドを発行した場合も返されます。

xCommand Phonebook ContactMethod Modify

ローカル電話帳内の既存の連絡先の連絡方法に関する詳細を変更します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Phonebook ContactMethod Modify ContactId: ContactId ContactMethodId:
ContactMethodId [Device: Device] [Number: Number] [Protocol: Protocol]
[CallRate: CallRate] [CallType: CallType]
```

説明:

ContactId: 文字列 (0、255)

連絡先の固有識別子。この識別子は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、連絡先を作成するために xCommand Phonebook Contact Add コマンドを発行した場合も返されます。

ContactMethodId: 文字列 (0、255)

変更する連絡方法の固有識別子。この識別子は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、連絡方法を作成するために xCommand Phonebook ContactMethod Add コマンドまたは xCommand Phonebook Contact Add コマンドを発行した場合も返されます。

Device: Mobile/Other/Telephone/Video

コール先のデバイスのタイプを設定します。

Number: 文字列 (0、255)

連絡先の電話番号または住所。

Protocol: Auto/H320/H323/SIP

Auto、SIP、H323、または H320 プロトコルを選択します。

CallRate: 整数 (0 ~ 6000)

コール レートを設定します。

CallType: Audio/Video

コール タイプ (音声またはビデオ) を選択します。

xCommand Phonebook Folder Add

電話帳エントリをフォルダに保存できます。フォルダをローカル電話帳に追加する場合に、このコマンドを使用します。このコマンドは、フォルダを識別する一意の文字列である FolderId (通常の形式は "localGroupId-n") を返します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Phonebook Folder Add [Name: Name] [ParentFolderId: ParentFolderId]
```

説明:

Name: 文字列 (0、255)

フォルダの名前。

ParentFolderId: 文字列 (0、255)

親フォルダの固有識別子。この識別子は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、親フォルダを作成するために xCommand Phonebook Folder Add コマンドを発行した場合も返されます。

xCommand Phonebook Folder Delete

ローカル電話帳から既存のフォルダを削除します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Phonebook Folder Delete FolderId: FolderId
```

説明:

FolderId: 文字列 (0、255)

フォルダの固有識別子。この識別子は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、フォルダを作成するために xCommand Phonebook Folder Add コマンドを発行した場合も返されます。

xCommand Phonebook Folder Modify

既存の電話帳フォルダを変更します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Phonebook Folder Modify FolderId: FolderId [Name: Name]
[ParentFolderId: ParentFolderId]
```

説明:

FolderId: 文字列 (0、255)

フォルダの固有識別子。この識別子は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、フォルダを作成するために xCommand Phonebook Folder Add コマンドを発行した場合も返されます。

Name: 文字列 (0、255)

連絡先の名前。

ParentFolderId: 文字列 (0、255)

親フォルダの固有識別子。この識別子は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、親フォルダを作成するために xCommand Phonebook Folder Add コマンドを発行した場合も返されます。

xCommand Phonebook Search

検索コマンドでは、ローカル電話帳および社内電話帳のどちらも検索することができます。検索によって ResultSet が返されます。

必ず、フォルダと連絡先の総数 (TotalRows) が、ローカル電話帳を検索したときの結果セットに含まれません。社内電話帳を検索した場合は、フォルダと連絡先の総数が含まれないことがあります。この総数が含まれるかどうかは、バックエンド社内電話帳サービス (CUCM、VCS、TMS など) とそのバージョンによって異なります。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Phonebook Search [PhonebookId: PhonebookId] [PhonebookType:
PhonebookType] [SearchString: SearchString] [SearchField: SearchField] [Offset:
Offset] [FolderId: FolderId] [Limit: Limit] [Recursive: Recursive] [ContactType:
ContactType] [Tag: Tag]
```

説明:

PhonebookId: 文字列 (0、255)

検索する電話帳サーバの識別子。xConfiguration Phonebook Server ID の設定を参照してください。

PhonebookType: Corporate/Local

ローカル電話帳と社内電話帳のどちらを検索するかを定義します。

SearchString: 文字列 (0、255)

この文字列を含むエントリを検索します (エントリはこの文字列で始まる必要がないことに注意してください)。FolderId を指定しなかった場合は、すべてのフォルダ/電話帳ディレクトリが検索されます。

SearchField: Name/Number

現在は使用されていません。

Offset: 整数 (0 ~ 65534)

検索内のこのオフセットで始まるレコードを取得します。デフォルト値は 0 です。Offset は、ページングをサポートするために Limit とともに使用されます。

FolderId: 文字列 (0、255)

指定されたフォルダのみを検索します。FolderId (文字列) が、フォルダを含む検索結果の ResultSet に列挙されます。

Limit: 整数 (0 ~ 65534)

結果セット内のレコード数をこの数値に制限します。たとえば、Limit を 10 に設定した場合、ResultSet には、ヒットの総数が 10 より多くても、10 エントリ (連絡先とフォルダ) だけが含まれます。上限は 1000 です。

Recursive: False/True

このパラメータは、ローカル電話帳を検索する場合にのみ有効です。この設定により、ローカル電話帳検索が特定の FolderId に制限されるのか、サブフォルダ内でも再帰的に検索するのかが決定されます。指定しなかった場合は、検索が再帰的に行われます。

パラメータを指定せずにコマンドを発行すると、ローカル電話帳内のすべてのフォルダ、連絡先、および連絡方法が返されます。

ContactType: Any/Folder/Contact

すべての連絡先タイプを検索するか、検索をフォルダまたは個別の連絡先に制限します。

Tag: Untagged/Favorite

検索を、お気に入りとしてタグ付けされた連絡先とタグ付けされていない連絡先のどちらかに制限します。

Presentation コマンド

xCommand Presentation Start

選択されたプレゼンテーションソースからのメディアストリームを開きます。

必要なユーザロール: USER

使用方法:

```
xCommand Presentation Start [PresentationSource: PresentationSource]
[SendingMode: SendingMode] [ConnectorId: ConnectorId] [Instance: Instance]
```

説明:

PresentationSource: 整数 (1 ~ 2)

ソース番号で識別される、プレゼンテーションに使用するビデオ入力ソースを選択します。

SendingMode: LocalRemote/LocalOnly

プレゼンテーションをローカルで表示するのか、ローカルとリモートの両方で表示するのかを選択します。

ConnectorId: 整数 (1 ~ 2)

connectorId で識別される、プレゼンテーションに使用するビデオ入力ソースを選択します。

Instance: New/1/2/3/4/5/6

開始するローカルプレゼンテーションインスタンスを選択します。

xCommand Presentation Stop

プレゼンテーションソースからのメディアストリームを停止します。

必要なユーザロール: USER

使用方法:

```
xCommand Presentation Stop [Instance: Instance] [PresentationSource:
PresentationSource]
```

説明:

Instance: 1/2/3/4/5/6

プレゼンテーションインスタンスで識別される、停止するローカルプレゼンテーションを選択します。

PresentationSource: 整数 (1 ~ 2)

ソース番号で識別される、停止するローカルプレゼンテーションを選択します。

プロビジョニング コマンド

xCommand Provisioning CompleteUpgrade

ソフトウェア アップグレードを設定されているインストール日時より前にインストールする場合は、インストールを開始します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Provisioning CompleteUpgrade

xCommand Provisioning PostponeUpgrade

ソフトウェア アップグレードのインストールを延期します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Provisioning PostponeUpgrade SecondsToPostpone: SecondsToPostpone

説明:

SecondsToPostpone: 整数 (0 ~ 65534)

アップグレードを延期する期間を設定します。値は秒単位です。

xCommand Provisioning CUCM CTL Delete

保存された CTL ファイルと ITL ファイル (CTL: 証明書信頼リスト、ITL: ID 信頼リスト) を削除します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Provisioning CUCM CTL Delete

xCommand Provisioning CUCM CTL Show

インストールされた証明書信頼リスト (CTL) ファイルの内容を表示します (存在する場合)。表示される各エントリに、特定の証明書に関する情報が含まれています。証明書が CTL から削除された場合は、出力でそのようにマークされます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Provisioning CUCM CTL Show

xCommand Provisioning StartUpgrade

コーデックのソフトウェアはプロビジョニング サーバからアップグレードできます。アップグレードを開始すると、ソフトウェアは自動的にダウンロードおよびインストールされます。コーデックは、ソフトウェア アップグレードを完了するためにレポートします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Provisioning StartUpgrade

プロキシミティ コマンド

xCommand Proximity Services Activate

xCommand Proximity Services Deactivate で非アクティブにされたプロキシミティ サービスを再びアクティブにします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Proximity Services Activate
```

xCommand Proximity Services Deactivate

このコマンドは、エンドポイント上のすべてのプロキシミティ サービスを非アクティブにします。プロキシミティ サービスを再びアクティブにするには、コマンド Command Proximity Services Activate を使用します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Proximity Services Deactivate
```

RoomPreset コマンド

xCommand RoomPreset Activate

ローカルに保存されたプリセットの 1 つをアクティブにします。

すべてのビデオ入力ソースに関する情報と、すべてのカメラのパン、チルト、ズーム、およびフォーカスの値が同じプリセットに含まれていることに注意してください。これに対して、xCommand Camera Preset コマンドは、個々のカメラにのみ適用されます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand RoomPreset Activate PresetId: PresetId
```

説明:

PresetId: 整数 (1 ~ 15)

アクティブにするプリセットの ID。

xCommand RoomPreset Clear

プリセットを削除します。

すべてのビデオ入力ソースに関する情報と、すべてのカメラのパン、チルト、ズーム、およびフォーカスの値が同じプリセットに含まれていることに注意してください。これに対して、xCommand Camera Preset コマンドは、個々のカメラにのみ適用されます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand RoomPreset Clear PresetId: PresetId
```

説明:

PresetId: 整数 (1 ~ 15)

削除するプリセットの ID。

xCommand RoomPreset Store

すべてのビデオ入力ソースのコネクタ選択と、すべてのカメラの現在位置 (パンとチルト)、ズーム、およびフォーカスの値を保存します。

すべてのビデオ入力ソースに関する情報と、すべてのカメラのパン、チルト、ズーム、およびフォーカスの値が同じプリセットに含まれていることに注意してください。システムは、このような事前定義のビデオ入力プリセットを 15 個保持できます。これらのプリセットは遠端制御に利用できます。つまり、xCommand FarEndControl Preset Activate コマンドの `PresetId` パラメータで参照されます。これに対して、xCommand Camera Preset コマンドは、個々のカメラにのみ適用されます。これらのプリセットは遠端制御に利用できません。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand RoomPreset Store [Description: Description] PresetId: PresetId Type: Type
説明:

Description: 文字列 (0, 255)

カメラ プリセットの説明を入力します。

PresetId: 整数 (1 ~ 15)

このプリセットの ID。

Type: All/Camera

適用なしプリセットがカメラ位置にしか影響しないようにしたい場合は、Camera を選択することをお勧めします。

セキュリティ コマンド

xCommand Security Persistency

次の機能を永続モードまたは非永続モードに設定します。非永続モードでは、指定された機能によって収集された情報がシステムのリポートで消去されます。永続モードがデフォルトです。このコマンドはシステムをリポートします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand Security Persistency Configurations: Configurations CallHistory: CallHistory InternalLogging: InternalLogging LocalPhonebook: LocalPhonebook DHCP: DHCP ConfirmAndReboot: ConfirmAndReboot
説明:

Configurations: NonPersistent/Persistent

非永続モードでは、システムのリポート時にすべてのコンフィギュレーションがデフォルトに戻されます。

CallHistory: NonPersistent/Persistent

非永続モードでは、システムのリポート時にコール履歴が削除されます。

InternalLogging: NonPersistent/Persistent

非永続モードでは、システムのリポート時にイベント ログが削除されます。

LocalPhonebook: NonPersistent/Persistent

非永続モードでは、システムのリポート時にローカル電話帳が削除されます。

DHCP: NonPersistent/Persistent

非永続モードでは、システムのリポート時にすべての IP 関連情報が削除されます。

ConfirmAndReboot: ○

システムをリポートします。

Standby コマンド

xCommand Standby Activate

システムをスタンバイ モードに設定します。つまり、ビデオ出力をオフにして、カメラをスリープ モードにします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Standby Activate

xCommand Standby Deactivate

システムをスタンバイ モードからウェークアップさせます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Standby Deactivate

xCommand Standby ResetTimer

一時的なスタンバイ遅延を設定します。リセット タイマーが設定されたときにシステムがスタンバイ モードである場合、システムはスタンバイ モードからウェークアップされます。指定された遅延時間アイドル状態のままのとき、システムはスタンバイ モードに入ります。リセット タイマーの設定は、[詳細設定 (Advanced configuration)] メニューの [スタンバイの遅延 (Standby Delay)] (または xConfiguration Standby Delay による) に影響を与えません。次回、この遅延が有効なスタンバイ遅延になります。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Standby ResetTimer Delay: Delay

説明:

Delay: 整数 (1 ~ 480)

遅延を分単位で設定します。

SystemUnit コマンド

xCommand SystemUnit Boot

システムをリブートします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand SystemUnit Boot [Action: Action]

説明:

Action: Restart/Shutdown

デフォルトで、リブート後にシステムが再起動します。Shutdown を選択すると、システムは再起動しません。

xCommand SystemUnit FactoryReset

工場出荷時設定にコーデックをリセットします。コール ログが削除され、すべてのシステム パラメータがデフォルト値にリセットされます。コーデックにアップロードされたすべてのファイルが削除されます。オプション キーは影響を受けません。

デフォルトとして工場出荷時状態にリセットするとシステムは再起動しますが、別の TrailingAction の選択によって、他の動作を強制できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand SystemUnit FactoryReset Confirm: Confirm [TrailingAction: TrailingAction]

説明:

Confirm: ○

TrailingAction: NoAction/Restart/Shutdown

デフォルト動作 (Restart) をオーバーライドするには、Shutdown または NoAction を選択します。

xCommand SystemUnit Notifications RemoveAll

xStatus SystemUnit Notifications Text/Type によって報告されたシステム通知のリストをクリアします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand SystemUnit Notifications RemoveAll

xCommand SystemUnit OptionKey Add

追加機能をサポートするオプション キーを追加します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand SystemUnit OptionKey Add Key: Key

説明:

Key: 文字列 (16、24)

オンにするオプションに対して受信されたキー。

xCommand SystemUnit OptionKey Remove

指定されたオプション キーを削除します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand SystemUnit OptionKey Remove Type: Type

説明:

Type: DualDisplay/MultiSite/NaturalPresenter/PremiumResolution/RemoteMonitoring

xCommand SystemUnit OptionKey RemoveAll

すべてのオプション キーを削除します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand SystemUnit OptionKey RemoveAll Confirm: Confirm

説明:

Confirm: ○

xCommand SystemUnit SoftwareUpgrade

特定の URL からソフトウェアを取得することにより、ソフトウェア アップグレードを開始します。サーバでユーザ名とパスワードが必要な場合、これらのパラメータが含まれている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand SystemUnit SoftwareUpgrade URL: URL [UserName: UserName] [Password: Password]

説明:

URL: 文字列 (0、255)

ソフトウェア パッケージの場所

UserName: 文字列 (0、255)

必要に応じてサーバの場所にアクセスするためのユーザ名。

Password: 文字列 (0、255)

必要に応じてサーバの場所にアクセスするためのパスワード。

時刻 (Time) コマンド

xCommand Time DateTime Get

システムから時刻と日付を読み出します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Time DateTime Get
```

xCommand Time DateTime Set

NTP (ネットワーク タイム プロトコル) から取得できない場合に、システムの日時を設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand Time DateTime Set [Year: Year] [Month: Month] [Day: Day] [Hour: Hour]  
[Minute: Minute] [Second: Second]
```

説明:

Year: 整数 (2015 ~ 2037)

Month: 整数 (1 ~ 12)

Day: 整数 (1 ~ 31)

Hour: 整数 (0 ~ 23)

Minute: 整数 (0 ~ 59)

Second: 整数 (0 ~ 59)

UserInterface コマンド

xCommand UserInterface Message Alert Clear

xCommand Message Alert Display コマンドを使用して表示されたメッセージを削除します。Duration パラメータが設定されていない場合、これは必須です。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand UserInterface Message Alert Clear
```

xCommand UserInterface Message Alert Display

指定された長さの時間 (秒)、メッセージを画面に表示します。

注: 時間が設定されていない場合、このコマンドの後に xCommand Message Alert Clear コマンドが必要です。

ユーザからのフィードバックを監視するには、xFeedback コマンドを使用します。このマニュアルの API の概要セクションの xFeedback コマンドに関する説明を参照してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand UserInterface Message Alert Display [Title: Title] Text: Text  
[Duration: Duration]
```

説明:

Title: 文字列 (0, 255)

メッセージのタイトルを入力します。

Text: 文字列 (0, 255)

表示するメッセージを入力します。<p> と
 の HTML タグは、普通の改行となります。その他のタグは、プレーン テキストとして表示されます。

Duration: 整数 (0 ~ 3600)

メッセージが画面に表示される期間 (秒単位) を設定します。0 (ゼロ) に設定すると xCommand Message Alert Clear メッセージが送信されるまでメッセージは消えません。

xCommand UserInterface Message Prompt Clear

xCommand Message Alert Display コマンドを使用して表示されたウィンドウを削除します。
 ユーザからのフィードバックを監視するには、xFeedback コマンドを使用します。このマニュアルの API の概要セクションの xFeedback コマンドに関する説明を参照してください。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand UserInterface Message Prompt Clear [FeedbackId: FeedbackId]

説明:

FeedbackId: 文字列 (0, 255)

FeedbackId は xCommand Message Prompt Display コマンドによって指定された FeedbackId に対応します。

xCommand UserInterface Message Prompt Display

ユーザからの応答のために、タイトル、テキストおよび 5 個のオプションを持つ小さなウィンドウを画面に表示します。メッセージは、ユーザが応答するか、システムが xCommand Message Prompt Clear コマンドを受信するまで画面に表示されます。

ユーザからのフィードバックを監視するには、xFeedback コマンドを使用します。このマニュアルの API の概要セクションの xFeedback コマンドに関する説明を参照してください。

Title:

Text:

FeedbackId:

Option.1 ~ Option.5:

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand UserInterface Message Prompt Display [Title: Title] Text: Text
 [FeedbackId: FeedbackId] [Option.1: Option.1] [Option.2: Option.2] [Option.3:
Option.3] [Option.4: Option.4] [Option.5: Option.5]

説明:

Title: 文字列 (0, 255)

メッセージのタイトルを入力します。

Text: 文字列 (0, 255)

表示するテキスト行を入力します。<p> と
 の HTML タグは、普通の改行となります。その他のタグは、プレーン テキストとして表示されます。

FeedbackId: 文字列 (0, 255)

フィードバックを識別するために、FeedbackId を入力します。

Option.1: 文字列 (0, 255)

フィードバック オプションに表示するテキストを入力します。

Option.2: 文字列 (0, 255)

フィードバック オプションに表示するテキストを入力します。

Option.3: 文字列 (0, 255)

フィードバック オプションに表示するテキストを入力します。

Option.4: 文字列 (0, 255)

フィードバック オプションに表示するテキストを入力します。

Option.5: 文字列 (0, 255)

フィードバック オプションに表示するテキストを入力します。

xCommand UserInterface Message Prompt Response

xCommand Message Prompt Display への応答を提供します。

ユーザからのフィードバックを監視するには、xFeedback コマンドを使用します。このマニュアルの API の概要セクションの xFeedback コマンドに関する説明を参照してください。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand UserInterface Message Prompt Response [FeedbackId: FeedbackId]
OptionId: OptionId

説明:

FeedbackId: 文字列 (0, 255)

FeedbackId は xCommand Message Prompt Display コマンドによって指定された FeedbackId に対応します。

OptionId: 整数 (1 ~ 5)

OptionId は xCommand Message Prompt Display コマンドで可能な応答として指定された OptionId に対応します。

xCommand UserInterface Message TextLine Clear

xCommand Message TextLine Display コマンドで定義されたテキスト行をクリアします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand UserInterface Message TextLine Clear

xCommand UserInterface Message TextLine Display

画面上にテキスト行を表示します。オプションとして、指定した場所に、指定された長さの時間 (秒単位) テキスト行を配置できます。

注: 時間が設定されていない場合、このコマンドの後に xCommand Message TextLine Clear コマンドが必要です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand UserInterface Message TextLine Display Text: Text [X: X] [Y: Y]
[Duration: Duration]

説明:

Text: 文字列 (0, 140)

表示するテキスト行を入力します。<p> と
 の HTML タグは、普通の改行となります。その他のタグは、プレーン テキストとして表示されます。

X: 整数 (1 ~ 10000)

画面上の X 座標 (水平) を入力します。X=0 が左上になります。

Y: 整数 (1 ~ 10000)

画面上の Y 座標 (垂直) を入力します。Y=0 が左上になります。

Duration: 整数 (0 ~ 3600)

テキスト行が画面上に表示される期間 (秒単位) を設定します。0 (ゼロ) に設定すると、xCommand Message TextLine Clear が送信されるまでテキスト行が表示されます。

xCommand UserInterface OSD Key Click

リモート コントロール キー押下と後に続くキー解放をエミュレートします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand UserInterface OSD Key Click Key: Key

説明:

Key: 0/1/2/3/4/5/6/7/8/9/C/Call/Disconnect/Down/F1/F2/F3/F4/F5/Grab/Home/Layout/Left/Mute/MuteMic/Ok/PhoneBook/Presentation/Right/Selfview/Square/SrcAux/SrcCamera/SrcDocCam/SrcPc/SrcVcr/Star/Up/VolumeDown/VolumeUp/ZoomIn/ZoomOut

押すリモート キーを定義します。

xCommand UserInterface OSD Key Press

リモコン キーを押したまま解放しない状態をエミュレートします。キーの解放をエミュレートするには、Key Press コマンドの後ろに

Key Release コマンドを続ける必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand UserInterface OSD Key Press Key: Key

説明:

Key: 0/1/2/3/4/5/6/7/8/9/C/Call/Disconnect/Down/F1/F2/F3/F4/F5/Grab/Home/Layout/Left/Mute/MuteMic/Ok/PhoneBook/Presentation/Right/Selfview/Square/SrcAux/SrcCamera/SrcDocCam/SrcPc/SrcVcr/Star/Up/VolumeDown/VolumeUp/ZoomIn/ZoomOut

押しリモート キーを定義します。

xCommand UserInterface OSD Key Release

リモコン キーの解放をエミュレートします。Key Release コマンドは Key Press コマンドの後に発行されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand UserInterface OSD Key Release Key: Key

説明:

Key: 0/1/2/3/4/5/6/7/8/9/C/Call/Disconnect/Down/F1/F2/F3/F4/F5/Grab/Home/Layout/Left/Mute/MuteMic/Ok/PhoneBook/Presentation/Right/Selfview/Square/SrcAux/SrcCamera/SrcDocCam/SrcPc/SrcVcr/Star/Up/VolumeDown/VolumeUp/ZoomIn/ZoomOut

解放するリモコン キーを定義します。

UserManagement コマンド

xCommand UserManagement RemoteSupportUser Create

トラブルシューティングのためにテクニカル アシスタンス センター (TAC) からシステムにアクセスするときに使用するリモート サポート ユーザ パスフレーズを作成します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand UserManagement RemoteSupportUser Create [ExpiryDays: ExpiryDays]

説明:

ExpiryDays: 整数 (1 ~ 31)

パスフレーズ検証の期間を定義します。デフォルトは 7 日間です。

xCommand UserManagement RemoteSupportUser Delete

コマンド xCommand UserManagement RemoteSupportUser Create を使用して作成されたリモート サポート ユーザを削除します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand UserManagement RemoteSupportUser Delete

xCommand UserManagement RemoteSupportUser DisablePermanently

新しいリモート サポート ユーザの作成を無効にします。リモート サポート ユーザを再度有効にするには、システムをファクトリ リセットします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand UserManagement RemoteSupportUser DisablePermanently Confirm: Confirm

説明:

Confirm: ○

xCommand UserManagement RemoteSupportUser GetState

もしあれば、生成されたりリモート サポート ユーザの状態を取得します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand UserManagement RemoteSupportUser GetState
```

xCommand UserManagement User Passphrase Change

ログインしたユーザのパスワードを変更します。管理者としてログインした場合は、管理者パスワードが変更されます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand UserManagement User Passphrase Change NewPassphrase: NewPassphrase  
OldPassphrase: OldPassphrase
```

説明:

NewPassphrase: 文字列 (0、255)

OldPassphrase: 文字列 (0、255)

xCommand UserManagement User Passphrase Set

指定されたユーザのユーザ パスフレーズを設定します。ユーザ パスフレーズを設定するには、管理者としてログインする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand UserManagement User Passphrase Set NewPassphrase: NewPassphrase  
[Username: Username] YourPassphrase: YourPassphrase
```

説明:

NewPassphrase: 文字列 (0、255)

Username: 文字列 (0、127)

YourPassphrase: 文字列 (0、255)

[ビデオ (Video)] コマンド

xCommand Video ActiveSpeakerPIP Set

アクティブスピーカー PIP (ピクチャ イン ピクチャ) の位置を設定します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Video ActiveSpeakerPIP Set Position: Position

説明:

Position: CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight
事前定義の位置のいずれか 1 つを選択します。

xCommand Video Input SetMainVideoSource

メイン ビデオ ソースにする入力ソースを設定します。ソースは、接続先のコネクタの識別子とソース自体の識別子のどちらかで識別できます。

このコマンドには、ConnectorId と SourceId のどちらか 1 つのパラメータのみを使用する必要があります。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Video Input SetMainVideoSource [ConnectorId: ConnectorId] [SourceId: SourceId]

説明:

ConnectorId: 整数 (1 ~ 3)

コネクタの識別子 (ID)。Connector [n] に ID n が割り当てられます。ID を検索するには、API コマンド xStatus Video Input Connector を実行します。コネクタ ID は、コーデック コネクタ パネルにも表示されます。

SourceId: 整数 (1 ~ 3)

入力ソースの識別子 (ID)。Input Source [n] に ID n が割り当てられます。ID を検索するには、API コマンド xStatus Video Input Source を実行します。

xCommand Video Input Source SetActiveConnector

アクティブにするコネクタを選択します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Video Input Source SetActiveConnector [ConnectorId: ConnectorId]

説明:

ConnectorId: 整数 (2 ~ 4)

コネクタの識別子 (ID)。Connector [n] に ID n が割り当てられます。ID を検索するには、API コマンド xStatus Video Input Connector を実行します。コネクタ ID は、コーデック コネクタ パネルにも表示されます。

xCommand Video Layout LayoutFamily Set

画面レイアウト モードを選択します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Video Layout LayoutFamily Set [Target: Target] [:] LayoutFamily: LayoutFamily [CustomLayoutName: CustomLayoutName]

説明:

Target: local/remote

ターゲットがローカル レイアウトかリモート レイアウトかを選択します。

: 整数 (0 ~ 65534)

CallId は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。CallId をコール中に表示するには、xStatus Call コマンドを実行します。

LayoutFamily: auto/custom/equal/overlay/prominent/single

レイアウト ファミリーを選択します。

CustomLayoutName: 文字列 (1、128)

レイアウトの名前を入力します。

xCommand Video Matrix Assign

xCommand Video Matrix コマンドは、単純な映像合成を容易にするための xCommand Video Layout コマンドに対するスマート オーバーレイです。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Video Matrix Assign [Mode: Mode] Output: Output SourceId: SourceId

説明:

Mode: Add/Replace

全画面表示された出力上の既存のソースを交換するか、追加するかを選択します。Add を使用した場合は、レイアウト エンジンが複数のソースを自動的に作り直します。Replace がデフォルト値です。

Output: 整数 (1 ~ 2)

このレイアウトで使用する出力を選択します。

SourceId: 整数 (1 ~ 3)

入力ソースの識別子 (ID)。Input Source [n] に ID n が割り当てられます。ID を検索するには、API コマンド xStatus Video Input Source を実行します。

xCommand Video Matrix Reset

出力上のコンテンツをデフォルト レイアウトにリセットします

xCommand Video Matrix コマンドは、単純な映像合成を容易にするための xCommand Video Layout コマンドに対するスマート オーバーレイです。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Video Matrix Reset [Output: Output]

説明:

Output: 整数 (1 ~ 2)

リセットする出力を選択します。

xCommand Video Matrix Swap

xCommand Video Matrix Assign で定義されたコンテンツを 2 つの出力間で交換します。

xCommand Video Matrix コマンドは、単純な映像合成を容易にするための xCommand Video Layout コマンドに対するスマート オーバーレイです。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Video Matrix Swap OutputA: OutputA OutputB: OutputB

説明:

OutputA: 整数 (1 ~ 2)

交換元の出力。

OutputB: 整数 (1 ~ 2)

交換先の出力。

xCommand Video Matrix Unassign

出力からソースを削除します。xCommand Video Matrix Assign を使用した場合と同様に、レイアウト エンジンが残りのソースを自動的に作り直します。

xCommand Video Matrix コマンドは、単純な映像合成を容易にするための xCommand Video Layout コマンドに対するスマート オーバーレイです。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Video Matrix Unassign Output: Output SourceId: SourceId

説明:

Output: 整数 (1 ~ 2)

ソースを削除する出力を選択します。

SourceId: 整数 (1 ~ 3)

入力ソースの識別子 (ID)。Input Source [n] に ID n が割り当てられます。ID を検索するには、API コマンド xStatus Video Input Source を実行します。

xCommand Video PresentationPIP Set

プレゼンテーション PiP (ピクチャ イン ピクチャ) の位置を設定します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Video PresentationPIP Set Position: Position

説明:

Position: CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

事前定義の位置のいずれか 1 つを選択します。

xCommand Video Selfview Set

セルフビューのオン/オフを設定し、そのサイズと位置を指定します。パラメータを指定しなかった場合は、現在値が使用されます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Video Selfview Set [Mode: Mode] [FullscreenMode: FullscreenMode]

[PIPPosition: PIPPosition] [OnMonitorRole: OnMonitorRole]

説明:

Mode: [オン/オフ (On/Off)]

セルフビューがオンまたはオフに設定されます。

FullscreenMode: [オン/オフ (On/Off)]

セルフビューを全画面で表示するのか、ピクチャ イン ピクチャとして表示するのを選択します。

PIPPosition: CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

セルフビュー画像の位置を選択します。

OnMonitorRole: First/Fourth/Second/Third

このロールを持つモニタにセルフビューを表示します。

第 5 章

xStatus コマンド

xStatus コマンドの説明

この章では、すべての xStatus コマンドとその応答を参照できます。ステータス タイプのコマンドは、システムおよびシステム プロセスに関する情報を返します。すべての情報や一部の情報を照会できます。

定期的にシスコの Web サイトにアクセスして、マニュアルの最新版をチェックすることをお勧めします。
 参照先: <http://www.cisco.com/go/sx-docs>

| | | | |
|--|------------|---|------------|
| [音声 (Audio)] status | 125 | xStatus Call [n] Protocol | 128 |
| xStatus Audio | 125 | xStatus Call [n] ReceiveCallRate | 128 |
| xStatus Audio Input Connectors HDMI [n] EcReferenceDelay | 125 | xStatus Call [n] RemoteNumber | 128 |
| xStatus Audio Input Connectors Microphone [n] ConnectionStatus | 125 | xStatus Call [n] Status | 129 |
| xStatus Audio Input Connectors Microphone [n] EcReferenceDelay | 125 | xStatus Call [n] TransmitCallRate | 129 |
| xStatus Audio Input RemoteInput [n] CallId | 125 | | |
| xStatus Audio Microphones Mute | 125 | カメラ status | 129 |
| xStatus Audio Volume | 126 | xStatus Cameras Camera | 129 |
| xStatus Audio VolumeMute | 126 | xStatus Cameras Camera [n] Capabilities Options | 129 |
| | | xStatus Cameras Camera [n] Connected | 129 |
| コール status | 126 | xStatus Cameras Camera [n] Flip | 129 |
| xStatus Call [n] | 126 | xStatus Cameras Camera [n] MacAddress | 130 |
| xStatus Call [n] AnswerState | 126 | xStatus Cameras Camera [n] Manufacturer | 130 |
| xStatus Call [n] AttendedTransferFrom | 126 | xStatus Cameras Camera [n] Model | 130 |
| xStatus Call [n] CallbackNumber | 126 | xStatus Cameras Camera [n] SerialNumber | 130 |
| xStatus Call [n] CallType | 127 | xStatus Cameras Camera [n] SoftwareID | 130 |
| xStatus Call [n] DeviceType | 127 | 機能 status | 131 |
| xStatus Call [n] Direction | 127 | xStatus Capabilities | 131 |
| xStatus Call [n] DisplayName | 127 | xStatus Capabilities Conference MaxActiveCalls | 131 |
| xStatus Call [n] Duration | 127 | xStatus Capabilities Conference MaxAudioCalls | 131 |
| xStatus Call [n] Encryption Type | 127 | xStatus Capabilities Conference MaxCalls | 131 |
| xStatus Call [n] FacilityServiceId | 128 | xStatus Capabilities Conference MaxVideoCalls | 131 |
| xStatus Call [n] HoldReason | 128 | | |
| xStatus Call [n] PlacedOnHold | 128 | | |

| | |
|---|------------|
| 会議 status | 132 |
| xStatus Conference | 132 |
| xStatus Conference ActiveSpeaker CallId | 132 |
| xStatus Conference Call [n] BookingId | 132 |
| xStatus Conference Call [n] Capabilities FarendMessage Mode | 132 |
| xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Mode..... | 132 |
| xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC NumberOfPresets | 132 |
| xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC NumberOfSources | 132 |
| xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Source [n] Name | 133 |
| xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Source [n] Options | 133 |
| xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Source [n] Sourceld | 133 |
| xStatus Conference Call [n] Capabilities Hold | 133 |
| xStatus Conference Call [n] Capabilities IxChannel Status | 133 |
| xStatus Conference Call [n] Capabilities Presentation | 133 |
| xStatus Conference Call [n] Manufacturer | 134 |
| xStatus Conference Call [n] MicrophonesMuted | 134 |
| xStatus Conference Call [n] SoftwareID | 134 |
| xStatus Conference DoNotDisturb | 134 |
| xStatus Conference Line [n] Mode | 134 |
| xStatus Conference Multipoint Mode | 135 |
| xStatus Conference Presentation CallId | 135 |
| xStatus Conference Presentation LocalInstance [n] SendingMode | 135 |
| xStatus Conference Presentation LocalInstance [n] Source | 135 |
| xStatus Conference Presentation Mode..... | 135 |
| xStatus Conference SpeakerLock CallId | 136 |
| xStatus Conference SpeakerLock Mode..... | 136 |
| | |
| 診断 status | 136 |
| xStatus Diagnostics | 136 |
| xStatus Diagnostics Message [n] Description | 136 |
| xStatus Diagnostics Message [n] Level | 136 |
| xStatus Diagnostics Message [n] References..... | 137 |
| xStatus Diagnostics Message [n] Type..... | 137 |

| | |
|---|------------|
| H323 status | 137 |
| xStatus H323 | 137 |
| xStatus H323 Gatekeeper Address..... | 137 |
| xStatus H323 Gatekeeper Port | 137 |
| xStatus H323 Gatekeeper Reason | 137 |
| xStatus H323 Gatekeeper Status | 138 |
| xStatus H323 Mode Reason | 138 |
| xStatus H323 Mode Status | 138 |
| | |
| HttpFeedback status | 138 |
| xStatus HttpFeedback | 138 |
| xStatus HttpFeedback [1..4] Expression [1..15]..... | 138 |
| xStatus HttpFeedback [1..4] URL | 138 |
| | |
| ネットワーク status | 139 |
| xStatus Network | 139 |
| xStatus Network 1 CDP Address..... | 139 |
| xStatus Network 1 CDP Capabilities | 139 |
| xStatus Network 1 CDP Deviceld | 139 |
| xStatus Network 1 CDP Duplex..... | 139 |
| xStatus Network 1 CDP Platform | 139 |
| xStatus Network 1 CDP PortID | 139 |
| xStatus Network 1 CDP PrimaryMgmtAddress..... | 140 |
| xStatus Network 1 CDP SysName | 140 |
| xStatus Network 1 CDP SysObjectID | 140 |
| xStatus Network 1 CDP Version..... | 140 |
| xStatus Network 1 CDP VoIPApplianceVlanID | 140 |
| xStatus Network 1 CDP VTPMgmtDomain | 140 |
| xStatus Network 1 DNS Domain Name | 141 |
| xStatus Network 1 DNS Server [1..5] Address | 141 |
| xStatus Network 1 Ethernet MacAddress..... | 141 |
| xStatus Network 1 Ethernet Speed | 141 |
| xStatus Network 1 IPv4 Address | 141 |
| xStatus Network 1 IPv4 Gateway | 141 |
| xStatus Network 1 IPv4 SubnetMask | 142 |

| | | | |
|--|------------|--|------------|
| xStatus Network 1 IPv6 Address | 142 | プロキシミティ status | 147 |
| xStatus Network 1 IPv6 Gateway | 142 | xStatus Proximity | 147 |
| xStatus Network 1 VLAN Voice VlanId | 142 | xStatus Proximity Services Availability | 147 |
| NetworkServices status | 143 | セキュリティ status | 148 |
| xStatus NetworkServices | 143 | xStatus Security | 148 |
| xStatus NetworkServices NTP CurrentAddress | 143 | xStatus Security FIPS Mode | 148 |
| xStatus NetworkServices NTP Server [n] Address | 143 | xStatus Security Persistency CallHistory | 148 |
| xStatus NetworkServices NTP Status | 143 | xStatus Security Persistency Configurations | 148 |
| 周辺機器 (Peripherals) status | 144 | xStatus Security Persistency DHCP | 148 |
| xStatus Peripherals | 144 | xStatus Security Persistency InternalLogging | 148 |
| xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] HardwareInfo | 144 | xStatus Security Persistency LocalPhonebook | 148 |
| xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] ID | 144 | SIP status | 149 |
| xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] Name | 144 | xStatus SIP | 149 |
| xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] SoftwareInfo | 144 | xStatus SIP AlternateURI Alias [n] URI | 149 |
| xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] Status | 144 | xStatus SIP AlternateURI Primary [n] URI | 149 |
| xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] Type | 144 | xStatus SIP Authentication | 149 |
| xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] UpgradeStatus | 145 | xStatus SIP CallForward DisplayName | 149 |
| プロビジョニング status | 145 | xStatus SIP CallForward Mode | 149 |
| xStatus Provisioning | 145 | xStatus SIP CallForward URI | 149 |
| xStatus Provisioning Software Current CompletedAt | 145 | xStatus SIP Mailbox MessagesWaiting | 150 |
| xStatus Provisioning Software Current URL | 145 | xStatus SIP Mailbox URI | 150 |
| xStatus Provisioning Software Current VersionId | 145 | xStatus SIP Proxy [n] Address | 150 |
| xStatus Provisioning Software UpgradeStatus LastChange | 146 | xStatus SIP Proxy [n] Secure | 150 |
| xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Message | 146 | xStatus SIP Proxy [n] Status | 150 |
| xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Phase | 146 | xStatus SIP Proxy [n] Verified | 151 |
| xStatus Provisioning Software UpgradeStatus SessionId | 146 | xStatus SIP Registration [n] Authentication | 151 |
| xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Status | 146 | xStatus SIP Registration [n] Reason | 151 |
| xStatus Provisioning Software UpgradeStatus URL | 146 | xStatus SIP Registration [n] Status | 151 |
| xStatus Provisioning Software UpgradeStatus VersionId | 147 | xStatus SIP Registration [n] URI | 151 |
| xStatus Provisioning Status | 147 | xStatus SIP Secure | 152 |
| | | xStatus SIP Verified | 152 |

| | | | |
|---|------------|---|------------|
| Standby status | 152 | [ビデオ (Video)] status | 158 |
| xStatus Standby | 152 | xStatus Video | 158 |
| xStatus Standby State..... | 152 | xStatus Video ActiveSpeaker PIPPosition..... | 158 |
| SystemUnit status | 153 | xStatus Video Input | 158 |
| xStatus SystemUnit | 153 | xStatus Video Input Connector [n] Connected | 158 |
| xStatus SystemUnit Hardware Module SerialNumber..... | 153 | xStatus Video Input Connector [n] SignalState | 158 |
| xStatus SystemUnit Hardware Monitoring Fan [n] Status..... | 153 | xStatus Video Input Connector [n] SourceId..... | 158 |
| xStatus SystemUnit Hardware Temperature..... | 153 | xStatus Video Input Connector [n] Type | 158 |
| xStatus SystemUnit Notifications Notification [n] Text..... | 153 | xStatus Video Input MainVideoSource | 159 |
| xStatus SystemUnit Notifications Notification [n] Type | 153 | xStatus Video Input Source [n] ConnectorId..... | 159 |
| xStatus SystemUnit ProductId | 154 | xStatus Video Input Source [n] FormatStatus | 159 |
| xStatus SystemUnit ProductPlatform..... | 154 | xStatus Video Input Source [n] FormatType | 159 |
| xStatus SystemUnit ProductType | 154 | xStatus Video Input Source [n] MediaChannelId..... | 159 |
| xStatus SystemUnit Software Name..... | 154 | xStatus Video Input Source [n] Resolution Height..... | 159 |
| xStatus SystemUnit Software OptionKeys DualDisplay | 154 | xStatus Video Input Source [n] Resolution RefreshRate..... | 160 |
| xStatus SystemUnit Software OptionKeys HighDefinition | 154 | xStatus Video Input Source [n] Resolution Width..... | 160 |
| xStatus SystemUnit Software OptionKeys MultiSite..... | 155 | xStatus Video Monitors | 160 |
| xStatus SystemUnit Software OptionKeys NaturalPresenter..... | 155 | xStatus Video Output | 160 |
| xStatus SystemUnit Software OptionKeys PremiumResolution..... | 155 | xStatus Video Output Connector [n] Connected | 160 |
| xStatus SystemUnit Software OptionKeys RemoteMonitoring | 155 | xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC DeviceType | 160 |
| xStatus SystemUnit Software ReleaseDate | 155 | xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC PowerControl | 161 |
| xStatus SystemUnit Software Version | 155 | xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC PowerStatus..... | 161 |
| xStatus SystemUnit State NumberOfActiveCalls | 156 | xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice Name | 161 |
| xStatus SystemUnit State NumberOfInProgressCalls | 156 | xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice PreferredFormat..... | 161 |
| xStatus SystemUnit State NumberOfSuspendedCalls..... | 156 | xStatus Video Output Connector [n] MonitorRole | 161 |
| xStatus SystemUnit Uptime..... | 156 | xStatus Video Output Connector [n] Resolution Height | 161 |
| 時刻 (Time) status | 157 | xStatus Video Output Connector [n] Resolution RefreshRate | 162 |
| xStatus Time | 157 | xStatus Video Output Connector [n] Resolution Width | 162 |
| xStatus Time SystemTime..... | 157 | xStatus Video Output Connector [n] Type | 162 |
| UserInterface status | 157 | xStatus Video Presentation PIPPosition..... | 162 |
| xStatus UserInterface..... | 157 | xStatus Video Selfview FullscreenMode..... | 162 |
| xStatus UserInterface ContactInfo ContactMethod [n] Number..... | 157 | xStatus Video Selfview Mode..... | 162 |
| xStatus UserInterface ContactInfo Name | 157 | xStatus Video Selfview OnMonitorRole | 163 |
| | | xStatus Video Selfview PIPPosition | 163 |

オーディオ ステータス

xStatus Audio

オーディオ ステータスのトップ レベルの概要を示します。LocalInput、RemoteInput、LocalOutput および RemoteOutput の ID は、他の情報を照会する場合に使用されます。

xStatus Audio Input Connectors HDMI [n] EcReferenceDelay

マイク入力として使用される HDMI 入力をサポートしているシステムのマイク パスに各スピーカーで検出された遅延を返します。結果はミリ秒単位です。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Audio Input Connectors HDMI 1 EcReferenceDelay
*s Audio Connectors HDMI 1 EcReferenceDelay: 0
** end
```

xStatus Audio Input Connectors Microphone [n] ConnectionStatus

マイクがマイク入力コネクタで検出されるかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

Connected/NotConnected/Unknown

例:

```
xStatus Audio Input Connectors Microphone ConnectionStatus
*s Audio Input Connectors Microphone 1 ConnectionStatus: NotConnected
*s Audio Input Connectors Microphone 2 ConnectionStatus: Connected
** end
```

xStatus Audio Input Connectors Microphone [n] EcReferenceDelay

各スピーカーで検出された遅延をマイク パスに返します。結果はミリ秒単位です。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Audio Input Connectors Microphone 1 EcReferenceDelay
*s Audio Connectors Microphone 1 EcReferenceDelay: 120
** end
```

xStatus Audio Input RemoteInput [n] CallId

リモート オーディオ入力の CallId を表示します。

コマンド xStatus Audio Input RemoteInput を実行して、入力の ID [n] を特定することができます。

返される結果の値スペース:

0 ~ 65534

例:

```
xStatus Audio Input RemoteInput 8 CallId
*s Audio Input RemoteInput 8 CallId: 28
** end
```

xStatus Audio Microphones Mute

マイクがミュートされているかどうかを表示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Audio Microphones Mute
*s Audio Microphones Mute: Off
** end
```

xStatus Audio Volume

スピーカー出力の音量レベル (dB) を表示します。

返される結果の値スペース:

0 ~ 100

例:

```
xStatus Audio Volume
*s Audio Volume: 70
** end
```

xStatus Audio VolumeMute

エンドポイントの音量がミュートに設定されているかどうかを表示します。

返される結果の値スペース:

Off/On

例:

```
xStatus Audio VolumeMute
*s Audio VolumeMute: Off
** end
```

コール ステータス

xStatus Call [n]

コール ステータスのトップ レベルの概要を表示します。コール ID がコールに関する詳細の照会に使用されます。

xStatus Call [n] AnswerState

コールが応答されたのか、無視されたのか、システムによって自動的に応答されたのかを示します。

返される結果の値スペース:

Unanswered/Ignored/Autoanswered/Answered

例:

```
xStatus Call AnswerState
*s Call 5 AnswerState: Answered
** end
```

xStatus Call [n] AttendedTransferFrom

現在のコールの転送先のコールの CallId を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Call 1 AttendedTransferFrom
*s Call 1 AttendedTransferFrom: 1234
** end
```

xStatus Call [n] CallbackNumber

コールバック用に、コール プロトコルを含め、着信または発信コールのリモート (遠端) 番号または URI を示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Call 27 CallbackNumber
*s Call 27 CallbackNumber: "h323:firstname.lastname@company.com"
** end
```

xStatus Call [n] CallType

着信または発信コールのコール タイプを示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

Video/Audio/AudioCanEscalate/ForwardAllCall/Unknown

例:

```
xStatus Call 27 CallType
*s Call 27 CallType: Video
** end
```

xStatus Call [n] DeviceType

リモート システムが単一のエンドポイントなのか、MCU なのかを示します。一部のシスコ エンドポイント (SX20、SX80、MX200 G2、MX300 G2) に MCU 機能が組み込まれています。

返される結果の値スペース:

Endpoint/MCU

例:

```
xStatus Call DeviceType
*s Call 4 DeviceType: Endpoint
** end
```

xStatus Call [n] Direction

コール開始の方向を示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

Incoming/Outgoing

例:

```
xStatus Call 27 Direction
*s Call 27 Direction: Outgoing
** end
```

xStatus Call [n] DisplayName

着信または発信コールでリモート (遠端) 参加者の名前を表示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Call 27 DisplayName
*s Call 27 DisplayName: "firstname.lastname@company.com"
** end
```

xStatus Call [n] Duration

コールの長さを表示します (秒単位)。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Call 27 Duration
*s Call 27 Duration: 2354
** end
```

xStatus Call [n] Encryption Type

コールの暗号化タイプを示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

None/Aes-128

例:

```
xStatus Call 27 Encryption Type
*s Call 27 Encryption Type: "None"
** end
```

xStatus Call [n] FacilityServiceId

ファシリティ サービスを呼び出すと、ファシリティ サービス ID が表示されます。それ以外の場合、値 0 が返されます。

返される結果の値スペース:

0 ~ 5

例:

```
xStatus Call FacilityServiceId
*s Call 3 FacilityServiceId: 1
** end
```

xStatus Call [n] HoldReason

現在の発信コールが保留にされた理由を表示します。

Conference: コールを会議にマージ中の保留。

Transfer: コールを転送中の保留。

None: 上記以外の場合。

返される結果の値スペース:

Conference/Transfer/None

例:

```
xStatus Call 2 HoldReason
*s Call 2 HoldReason: None
** end
```

xStatus Call [n] PlacedOnHold

コールの保留中ステータスを表示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus Call 27 PlacedOnHold
*s Call 27 PlacedOnHold: False
** end
```

xStatus Call [n] Protocol

着信または発信コールのコール プロトコルを示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

H320/H323/SIP

例:

```
xStatus Call 27 Protocol
*s Call 27 Protocol: "h323"
** end
```

xStatus Call [n] ReceiveCallRate

コールの受信帯域幅をキロ ビット/秒 (kbps) で示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Call 27 ReceiveCallRate
*s Call 27 ReceiveCallRate: 4000
** end
```

xStatus Call [n] RemoteNumber

着信または発信コールのリモート (遠端) 番号または URI を示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Call 27 RemoteNumber
*s Call 27 RemoteNumber: "5585232"
** end
```


xStatus Call [n] Status

コールのステータスを表示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

Idle/Dialling/Ringing/Connecting/Connected/Disconnecting/OnHold/EarlyMedia/Preserved/RemotePreserved

例:

```
xStatus Call 27 Status
*s Call 27 Status: Connected
** end
```

xStatus Call [n] TransmitCallRate

コールの送信帯域幅をキロ ビット/秒 (kbps) で示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Call 27 TransmitCallRate
*s Call 27 TransmitCallRate: 768
** end
```

カメラ status

xStatus Cameras Camera

カメラステータスのトップレベルの概要を示します。

xStatus Cameras Camera [n] Capabilities Options

カメラ機能 (ptzf = パン、傾斜、ズーム、焦点) を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 Capabilities Options
*s Camera 1 Capabilities Options: "ptzf"
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] Connected

カメラが接続されているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 Connected
*s Camera 1 Connected: True
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] Flip

Flip モード (垂直反転) では、イメージの上下を逆にできます。

返される結果の値スペース:

Auto/On/Off

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 Flip
*s Camera 1 Flip: "Off"
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] MacAddress

カメラの MAC (メディア アクセス コントロール) アドレスを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 MacAddress
*s Camera 1 MacAddress: ""
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] Manufacturer

カメラの製造業者を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 Manufacturer
*s Camera 1 Manufacturer: "Cisco"
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] Model

カメラのモデルを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 Model
*s Camera 1 Model: "Precision 40"
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] SerialNumber

カメラのシリアル番号を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 SerialNumber
*s Camera 1 SerialNumber: "B1AB26B00010"
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] SoftwareID

カメラのソフトウェア ID を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 SoftwareID
*s Camera 1 SoftwareID: "S01718-4.0FINAL [ID:40063] 2014/10/20"
** end
```

機能 status

xStatus Capabilities

機能ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus Capabilities Conference MaxActiveCalls

同時アクティブ コールの最大数を示します。保留/転送に設定されたコールはアクティブとしてカウントされません。

返される結果の値スペース:

0 ~ 5

例:

```
xStatus Capabilities Conference MaxNumberOfActiveCalls
*s Capabilities Conference MaxNumberOfActiveCalls: 3
** end
```

xStatus Capabilities Conference MaxAudioCalls

サポートされる同時オーディオ コールの最大数を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Capabilities Conference MaxAudioCalls
*s Capabilities Conference MaxAudioCalls: 3
** end
```

xStatus Capabilities Conference MaxCalls

同時コールの最大数を示します。

返される結果の値スペース:

0 ~ 5

例:

```
xStatus Capabilities Conference MaxCalls
*s Capabilities Conference MaxCalls: 3
** end
```

xStatus Capabilities Conference MaxVideoCalls

サポートされる同時ビデオ コールの最大数を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Capabilities Conference MaxVideoCalls
*s Capabilities Conference MaxVideoCalls: 3
** end
```

会議 status

xStatus Conference

会議ステータスのトップレベルの概要を示します。会議コールの ID はコール中にのみ読み取ることができます。

xStatus Conference ActiveSpeaker CallId

現在のアクティブなスピーカーの CallId を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Conference ActiveSpeaker CallId
*s Conference ActiveSpeaker CallId: 3
** end
```

xStatus Conference Call [n] BookingId

会議の予約 ID を示します (割り当てられている場合)。予約 ID は、コールや会議を簡単に識別するために使用できます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Conference Call 2 BookingId
*s Conference Call 2 BookingId: "MyConference"
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities FarendMessage Mode

このリリースでは適用外です。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Conference Call Capabilities FarendMessage Mode
*s Conference Call 4 Capabilities FarendMessage Mode: Off
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Mode

遠端サイトの入力ソースを制御する権限があるかどうかを示します。

On: 遠端入力ソースの制御は許可されています。

Off: 遠端入力ソースの制御は許可されていません。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities FECC Mode
*s Conference Call 2 Capabilities FECC Mode: On
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC NumberOfPresets

遠端サイトで入力ソースに使用可能なプリセットの数を示します。

返される結果の値スペース:

1 ~ 15

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities FECC NumberOfPresets
*s Conference Call 2 Capabilities FECC NumberOfPresets: 15
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC NumberOfSources

遠端サイトに接続できる入力ソースの数を示します。

返される結果の値スペース:

1 ~ 5

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities FECC NumberOfSources
*s Conference Call 2 Capabilities FECC NumberOfSources: 5
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Source [n] Name

遠端サイトに接続できる入力ソースの名前を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities FECC Source 1 Name
*s Conference Call 2 Capabilities FECC Source 1 Name: "Main camera"
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Source [n] Options

遠端のサイトに接続できる入力ソースに使用可能なオプションを示します (カメラ用: p=pan、t=tilt、z=zoom、f=focus)。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities FECC Source 1 Options
*s Conference Call 2 Capabilities FECC Source 1 Options: "ptzf"
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Source [n] SourceId

遠端サイトに接続できる入力ソースの ID を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities FECC Source 1 SourceId
*s Conference Call 2 Capabilities FECC Source 1 SourceId: 6
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities Hold

遠端サイトを保留にできるかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus Conference Call Capabilities Hold
*s Conference Call 2 Capabilities Hold: True
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities IxChannel Status

このリリースでは適用外です。

返される結果の値スペース:

Active/Failed/Off

例:

```
xStatus Conference Call 4 Capabilities IxChannel Status
*s Conference Call 4 Capabilities IxChannel Status: Active
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities Presentation

会議の他の参加者のプレゼンテーション機能をリストします。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities Presentation
*s Conference Call 2 Capabilities Presentation: True
** end
```

xStatus Conference Call [n] Manufacturer

遠端サイトのビデオ システムの製造業者を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Conference Call 2 Manufacturer
*s Conference Call 2 Manufacturer: "Cisco"
** end
```

xStatus Conference Call [n] MicrophonesMuted

会議の他の参加者の音声ミュート ステータスが表示されます。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus Conference Call 2 MicrophonesMuted
*s Conference Call 2 MicrophonesMuted: True
** end
```

xStatus Conference Call [n] SoftwareID

遠端サイトのビデオ システムで実行中のソフトウェアの ID を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Conference Call 2 SoftwareID
*s Conference Call 2 SoftwareID: "CE8"
** end
```

xStatus Conference DoNotDisturb

DoNotDisturb モードがオンにされているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

Active/Inactive

例:

```
xStatus Conference DoNotDisturb
*s Conference DoNotDisturb: Inactive
** end
```

xStatus Conference Line [n] Mode

システムが CUCM 上でプライベート回線として設定されているのか、共有回線として設定されているかを示します。

返される結果の値スペース:

Shared/Private

例:

```
xStatus Conference Line Mode
*s Conference Line 1 Mode: Private
** end
```

xStatus Conference Multipoint Mode

マルチポイント ビデオ会議の処理方法を表示します。

[自動 (Auto)]: 利用可能なマルチポイント メソッドが自動的に選択されます。利用可能なマルチポイント メソッドがない場合は、

マルチポイント モードが自動的に Off に設定されます。MultiWay および MultiSite の両方が利用可能な場合、MultiWay サービスは組み込み MultiSite よりも優先されます。

[オフ (Off)]: マルチパーティ会議は許可されません。

[多地点接続 (MultiSite)]: 組み込み MultiSite 機能を使用してマルチパーティ会議が設定されます。MultiSite 機能を使用できないときに [多地点接続 (MultiSite)] が選択された場合、[マルチポイントモード (Multipoint Mode)] は自動的に [オフ (Off)] に設定されます。

[CUCMMediaResourceGroupList]: マルチパーティ会議 (アドホック会議) は、CUCM で設定された会議ブリッジによってホストされます。この設定は、CUCM 環境で CUCM によりプロビジョニングされるものであり、ユーザが手動で設定すべきではありません。

返される結果の値スペース:

Auto/CUCMMediaResourceGroupList/MultiSite/Off

例:

```
xStatus Conference Multipoint Mode
*s Conference Multipoint Mode: "Auto"
** end
```

xStatus Conference Presentation CallId

プレゼンテーションを送信するシステムの ID を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Conference Presentation CallId
*s Conference Presentation CallId: 0
** end
```

xStatus Conference Presentation LocalInstance [n] SendingMode

プレゼンテーション ソースがローカルで共有されているのか、リモート参加者と共有されているのかを表示します。それぞれが独自のインスタンスを持つ複数のローカル プレゼンテーションが存在する可能性があります。

返される結果の値スペース:

LocalOnly/LocalRemote/Off

例:

```
xStatus Conference Presentation LocalInstance 1 SendingMode
*s Conference Presentation LocalInstance 1 SendingMode: LocalOnly
** end
```

xStatus Conference Presentation LocalInstance [n] Source

現在のプレゼンテーションの SourceId を表示します。それぞれが独自のインスタンスを持つ複数のローカル プレゼンテーションが存在する可能性があります。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Conference Presentation LocalInstance 1 Source
*s Conference Presentation LocalInstance 1 Source: 1
** end
```

xStatus Conference Presentation Mode

セカンダリ ビデオ ストリームのステータスを表示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Conference Presentation Mode
*s Conference Presentation Mode: Off
** end
```

xStatus Conference SpeakerLock CallId

会議でプロミネントスピーカーとしてロックされた参加者の CallId を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Conference SpeakerLock CallId
*s Conference SpeakerLock CallId: 0
** end
```

xStatus Conference SpeakerLock Mode

スピーカー ロックが設定されているかどうかを表示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Conference SpeakerLock Mode
*s Conference SpeakerLock Mode: Off
** end
```

診断 status

xStatus Diagnostics

診断ステータスのトップレベルの概要を示します。進行中のコールのステータスの表示を例に示します。追加情報を照会する場合、コールの ID およびチャンネルが使用されます。

xStatus Diagnostics Message [n] Description

現在の診断アラートの説明。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Diagnostics Message Description
*s DiagnosticsResult Message 1 Description: "IP configuration incomplete"
** end
```

xStatus Diagnostics Message [n] Level

診断メッセージのレベルに関する情報を返します。

Error: システム内でエラーが発生しています。それでもシステムは使用できますが、何らかの制限が課される可能性があります。

Warning: 問題が検出され、正確な問題を示すより具体的なレポートが後に続きます。

Critical: 警告レベルは重大です。システムは使用できません。

返される結果の値スペース:

Error/Warning/Critical

例:

```
xStatus Diagnostics Message 4 Level
*s Diagnostics Message 4 Level: Warning
** end
```


xStatus Diagnostics Message [n] References

診断アラートに関する追加情報 (もしあれば)。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Diagnostics Message 10 References
*s Diagnostics Message 10 References: "delay=190"
** end
```

xStatus Diagnostics Message [n] Type

システムの最新の診断結果に関する情報を返します。

返される結果の値スペース:

CAPFOperationState/CTLInstallation/CUCMVendorConfigurationFile/CallProtocolDualStackConfig/CallProtocolIPStackPlatformCompatibility/CallProtocolVcsProvisioningCompatibility/CameraId/CameraPairing/CameraSerial/CameraSoftwareVersion/CameraStatus/CamerasDetected/ConfigurationFile/DefaultCallProtocolRegistered/EthernetDuplexMatches/FollowPresenterCameraConnection/H320GatewayStatus/H323GatekeeperStatus/HasValidReleaseKey/IpCameraStatus/IPv4Assignment/IPv6Assignment/IPv6Mtu/ISDNLinkCompatibility/ISDNLinkIpStack/ITLInstallation/InvalidSIPTransportConfig/LockDown/NetLinkStatus/NetSpeedAutoNegotiated/NTPStatus/OSDVideoOutput/OutputConnectorLocations/ProvisioningStatus/SIPEncryption/SIPListenPortAndOutboundMode/SIPProfileRegistration/SIPProfileType/SelectedVideoInputSourceConnected/SipIccAndAnatConflict/TLSVerifyRequiredCerts/TouchPanelConnection/TurnBandwidth/UdpPortRangeViolation/ValidPasswords/VideoFromInternalCamera/VideoInputStability/SpeakerTrackFrontPanelMountedCorrectly/SpeakerTrackMicrophoneConnection/SpeakerTrackVideoInputs/SpeakerTrackEthernetConnection/ANATOnVCS/ECReferenceDelay/AudioPairingSNR/AudioInternalSpeakerDisabled/AbnormalCallTermination/HasActiveCallProtocol/SipOrH323ButNotBothEnabled/PresentationSourceSelection/SoftwareUpgrade/ContactInfoMismatch

例:

```
xStatus Diagnostics Message type
*s Diagnostics Message 1 Type: InvalidAdminPassword
** end
```

H323 status

xStatus H323

H323 ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus H323 Gatekeeper Address

システムが登録されているゲートキーパーの IP アドレスが表示されます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus H323 Gatekeeper Address
*s H323 Gatekeeper Address: "192.0.1.20"
** end
```

xStatus H323 Gatekeeper Port

ゲートキーパーに接続するときを使用されるポートを示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus H323 Gatekeeper Port
*s H323 Gatekeeper Port: 1719
** end
```

xStatus H323 Gatekeeper Reason

拒否された登録の理由を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus H323 Gatekeeper Reason
*s H323 Gatekeeper Reason: ""
** end
```

xStatus H323 Gatekeeper Status

ゲートキーパー登録ステータスが表示されます。

返される結果の値スペース:

Required/Discovering/Discovered/Authenticating/Authenticated/Registering/Registered/Inactive/Rejected

例:

```
xStatus H323 Gatekeeper Status
*s H323 Gatekeeper Status: Registered
** end
```

xStatus H323 Mode Reason

H.323 設定と xStatus H323 Mode Status の間に矛盾があるかどうかを表示します。

"":H.323 が On に設定され、H.323 モード設定と残りのシステム設定の間に矛盾がない場合。

"SIP is enabled":H.323 モードが On に設定され、H.323 モードと SIP の 2 つを同時にはサポートしないシステム上で SIP が有効になっている場合。

"Not available":システムが H.323 をサポートしていない場合。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus H323 Mode Reason
*s H323 Mode Reason: ""
** end
```

xStatus H323 Mode Status

H.323登録のステータスを表示します。

Enabled:登録が有効になっています。

Disabled:SIP が有効になっているため、登録が無効になっています。

返される結果の値スペース:

Enabled/Disabled

例:

```
xStatus H323 Mode Status
*s H323 Mode Status: "Disabled"
** end
```

HttpFeedback status

xStatus HttpFeedback

HTTP ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus HttpFeedback [1..4] Expression [1..15]

HTTP サーバからのフィードバックを示します。各 URL につき最大 15 の表現がある場合があります。詳細については、xCommand HttpFeedback コマンドを参照してください。

返される結果の値スペース:

文字列

xStatus HttpFeedback [1..4] URL

HTTP サーバの URL (ユニフォーム リソース ロケータ) を示します。URL で指定される、最大 3 台の HTTP サーバが存在する場合があります。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus HttpFeedback 1 URL
*s HttpFeedback 1 URL: "http://tms.company.com/tms/public/feedback/code.aspx"
** end
```

ネットワーク status

xStatus Network

ネットワーク ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus Network 1 CDP Address

受信デバイスと送信デバイスの両方の最初のネットワーク アドレスを返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP Address
*s Network 1 CDP Address: "192.0.1.20"
** end
```

xStatus Network 1 CDP Capabilities

デバイス タイプの形式でスイッチの機能を記述します。詳細については、CDP プロトコルのマニュアルを参照してください。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP Capabilities
*s Network 1 CDP Capabilities: "0x0029"
** end
```

xStatus Network 1 CDP DeviceId

文字列の形式でスイッチの名前を識別します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP DeviceId
*s Network 1 CDP DeviceId: "123456.company.com"
** end
```

xStatus Network 1 CDP Duplex

CDP ブロードキャスト インターフェイスのステータス(デュプレックス設定)を示します。ネットワーク オペレータが、隣接するネットワーク要素間の接続の問題を診断するときに使用します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP Duplex
*s Network 1 CDP Duplex: "Full"
** end
```

xStatus Network 1 CDP Platform

エンドポイントに接続されたスイッチのハードウェア プラットフォーム名を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP Platform
*s Network 1 CDP Platform: "cisco WS-C3750X-48P"
** end
```

xStatus Network 1 CDP PortID

スイッチが使用する、エンドポイントの接続先のポートの識別を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP PortID
*s Network 1 CDP PortID: "GigabitEthernet1/0/23"
** end
```

xStatus Network 1 CDP PrimaryMgmtAddress

エンドポイントの接続先のスイッチの設定と監視に使用される管理アドレスを返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP PrimaryMgmtAddress
*s Network 1 CDP PrimaryMgmtAddress: "10.1.1.2"
** end
```

xStatus Network 1 CDP SysName

エンドポイントの接続先のスイッチで設定された SysName を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP SysName
*s Network 1 CDP SysName: ""
** end
```

xStatus Network 1 CDP SysObjectID

エンドポイントの接続先のスイッチで設定された SysObjectID を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP SysObjectID
*s Network 1 CDP SysObjectID: ""
** end
```

xStatus Network 1 CDP Version

スイッチが実行しているソフトウェア リリース バージョンに関する情報を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 CDP Version
*s Network 1 CDP Version: "Cisco IOS Software, C3560CX Software (C3560CX-
UNIVERSALK9-M), Version 15.2(3)E, RELEASE SOFTWARE (fc4)*Technical Support:
http://www.cisco.com/techsupport*Copyright (c) 1986-2014 by Cisco Systems,
Inc.*Compiled Sun 07-Dec-14 13:15 by prod_rel_team"
** end
```

xStatus Network 1 CDP VoIPApplianceVlanID

エンドポイントからスイッチへの VoIP トラフィックに使用される VLAN を識別します。詳細については、IEEE 802.1Q プロトコルのマニュアルを参照してください。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP VoIPApplianceVlanID
*s Network 1 CDP VoIPApplianceVlanID: "300"
** end
```

xStatus Network 1 CDP VTPMgmtDomain

スイッチ™ の設定済み VTP 管理ドメイン名の文字列を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP VTPMgmtDomain
*s Network 1 CDP VTPMgmtDomain: "anyplace"
** end
```

xStatus Network 1 DNS Domain Name

ドメイン名を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 DNS Domain Name
*s Network 1 DNS Domain Name: "www.example.com www.example.int"
** end
```

xStatus Network 1 DNS Server [1..5] Address

DNS サーバの IP アドレスを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 DNS Server 1.アドレス(Address)
*s Network 1 DNS Server 1 Address: "192.0.2.60"
** end
```

xStatus Network 1 Ethernet MacAddress

イーサネット インターフェイスの MAC (メディア アクセス コントロール) アドレスを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 Ethernet MacAddress
*s Network 1 Ethernet MacAddress: "00:50:60:02:FD:C7"
** end
```

xStatus Network 1 Ethernet Speed

イーサネット速度を Mbps 単位で示します。速度は、全二重または半二重の場合があります。

返される結果の値スペース:

10half/10full/100half/100full/1000full

例:

```
xStatus Network 1 Ethernet Speed
*s Network 1 Ethernet Speed: "100full"
** end
```

xStatus Network 1 IPv4 Address

このシステムを一意に識別する IPv4 アドレスを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 IPv4 Address
*s Network 1 IPv4 Address: "192.0.2.149"
** end
```

xStatus Network 1 IPv4 Gateway

IPv4 ゲートウェイのアドレスを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 IPv4 Gateway
*s Network 1 IPv4 Gateway: "192.0.2.10"
** end
```

xStatus Network 1 IPv4 SubnetMask

IPv4 アドレスが属するサブネットを決定するサブネット マスクを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 IPv4 SubnetMask
*s Network 1 IPv4 SubnetMask: "255.255.255.0"
** end
```

xStatus Network 1 IPv6 Address

このシステムを一意に識別する IPv6 アドレスを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 IPv6 Address
*s Network 1 IPv6 Address: ""
** end
```

xStatus Network 1 IPv6 Gateway

IPv6 ゲートウェイのアドレスを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 IPv6 Gateway
*s Network 1 IPv6 Gateway: ""
** end
```

xStatus Network 1 VLAN Voice VlanId

フィードバックは VLAN Voice ID を示します。VLAN Voice Mode が有効でない場合は、Off になります。

返される結果の値スペース:

Off/1 ~ 4094

例:

```
xStatus Network 1 VLAN Voice VlanId
*s Network 1 VLAN Voice VlanId: "Off"
** end
```

ネットワーク サービス ステータス

xStatus NetworkServices

ネットワーク サービス ステータスのトップレベルの概要を示します。

xStatus NetworkServices NTP CurrentAddress

現在使用されている NTP サーバのアドレスを返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus NetworkServices NTP CurrentAddress
*s NetworkServices NTP CurrentAddress: "123.254.15.121"
** end
```

xStatus NetworkServices NTP Server [n] Address

コーデックが使用している NTP サーバのアドレスを返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus NetworkServices NTP Address
*s NetworkServices NTP Address: "12.104.193.12 64.104.222.16 144.254.15.121"
** end
```

xStatus NetworkServices NTP Status

NTP サーバと同期しているエンドポイントのステータスを返します。

Unknown:同期の状態が不明です。

Synced:システムが NTP サーバと同期しています。

Discarded:NTP の結果が廃棄されました。

返される結果の値スペース:

Unknown/Synced/Discarded

例:

```
xStatus NetworkServices NTP Status
*s NetworkServices NTP Status: Synced
** end
```

周辺装置ステータス

xStatus Peripherals

周辺装置ステータスのトップレベルの概要を示します。

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] HardwareInfo

接続されたデバイスのハードウェア情報を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1007 HardwareInfo
*s Peripherals ConnectedDevice 1007 HardwareInfo: "1122330-0"
** end
```

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] ID

接続されたデバイスの MAC アドレスを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1007 ID
*s Peripherals ConnectedDevice 1007 ID: "00:10:20:20:be:21"
** end
```

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] Name

接続されたデバイスの製品名を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1007 Name
*s Peripherals ConnectedDevice 1007 Name: "Cisco TelePresence Touch"
** end
```

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] SoftwareInfo

接続されたデバイス上で実行しているソフトウェア バージョンの情報を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1007 SoftwareInfo
*s Peripherals ConnectedDevice 1007 SoftwareInfo: "TI7.2.0"
** end
```

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] Status

エンドポイントに現在接続されている周辺装置を表示します。

返される結果の値スペース:

Connected/ResponseTimedOut

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1001 Status
*s Peripherals ConnectedDevice 1001 Status: Connected
** end
```

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] Type

エンドポイントに接続されている周辺装置のタイプを表示します。

注:値スペース Camera には Precision 60 カメラのみが表示されます。

返される結果の値スペース:

Byod/Camera/ControlSystem/ISDNLink/Other/SpeakerTrack/TouchPanel

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1001 Type
*s Peripherals ConnectedDevice 1001 Type: TouchPanel
** end
```


xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] UpgradeStatus

現在接続されている周辺装置での前回のソフトウェア アップグレードのステータスを表示します。

返される結果の値スペース:

Downloading/Failed/Installing/InstallationReady/None/Succeeded/Rebooting/Retrying/Aborted/
Paused

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1001 UpgradeStatus
*s Peripherals ConnectedDevice 1001 UpgradeStatus: None
** end
```

プロビジョニング status

xStatus Provisioning

プロビジョニング ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus Provisioning Software Current CompletedAt

現在のソフトウェア アップグレードが完了した日時を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software Current CompletedAt
*s Provisioning Software Current CompletedAt: "2011-06-07T07:20:03Z"
** end
```

xStatus Provisioning Software Current URL

現在のソフトウェアのアップロード元の URL を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software Current URL
*s Provisioning Software Current URL: "http://.../s52020ce8_0_0.pkg"
** end
```

xStatus Provisioning Software Current VersionId

現在のソフトウェアのバージョン ID を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software Current VersionId
*s Provisioning Software Current VersionId: "s52020ce8_0_0.pkg"
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus LastChange

最新のソフトウェア アップグレードの日時を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus LastChange
*s Provisioning Software UpgradeStatus LastChange: "2011-06-07T07:20:03Z"
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Message

ソフトウェア アップグレードのシステム メッセージを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Message
*s Provisioning Software UpgradeStatus Message: ""
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Phase

ソフトウェア アップグレードのフェーズを表示します。

返される結果の値スペース:

None/DownloadPending/FormingHierarchy/Downloading/DownloadPaused/DownloadDone/Seeding/AboutToInstallUpgrade/Postponed/PeripheralsReady/UpgradingPeripherals/Installing/InstallingPeripherals

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Phase
*s Provisioning Software UpgradeStatus Phase: None
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus SessionId

ソフトウェア アップグレードのセッション ID を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus SessionId
*s Provisioning Software UpgradeStatus SessionId: ""
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Status

ソフトウェア アップグレードのステータスを表示します。

返される結果の値スペース:

None/InProgress/Failed/InstallationFailed/Succeeded

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Status
*s Provisioning Software UpgradeStatus Status: None
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus URL

現在アップロードおよびインストールされている新しいソフトウェアの URL を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus URL
*s Provisioning Software UpgradeStatus URL: "http://.../s52020ce8_0_0.pkg"
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus VersionId

現在アップロードおよびインストールされているソフトウェアのバージョン ID を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus VersionId
*s Provisioning Software UpgradeStatus VersionId: "s52010ce8_0_0.pkg"
** end
```

xStatus Provisioning Status

プロビジョニングのステータスを表示します。

Failed: プロビジョニングが失敗しました。

AuthenticationFailed: 認証に失敗しました。

Provisioned: エンド ポイントはプロビジョニングされています。

Idle: プロビジョニングは非アクティブです。

NeedConfig: エンド ポイントを設定する必要があります。

ConfigError: 設定中にエラーが発生しました。

返される結果の値スペース:

Failed/AuthenticationFailed/Provisioned/Idle/NeedConfig/ConfigError

例:

```
xStatus Provisioning Status
*s Provisioning Status: Provisioned
** end
```

プロキシミティ status

xStatus Proximity

プロキシミティ ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus Proximity Services Availability

プロキシミティ サービスがエンドポイント上で使用できるかどうかを表示します。

Available: プロキシミティ モードがコマンド Configuration Proximity Mode で有効になっており、1 つ以上のプロキシミティ サービスが xConfiguration Proximity Services コマンドで有効になっています。

Disabled: プロキシミティ モードがコマンド Configuration Proximity Mode で無効になっているか、どのサービスも xConfiguration Proximity Services コマンドで有効になっていません。

Deactivated: プロキシミティ サービスがコマンド xCommand Proximity Services Deactivate で非アクティブになっています。

例:

```
xStatus Proximity Services Availability
*s Proximity Services Availability: Disabled
** end
```

セキュリティ status

xStatus Security

セキュリティ ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus Security FIPS Mode

FIPS モードのステータスを表示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Security FIPS Mode
*s Security FIPS Mode: Off
** end
```

xStatus Security Persistency CallHistory

通話履歴ロギングが永続モードに設定されているのか、非永続モードに設定されているのかを表示します。Persistent がデフォルト モードです。

返される結果の値スペース:

NonPersistent/Persistent

例:

```
xStatus Security Persistency CallHistory
*s Security Persistency CallHistory: Persistent
** end
```

xStatus Security Persistency Configurations

すべてのシステム設定が永続モードに設定されているのか、非永続モードに設定されているのかを表示します。Persistent がデフォルト モードです。

返される結果の値スペース:

NonPersistent/Persistent

例:

```
xStatus Security Persistency Configurations
*s Security Persistency Configurations: Persistent
** end
```

xStatus Security Persistency DHCP

DHCP ロギングが永続モードに設定されているのか、非永続モードに設定されているのかを表示します。Persistent がデフォルト モードです。

返される結果の値スペース:

NonPersistent/Persistent

例:

```
xStatus Security Persistency DHCP
*s Security Persistency DHCP: Persistent
** end
```

xStatus Security Persistency InternalLogging

内部ロギングが永続モードに設定されているのか、非永続モードに設定されているのかを表示します。Persistent がデフォルト モードです。

返される結果の値スペース:

NonPersistent/Persistent

例:

```
xStatus Security Persistency InternalLogging
*s Security Persistency InternalLogging: Persistent
** end
```

xStatus Security Persistency LocalPhonebook

ローカル電話帳が永続モードに設定されているのか、非永続モードに設定されているのかを表示します。Persistent がデフォルト モードです。

返される結果の値スペース:

NonPersistent/Persistent

例:

```
xStatus Security Persistency LocalPhonebook
*s Security Persistency LocalPhonebook: Persistent
** end
```

SIP status

xStatus SIP

SIP ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus SIP AlternateURI Alias [n] URI

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP AlternateURI Alias
*s SIP AlternateURI Alias URI: ""
** end
```

xStatus SIP AlternateURI Primary [n] URI

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP AlternateURI Primary
*s SIP AlternateURI Primary URI: ""
** end
```

xStatus SIP Authentication

SIP プロキシ サーバに登録するときに、どの認証メカニズムが使用されるかを示します。

Digest:RFC 2069 で指定されているダイジェスト アクセス認証方式を使用します。

NTLM:Microsoft の認証プロトコルである NTLM 認証方式を使用します。

Off: 認証メカニズムは使用されません。

返される結果の値スペース:

Digest/Off

例:

```
xStatus SIP Authentication
*s SIP Authentication: Off
** end
```

xStatus SIP CallForward DisplayName

転送されたコールのユーザ インターフェイス上に表示される URI を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP CallForward DisplayName
*s SIP CallForward DisplayName: ""
** end
```

xStatus SIP CallForward Mode

SIP のコール転送モードがオンに設定されているのか、オフに設定されているのかを表示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus SIP CallForward Mode
*s SIP CallForward Mode: Off
** end
```

xStatus SIP CallForward URI

コール転送モードがオンに設定されている場合に着信コールが転送されるアドレスを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP CallForward URI
*s SIP CallForward URI: ""
** end
```

xStatus SIP Mailbox MessagesWaiting

メールボックス内の新しいメッセージの数を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus SIP Mailbox MessagesWaiting
*s SIP Mailbox MessagesWaiting: 0
** end
```

xStatus SIP Mailbox URI

SIP メールボックスの URI を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP Mailbox URI
*s SIP Mailbox URI: "12345678"
** end
```

xStatus SIP Proxy [n] Address

システムが通信する SIP プロキシのアドレスを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP Proxy 1 Address
*s SIP Proxy 1 Address: "192.0.2.50"
** end
```

xStatus SIP Proxy [n] Secure

SIP プロキシ サーバとのシグナリングの暗号化ステータスを表示します。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus SIP Proxy 1 Secure
*s SIP Proxy 1 Secure: True
** end
```

xStatus SIP Proxy [n] Status

エンド ポイントと SIP プロキシ サーバ間の通信のステータスを表示します。

Active: エンド ポイントと SIP プロキシ間の通信はアクティブです。

DNSFailed: DNS サーバへの通信の確立試行が失敗しました。

Off: エンド ポイントと SIP プロキシ間に通信がありません。

Timeout: SIP プロキシへの通信の確立試行がタイムアウトになりました。

UnableTCP: システムは転送方式として TCP を使用できません。

UnableTLS: システムは転送方式として TLS を使用できません。

Unknown: 通信のステータスは不明です。

AuthenticationFailed: 間違ったユーザ名またはパスワード。

返される結果の値スペース:

Active/DNSFailed/Off/Timeout/UnableTCP/UnableTLS/Unknown/AuthenticationFailed

例:

```
xStatus SIP Proxy 1 Status
*s SIP Proxy 1 Status: Active
** end
```

xStatus SIP Proxy [n] Verified

ビデオ システム/コーデックが登録を試みるサーバの SSL 証明書がコーデック™ の信頼できる CA リストに含まれているかどうかを表示します。通常、サーバは Cisco VCS または CUCM です。

True:サーバ™ の SIP 証明書がコーデック上の信頼できる CA リストに照らしてチェックされ、有効であることが確認されています。または、サーバの完全修飾ドメイン名が有効な証明書と一致します。

False:SIP 証明書検証が失敗したか、ドメイン名が一致しなかったため、TLS 接続がセットアップされません。TLS が使用されない (xConfiguration SIP DefaultTransport が TLS に設定されていない) 場合や証明書検証がオフになっている (SIP TlsVerify: Off) 場合は、ステータスが False も返すことに注意してください。この設定は、製品の Web インターフェイスを通してアクセスできます。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus SIP Proxy 1 Verified
*s SIP Proxy 1 Verified: False
** end
```

xStatus SIP Registration [n] Authentication

SIP プロキシ サーバに登録するときに、どの認証メカニズムが使用されるかを示します。

Digest:RFC 2069 で指定されているダイジェスト アクセス認証方式を使用します。

NTLM:Microsoft の認証プロトコルである NTLM 認証方式を使用します。

Off:認証メカニズムは使用されません。

返される結果の値スペース:

Digest/Off

例:

```
xStatus SIP Registration 1 Authentication
*s SIP Registration 1 Authentication: Off
** end
```

xStatus SIP Registration [n] Reason

SIP 登録が失敗した理由を説明するメッセージを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP Registration 1 Reason
*s SIP Registration 1 Reason: "404 Not Found"
** end
```

xStatus SIP Registration [n] Status

SIP プロキシ サーバへの登録ステータスを表示します。

Deregister:システムは SIP プロキシへの登録の解除処理中です。

Failed:システムは SIP プロキシへの登録に失敗しました。

Inactive:システムはどの SIP プロキシにも登録されていません。

Registered:システムは SIP プロキシに登録されています。

Registering:システムは SIP プロキシへの登録処理中です。

返される結果の値スペース:

Deregister/Failed/Inactive/Registered/Registering

例:

```
xStatus SIP Registration 1 Status
*s SIP Registration 1 Status: Registered
** end
```

xStatus SIP Registration [n] URI

SIP プロキシ サーバへの登録に使用する URI を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP Registration 1 URI
*s SIP Registration 1 URI: "firstname.lastname@company.com"
** end
```

xStatus SIP Secure

SIP プロキシ サーバとのシグナリングの暗号化ステータスを表示します。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus SIP Secure
*s SIP Secure: True
** end
```

xStatus SIP Verified

ビデオ システム/コーデックが登録を試みるサーバの SSL 証明書がコーデック™ の信頼できる CA リストに含まれているかどうかを表示します。通常、サーバは Cisco VCS または CUCM です。

True:サーバ™ の SIP 証明書がコーデック上の信頼できる CA リストに照らしてチェックされ、有効であることが確認されています。または、サーバの完全修飾ドメイン名が有効な証明書と一致します。

False:SIP 証明書検証が失敗したか、ドメイン名が一致しなかったため、TLS 接続がセットアップされません。TLS が使用されない(xConfiguration SIP DefaultTransport が TLS に設定されていない)場合や証明書検証がオフになっている(SIP TlsVerify: Off)場合は、ステータスが False も返すことに注意してください。この設定は、製品の Web インターフェイスを通してアクセスできます。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus SIP Verified
*s SIP Verified: False
** end
```

Standby status

xStatus Standby

スタンバイ ステータスのトップレベルの概要を示します。

xStatus Standby State

システムがスタンバイ モードになっているかどうかを表示します。

返される結果の値スペース:

Standby/Off

例:

```
xStatus Standby State
*s Standby State: Off
** end
```


SystemUnit status

xStatus SystemUnit

システム ユニット ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus SystemUnit Hardware Module SerialNumber

コーデックのハードウェア モジュールのシリアル番号を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Hardware Module SerialNumber
*s SystemUnit Hardware Module SerialNumber: "F9AA99A00090"
** end
```

xStatus SystemUnit Hardware Monitoring Fan [n] Status

フィードバックには指定したファンの速度 (rpm) が表示されます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Hardware Monitoring Fan 1 Status
*s SystemUnit Hardware Monitoring Fan 1 Status: "locked on 1096 rpm"
** end
```

xStatus SystemUnit Hardware Temperature

コーデック/システムで測定された現在の最高温度 (摂氏) を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Hardware Temperature
*s SystemUnit Hardware Temperature: "64.0"
** end
```

xStatus SystemUnit Notifications Notification [n] Text

重要なシステム通知に関連するテキストをリストします。通知は、ソフトウェアのアップグレードのためにシステムが再起動したときや、ファクトリ リセットが実行されたときなどに発行されます。

すべての通知は、xCommand SystemUnit Notifications RemoveAll コマンドを発行して、リストから削除できます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Notifications Notification 1 Text
*s SystemUnit Notifications Notification 1 Text: "OK"
** end
```

xStatus SystemUnit Notifications Notification [n] Type

システム通知のタイプをリストします。通知は、ソフトウェアのアップグレードのためにシステムが再起動したときや、ファクトリ リセットが実行されたときなどに発行されます。

FactoryResetOK:この値は、ファクトリ リセットの成功後に返されます。

FactoryResetFailed:この値は、ファクトリ リセットの試行失敗後に返されます。

SoftwareUpgradeOK:この値は、ソフトウェア アップグレードの成功後に返されます。

SoftwareUpgradeFailed:この値は、ソフトウェア アップグレードの試行失敗後に返されます。

RebootRequired:この値は再起動が必要な場合に返されます。

Other:この値は、他のすべての通知に返されます。

すべての通知は、xCommand SystemUnit Notifications RemoveAll コマンドを発行して、リストから削除できます。

返される結果の値スペース:

FactoryResetOK, FactoryResetFailed, SoftwareUpgradeOK, SoftwareUpgradeFailed, RebootRequired, Other

例:

```
xStatus SystemUnit Notifications Notification 1 Type
*s SystemUnit Notifications Notification 1 Type: SoftwareUpgradeOK
** end
```

xStatus SystemUnit ProductId

製品の識別情報を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit ProductId
*s SystemUnit ProductId: "Cisco TelePresence Codec SX80"
** end
```

xStatus SystemUnit ProductPlatform

製品プラットフォームを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit ProductPlatform
*s SystemUnit ProductPlatform: "SX80"
** end
```

xStatus SystemUnit ProductType

製品タイプを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit ProductType
*s SystemUnit ProductType: "Cisco Codec"
** end
```

xStatus SystemUnit Software Name

コーデックにインストールされているソフトウェアの名前を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Software Name
*s SystemUnit Software Name: "s52010"
** end
```

xStatus SystemUnit Software OptionKeys DualDisplay

システムにインストールされたオプション キーが、DualDisplay 機能をサポートしているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

False/True

例:

```
xStatus SystemUnit Software OptionKeys DualDisplay
*s SystemUnit Software OptionKeys DualDisplay: "true"
** end
```

xStatus SystemUnit Software OptionKeys HighDefinition

システムにインストールされたオプション キーが、HighDefinition 機能をサポートしているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

False/True

例:

```
xStatus SystemUnit Software OptionKeys HighDefinition
*s SystemUnit Software OptionKeys HighDefinition: "true"
** end
```

xStatus SystemUnit Software OptionKeys MultiSite

システムにインストールされたオプション キーが、MultiSite 機能をサポートしているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

False/True

例:

```
xStatus SystemUnit Software OptionKeys MultiSite
*s SystemUnit Software OptionKeys MultiSite: "true"
** end
```

xStatus SystemUnit Software OptionKeys NaturalPresenter

システムにインストールされたオプション キーが、NaturalPresenter 機能をサポートしているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

False/True

例:

```
xStatus SystemUnit Software OptionKeys NaturalPresenter
*s SystemUnit Software OptionKeys NaturalPresenter: "true"
** end
```

xStatus SystemUnit Software OptionKeys PremiumResolution

システムにインストールされたオプション キーが、PremiumResolution 機能をサポートしているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

False/True

例:

```
xStatus SystemUnit Software OptionKeys PremiumResolution
*s SystemUnit Software OptionKeys PremiumResolution: "true"
** end
```

xStatus SystemUnit Software OptionKeys RemoteMonitoring

システムにリモート モニタリング オプション キーがインストールされているかどうかを表示します。リモート モニタリング オプション キーは、Web インターフェイスと、リモートでペア化された Touch 10 からのスナップショットを有効にします。

返される結果の値スペース:

False/True

例:

```
xStatus SystemUnit Software OptionKeys RemoteMonitoring
*s SystemUnit Software OptionKeys RemoteMonitoring: "true"
** end
```

xStatus SystemUnit Software ReleaseDate

コーデックにインストールされているソフトウェアのリリース日を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Software ReleaseDate
*s SystemUnit Software ReleaseDate: "2015/05/05"
** end
```

xStatus SystemUnit Software Version

コーデックにインストールされたソフトウェアのバージョンを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Software Version
*s SystemUnit Software Version: "CE8.0.0"
** end
```

xStatus SystemUnit State NumberOfActiveCalls

アクティブなコールの数を示します。

返される結果の値スペース:

0 ~ 5

例:

```
xStatus SystemUnit State NumberOfActiveCalls
*s SystemUnit State NumberOfActiveCalls: 0
** end
```

xStatus SystemUnit State NumberOfInProgressCalls

進行中のコールの数を示します。

返される結果の値スペース:

0 ~ 5

例:

```
xStatus SystemUnit State NumberOfInProgressCalls
*s SystemUnit State NumberOfInProgressCalls: 0
** end
```

xStatus SystemUnit State NumberOfSuspendedCalls

一時停止中のコールの数を示します。

返される結果の値スペース:

0 ~ 5

例:

```
xStatus SystemUnit State NumberOfSuspendedCalls
*s SystemUnit State NumberOfSuspendedCalls: 0
** end
```

xStatus SystemUnit Uptime

コーデックの最後の再起動以降の秒数を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus SystemUnit Uptime
*s SystemUnit Uptime: 597095
** end
```

時刻 (Time) status

xStatus Time

時間ステータスのトップレベルの概要を示します。

xStatus Time SystemTime

システムに設定された日時を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Time SystemTime
*s Time SystemTime: "2014-04-25T10:04:03Z"
** end
```

UserInterface status

xStatus UserInterface

ビデオ ステータスのトップレベルの概要を示します。

xStatus UserInterface ContactInfo ContactMethod [n] Number

システムのアクティブな連絡先情報を返します。このアドレスは、このエンドポイントに到達するために使用されます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus UserInterface ContactInfo ContactMethod Number
*s UserInterface ContactInfo ContactMethod 1 Number: "12345678"
** end
```

xStatus UserInterface ContactInfo Name

システムのアクティブな連絡先名を返します。結果は、システムが登録されているプロトコル(もしあれば)によって異なります。自動的に設定された連絡先名がコマンド `xConfiguration UserInterface ContactInfo Type` でオーバーライドされている場合があります。その場合は、連絡先の不一致に関する診断警告が表示されます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus UserInterface ContactInfo Name
*s UserInterface ContactInfo Name: "MySystem"
** end
```

[ビデオ (Video)] status

xStatus Video

ビデオ ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus Video ActiveSpeaker PIPPosition

画面上のアクティブ スピーカー™ の画像の位置を表示します。

返される結果の値スペース:

UpperLeft/UpperCenter/UpperRight/CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight

例:

```
xStatus Video ActiveSpeaker PIPPosition
*s Video PIP ActiveSpeaker Position: UpperCenter
** end
```

xStatus Video Input

ビデオ入力ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus Video Input Connector [n] Connected

指定されたコネクタに何か接続されているかどうかを表示します。すべての接続を検出することはできません。

返される結果の値スペース:

False/True/Unknown

例:

```
xStatus Video Input Connector 1 Connected
*s Video Input Connector 1 Connected: True
** end
```

xStatus Video Input Connector [n] SignalState

指定された入力の信号状態を表示します。

Unknown: 信号フォーマットが不明です。

OK: 信号が検出され、信号フォーマットはサポートされています。

Unsupported: 信号は検出されましたが、信号フォーマットがサポートされていません。

返される結果の値スペース:

OK/Unknown/Unsupported

例:

```
xStatus Video Input Connector 1 SignalState
*s Video Input Connector 1 SignalState: OK
** end
```

xStatus Video Input Connector [n] SourceId

コネクタが関連付けられている入力ソースの識別子を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Video Input Connector 1 SourceId
*s Video Input Connector 1 SourceId: 1
** end
```

xStatus Video Input Connector [n] Type

コネクタ タイプを表示します。

返される結果の値スペース:

Composite/DVI/HDMI/Unknown/YC

例:

```
xStatus Video Input Connector 1 Type
*s Video Input Connector 1 Type: HDMI
** end
```

xStatus Video Input MainVideoSource

現在メイン ソースとして使用されているローカル ビデオ入力を返します。メイン ビデオ ソースは xConfiguration Video DefaultMainSource コマンドを使って設定します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Video Input MainVideoSource
*s Video Input MainVideoSource: 1
** end
```

xStatus Video Input Source [n] ConnectorId

入力ソースに関連付けられたコネクタの識別子を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Video Input Source 1 ConnectorId
*s Video Input Source 1 ConnectorId: 1
** end
```

xStatus Video Input Source [n] FormatStatus

ビデオ入力ソースの解像度フォーマットのステータスを示します。

返される結果の値スペース:

Ok/OutOfRange/NotFound/Interlaced/Error/Unknown

例:

```
xStatus Video Input Source 1 FormatStatus
*s Video Input Source 1 Resolution FormatStatus: Ok
** end
```

xStatus Video Input Source [n] FormatType

ビデオ入力ソースの解像度フォーマットのタイプを示します。

返される結果の値スペース:

Unknown/AnalogCVTBlanking/AnalogCVTReducedBlanking/AnalogGTFDefault/
AnalogGTFSecondary/AnalogDiscreteTiming/AnalogDMTBlanking/AnalogCEABlanking/Digital

例:

```
xStatus Video Input Source 1 FormatType
*s Video Input Source 1 Resolution FormatType: Digital
** end
```

xStatus Video Input Source [n] MediaChannelId

内部使用専用。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Video Input Source MediaChannelId
*s Video Input Source 1 MediaChannelId: 2
*s Video Input Source 2 MediaChannelId: 3
** end
```

xStatus Video Input Source [n] Resolution Height

ビデオ入力ソースの解像度の高さ(ピクセル単位)を示します。

返される結果の値スペース:

0 ~ 3000

例:

```
xStatus Video Input Source 1 Resolution Height
*s Video Input Source 1 Resolution Height: 1080
** end
```

xStatus Video Input Source [n] Resolution RefreshRate

ビデオ入力ソースの解像度のリフレッシュ レート (Hz) を示します。

返される結果の値スペース:

0 ~ 300

例:

```
xStatus Video Input Source 1 Resolution RefreshRate
*s Video Input Source 1 Resolution RefreshRate: 50
** end
```

xStatus Video Input Source [n] Resolution Width

ビデオ入力ソースの解像度の幅 (ピクセル単位) を示します。

返される結果の値スペース:

0 ~ 4000

例:

```
xStatus Video Input Source 1 Resolution Width
*s Video Input Source 1 Resolution Width: 1920
** end
```

xStatus Video Monitors

モニタ レイアウト モードを返します。

Single: 同じレイアウトがすべてのモニタに表示されます。

Dual: レイアウトは 2 台のモニタに分散されます。

DualPresentationOnly: 最初のモニタにはコールのすべての関係者が、2 番目のモニタにはプレゼンテーション (存在する場合) が表示されます。

Quadruple: レイアウトは 4 台のモニタに各リモート参加者とプレゼンテーションが別のモニタに表示されるように分散されます。

返される結果の値スペース:

Single/Dual/DualPresentationOnly/Triple/Quadruple

例:

```
xStatus Video Monitors
*s Video Monitors: Single
** end
```

xStatus Video Output

ビデオ出力ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus Video Output Connector [n] Connected

デバイス (ディスプレイなど) が出力コネクタに接続されているかどうかを示します。ディスプレイがスタンバイ モードに入っている場合は、エンドポイントがそれを検出できない場合があります。その場合、コネクタ ステータスはディスプレイが物理的に接続されていても False/Unknown を返します。

True: デバイスがビデオ出力コネクタに接続されています。

False: ビデオ出力コネクタには何も接続されていません。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 Connected
*s Video Output Connector 1 Connected: True
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC DeviceType

コーデックが検出した HDMI 出力に接続された CEC 対応デバイスのタイプを表示します。

この情報は、HDMI 出力に接続されたデバイスで CEC 機能が設定されており、コーデックの構成が xConfiguration Video Output Connector [n] CEC Mode で設定されている場合にのみ入手できます。

返される結果の値スペース:

Unknown/TV/Reserved/Recorder/Tuner/Playback/Audio

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 ConnectedDevice CEC DeviceType
*s Video Output Connector 1 ConnectedDevice CEC DeviceType: TV
** end
```


xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC PowerControl

コーデックが HDMI 出力に接続された CEC 対応デバイスを制御しているかどうかを表示します。この情報は、HDMI 出力に接続されたデバイスで CEC 機能がオンに設定されており、コーデックの構成で xConfiguration Video Output Connector CEC Mode がオンに設定されている場合にのみ入手できます。

返される結果の値スペース:

Unknown/Ok/In progress/Failed to power on/Failed to standby

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 ConnectedDevice CEC PowerControl
*s Video Output Connector 1 ConnectedDevice CEC PowerControl: Ok
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC PowerStatus

HDMI 出力に接続された CEC 対応デバイスの状態を表示します。この情報は、HDMI 出力に接続されたデバイスで CEC 機能がオンに設定されており、コーデックの構成で xConfiguration Video Output Connector CEC Mode がオンに設定されている場合にのみ入手できます。

返される結果の値スペース:

Unknown/Ok/In progress/Failed to power on/Failed to standby

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 ConnectedDevice CEC PowerStatus
*s Video Output Connector 1 ConnectedDevice CEC PowerStatus: Ok
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice Name

モニタ EDID で定義された HDMI ポートに接続されたモニタの名前を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 ConnectedDevice Name
*s Video Output Connector 1 ConnectedDevice Name: "G2420HDBL"
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice PreferredFormat

モニタ EDID で定義された HDMI ポートに接続されたモニタの推奨入力形式を表示します。これは、必ずしもコーデックが送信している形式ではありません。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 ConnectedDevice PreferredFormat
*s Video Output Connector 1 ConnectedDevice PreferredFormat: "1920x1080@60Hz"
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] MonitorRole

ビデオ出力コネクタに接続されたデバイス上に表示されるビデオ ストリームを示します。First/Second/Third: マルチモニタ セットアップでのモニタの役割。シングルモニタ セットアップでは、First、Second、および Third 間に違いはありません。PresentationOnly: アクティブなプレゼンテーション ビデオ ストリームを表示します。Recorder: ローカル メイン ビデオを含むすべての参加者を表示します。アクティブな場合は、プレゼンテーションも表示します。

返される結果の値スペース:

First/Second/Third/PresentationOnly/Recorder

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 MonitorRole
*s Video Output Connector 1 MonitorRole: First
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] Resolution Height

ビデオ出力コネクタの解像度の高さ (ピクセル単位) を表示します。

返される結果の値スペース:

120 ~ 3000

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 Resolution Height
*s Video Output Connector 1 Resolution Height: 1080
** en
```

xStatus Video Output Connector [n] Resolution RefreshRate

ビデオ出力コネクタの解像度のリフレッシュ レート (Hz) を表示します。

返される結果の値スペース:

1 ~ 300

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 Resolution RefreshRate
*s Video Output Connector 1 Resolution RefreshRate: 60
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] Resolution Width

ビデオ出力コネクタの解像度の幅 (ピクセル単位) を表示します。

返される結果の値スペース:

176 ~ 4000

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 Resolution Width
*s Video Output Connector 1 Resolution Width: 1920
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] Type

コネクタのタイプを表示します。

HDMI:HDMI コネクタです。

DVI:DVI コネクタです。

返される結果の値スペース:

HDMI/DVI

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 Type
*s Video Output Connector 1 Type: HDMI
** end
```

xStatus Video Presentation PIPPosition

画面上のプレゼンテーション画像の位置を表示します。

返される結果の値スペース:

UpperLeft/UpperCenter/UpperRight/CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight

例:

```
xStatus Video Presentation PIPPosition
*s Video PIP Presentation Position: CenterLeft
** end
```

xStatus Video Selfview FullscreenMode

セルフビューがフル スクリーン モードで設定されているかどうかを表示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Video Selfview FullscreenMode
*s Video Selfview FullscreenMode: Off
** end
```

xStatus Video Selfview Mode

セルフビュー モードがオンに設定されているかどうかを表示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Video Selfview Mode
*s Video Selfview Mode: Off
** end
```

xStatus Video Selfview OnMonitorRole

セルフビューを含むモニタ(もしあれば)を識別します。

返される結果の値スペース:

First/Second/Third/Fourth

例:

```
xStatus Video Selfview OnMonitorRole
*s Video Selfview OnMonitorRole: First
** end
```

xStatus Video Selfview PIPPosition

画面上のセルフビュー画像の位置を表示します。

返される結果の値スペース:

UpperLeft/UpperCenter/UpperRight/CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight

例:

```
xStatus Video Selfview PIPPosition
*s Video Selfview PIPPosition: LowerRight
** end
```

第 6 章
付録

スタートアップ スクリプトについて

コーデックに 1 つ以上のスタートアップ スクリプトを追加できます。スタートアップ スクリプトには、コーデックがブートするたびにスタートアップ手順の一部として実行されるコマンド (xCommand) およびコンフィギュレーション (xConfiguration) が含まれています。xCommand Boot など、いくつかのコマンドとコンフィギュレーションはスタートアップ スクリプトに配置することができません。

コーデックの Web インターフェイスを使用して、スタートアップ スクリプトの作成と管理を行います。

Web インターフェイスとスタートアップ スクリプトの詳細については、お使いの製品の管理者ガイドをお読みください。

SystemTools コマンド

注: systemtools コマンドは、コーデックの管理コントロールに使用され、コマンドライン インターフェイスからのみ使用できます。Systemtools はコーデックのプログラムに使用しないでください。

必須パラメータ (山カッコ) : <text>

オプション パラメータ (角カッコ) : [text]

サポートされるコマンドの概要を知るには、「systemtools ?」と入力します。

例:

```
systemtools ?
boothalt
camerarescue
idefixversion
touchpanelversion
license
network
ntp
pairing
passwd
pki
rootsettings
securitysettings
securitystatus
selectsw
sudo
whoami
```

コマンドの使用方法を知るには、コマンドの末尾に疑問符を追加します。

例:

```
systemtools network ?
usage: network ping <hostname> | traceroute
<hostname> | netstat | addr | ifconfig
```

systemtools boothalt allow

ユーザがシリアル コンソールを使用してブート ローダーのスタートアップ シーケンス中にシステムを停止できるようにします。

systemtools boothalt prevent

ユーザがシリアル コンソールを使用してブート ローダーのスタートアップ シーケンス中にシステムを停止できないようにします。

systemtools boothalt status

システムがブート ローダーのスタートアップ シーケンス中に停止できるかどうかを表示します。

systemtools license list

コーデックのすべてのライセンスを示します。

systemtools license show <name>

ライセンス ファイルの内容を示します。名前によって定義されます。
<name>: ライセンス ファイルの名前。

systemtools network ping <hostname>

Network デバッグ コマンド。
<hostname>: ホストの IP アドレスまたは URL。

systemtools network traceroute <hostname>

Network デバッグ コマンド。
<hostname>: ホストの IP アドレスまたは URL。

systemtools network netstat

Network デバッグ コマンド。

systemtools network addr

システムの IP アドレスをチェックします。

systemtools pairing unpair

Cisco TelePresence Touch コントローラとのアソシエーションを削除します。

systemtools passwd

ログイン ユーザのパスワードを変更します。

systemtools pki list

存在する場合、コーデックの証明書および CA リストを一覧表示します。

systemtools pki delete <cert-name>

存在する場合、コーデックの証明書および CA リストを削除します。
<cert-name>: 証明書の名前。

systemtools securitysettings jitc

セキュリティ要件をセットアップして JITC に合わせます。
コーデック上でパスワードおよび PIN ポリシーの強制を設定します。

systemtools securitysettings isjtc

現在の設定が JTIC に従っているか確認します。

systemtools securitysettings default

セキュリティ設定をデフォルトに戻します。

systemtools securitysettings ask

個別のコンフィギュレーションを照会します。このコマンドを発行するときに、各ポリシーを個別に表示することができます。

- 現在の値を保持するには、Enter キーを押します。
- 特定のポリシーを変更するには、番号を入力して Enter キーを押します。
- デフォルト値「0」は、制限がないことを示します。

Max failed login attempts [0]?

- ユーザ設定が非アクティブになるログイン失敗回数。

Suspend-time after max failed login attempts (minutes) [0]?

- 最大ログイン試行失敗回数を超えた後、ユーザが非アクティブに設定される分数。

Max simultaneous sessions total [0]?

- Web に同時にログインできるユーザの最大数および ssh/Telnet に同時にログインできるユーザの最大数。

Max simultaneous sessions per user [0]?

- ユーザ 1 人あたりの最大同時セッション数。

Number of passwords to remember [0]?

- 新しいパスワードが異ならなければならない、以前のパスワードの数。

Number of PINs to remember [0]?

- 新しい PIN が異ならなければならない、以前の PIN の数。

Maximum time between password renewals (days) [0]?

- ユーザが更新時間内にパスワードを変更していない場合、ユーザは非アクティブに設定されます。

Minimum time between password renewals (hours) [0]?

- ユーザはこの制限内でパスワードを一度だけ変更できます。

Maximum time between PIN renewals (days) [0]?

- ユーザが更新時間内に PIN を変更していない場合、ユーザは非アクティブに設定されます。

Minimum time between PIN renewals (hours) [0]?

- ユーザはこの制限内で PIN を一度だけ変更できます。

Maximum time between logins (days) [0]?

- ユーザがこの制限内にログインしていない場合、ユーザは非アクティブに設定されます。

Max consecutive equal digits in PINs [0]?

- PIN の同一数字の最大連続桁数。

Minimum number of digits in PINs [0]?

- PIN の桁の最小数。

Maximum number of digits in PINs [0]?

- PIN の桁の最大数。

Max consecutive identical characters in passwords [0]?

- パスワードの同一文字の最大連続数。

Minimum number of characters in passwords [0]?

- パスワードの最小文字数。

Maximum number of characters in passwords [0]?

- パスワードの最大文字数。

Minimum number of lower-case letters in passwords [0]?

- パスワードの小文字の最小数。

Minimum number of upper-case letters in passwords [0]?

- パスワードの大文字の最小数。

Minimum number of numerical characters in passwords [0]?

- パスワードの数値文字の最小数。

Minimum number of special characters in passwords [0]?

- パスワードの特殊文字の最小数。

Minimum number of character groups in passwords [0]?

- パスワードの文字グループの最小数。

Minimum number of character changed from previous password [0]?

- 以前のパスワードから変更する文字の最小数。

systemtools securitystatus

コーデックのセキュリティ ステータスを表示します。

接続解除原因タイプについて

コールが接続解除されると、次のパラメータが記録されます。接続解除原因タイプは、接続解除イベント (xEvent) で使用され、xHistory CallLogs にも記録されます。

| | |
|-------------|---|
| CauseType | コールが切断された理由を示します。値スペースは { OtherLocal, LocalDisconnect, UnknownRemoteSite, LocalBusy, LocalReject, InsufficientSecurity, OtherRemote, RemoteDisconnect, RemoteBusy, RemoteRejected, RemoteNoAnswer, CallForwarded, NetworkRejected } です。 |
| CauseString | 原因コードを記録します。 |
| CauseCode | 接続解除の原因コードは SIP および Q.850 で定義されています。 |
| CauseOrigin | SIP、Q.850、internal。 |

例 1:

```
xHistory CallLogs Call 694
...
*h xHistory CallLogs Call 694 DisconnectCause: "Normal"
*h xHistory CallLogs Call 694 DisconnectCauseType: RemoteDisconnect
*h xHistory CallLogs Call 694 DisconnectCauseCode: 16
*h xHistory CallLogs Call 694 DisconnectCauseOrigin: Q850
...
** end
```


シスコ Web サイト内のユーザ ドキュメンテーション

Cisco TelePresence 製品のユーザ ドキュメンテーションは、
 ▶ <http://www.cisco.com/go/telepresence/docs> で入手できます。

目的の製品が見つかるまで右ペインで製品カテゴリを選択します。次のパスに従ってください。

TelePresence 統合ソリューション >
 Cisco TelePresence SX シリーズ

または、次のショートリンクを使用してドキュメンテーションを見つけます。▶ <http://www.cisco.com/go/sx-docs>

ドキュメントは、次のカテゴリに編成されます。

インストールとアップグレード > インストールとアップグレード ガイド

- ・ インストレーション ガイド:製品のインストール方法
- ・ スタートアップ ガイド:システムを稼働させるために必要な初期設定
- ・ RCSI ガイド:法規制の遵守および安全に関する情報

保守と運用 > メンテナンスとオペレーション ガイド

- ・ スタートアップ ガイド:システムを稼働させるために必要な初期設定
- ・ 管理者ガイド:製品の管理に必要な情報
- ・ CUCM での CE エンドポイントの管理: Cisco Unified Communications Manager (CUCM) と一緒に製品の使用を開始するために実行するタスク

保守と運用 > エンドユーザ ガイド

- ・ ユーザ ガイド:製品の使用方法
- ・ クイック リファレンス ガイド:製品の使用方法

リファレンス ガイド / コマンド リファレンス

- ・ API リファレンス ガイド:アプリケーション プログラミング インターフェイス (API) のリファレンス ガイド

リファレンス ガイド > テクニカル リファレンス

- ・ CAD 図面:測定値を使用した 2D CAD 図面

設計 > 設計ガイド

- ・ ビデオ会議室ガイドライン:会議室の設計とベスト プラクティスに関する一般的なガイドライン
- ・ ビデオ会議室ガイドライン:認識される音質を向上させるためにやるべきこと

ソフトウェア ダウンロード、リリースと一般情報 > ライセンス情報

- ・ オープン ソース ドキュメンテーション:この製品に使用されているオープン ソース ソフトウェアのライセンスと通知

ソフトウェア ダウンロード、リリースと一般情報 > リリースノート

- ・ ソフトウェア リリース ノート

Intellectual property rights

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークボロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

ハード コピーおよびソフト コピーの複製は公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト (www.cisco.com/go/offices) をご覧ください。

TANDBERG はシスコの一部です。TANDBERG® is a registered trademark belonging to Tandberg ASA.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

シスコのお問い合わせ先

シスコの Web サイトでは、シスコの世界各地のお問い合わせ先を確認できます。

URL: ▶ <http://www.cisco.com/web/siteassets/contacts>

Corporate Headquarters:

Cisco Systems, Inc.

170 West Tasman Dr.

San Jose, CA 95134 USA